

県立高校再編(前期計画)の評価と今後の課題

平成26年6月

富山県教育委員会

はじめに

富山県教育委員会は、平成 19 年に「県立学校教育振興計画 基本計画」を策定し、一定の学校規模を確保するとともに、新しいタイプの高校を設置するなど、生徒が相互に切磋琢磨できる学習環境をつくることを目的として、平成 22 年 4 月、10 件の前期の再編統合を実施（新高校 5 校を開校）した。

これに伴い、平成 22 年度においては、平均学級数が 4.1 学級から 5.0 学級に大きく改善され、1 学年 3 学級以下の小規模校が 16 校から 8 校となるなど、生徒の学習環境の改善において大きな成果を収めている。しかしながら、本県における今後の中学校卒業予定者数は、当分の間は 1 万人台を推移するものの、平成 30 年には、1 万人を割り込み、以後急速に減少していくと見込まれることから、次の高校再編の議論が必要な状況になっている。

高校再編（後期計画）については、「基本計画」において、「前期計画が実施された後に、その再編状況を踏まえ、別途協議することが望ましい」とされている。このため、県教育委員会では、まずは、前期の再編計画の実施状況などを十分点検、評価を行うとともに、県立高校教育の一層の充実に向けた今後の課題について検討するため、平成 25 年 8 月、学識経験者、教育関係者、経済界の代表、保護者の代表などの委員 10 名及び学識経験者 2 名のアドバイザーからなる「県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題に関する検討委員会」を設置し、議論を進めてきた。

この冊子は、これまで 4 回にわたって検討委員会を開催し検討してきたことを、「県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題」として取りまとめたものである。

目 次

はじめに

I 県立高校再編（前期計画）の概要	1
1 再編計画における再編基準・再編数	
2 前期計画の対象校	
3 前期計画の実施手順	
4 前期計画における新高校の概要	
II 県立高校再編（前期計画）の評価と課題に関する検討の経過	4
1 第1回検討委員会(H25. 8. 27)	
2 教育委員会事務局による調査	
3 第2回検討委員会(H25. 11. 26)	
4 教育委員会事務局によるアンケートの実施等	
5 第3回検討委員会(H26. 2. 10)	
6 第4回検討委員会(H26. 6. 4)	
III 県立高校再編（前期計画）の評価	5
1 学校規模について	
2 教育活動の充実について	
3 新高校における魅力づくりのための取組みについて	
4 志願状況及び通学状況	
5 施設・設備の充実について	
6 前期再編の総括的評価	
IV 今後の課題	13
1 新しい時代への対応	
2 望ましい学校規模・配置	
3 学科の構成・配置	
おわりに	15

資料編

1	新高校5校の概要および各調査結果	17
1	「県立学校教育振興計画 基本計画」より	17
2	前期計画における再編統合	19
3	新高校の概要(「県立高等学校再編の前期実施計画」より)	20
4	再編前期計画による学科・定員の変化	25
5	新高校5校の状況	27
6	新高校5校の施設・設備	37
7	小規模校にあった学科の一般入試倍率の変化	43
8	新高校5校の通学時間の変化	45
9	新高校5校にかかるアンケート調査結果	
	(1)平成25年2・3月実施 生徒アンケート<3学年生徒全員>	
	平成25年2・3月実施 教員アンケート<全教員>	47
	(2)平成25年2・3月実施 生徒アンケート	
	<小規模校にあった学科に在籍する生徒>	52
	(3)平成25年11月実施 生徒アンケート	
	<新高校・比較校の3学年生徒全員>	57
10	中学校からの聞き取り調査結果	62
2	本県県立高校の現状	68
1	県内における高校の設置状況	68
2	県立高校(全日制)の配置	69
3	県立高校(全日制)の規模別・地区別配置の変化	70
4	県立高校(定時制・通信制)の配置	71
5	特別支援学校の配置	72
6	学校規模別学校数の割合(全国比較)	73
7	県立高校(全日制)地区別募集学科構成	74
8	中学3年生の学科別進学希望状況と学科別募集定員割合	75
9	中学校卒業予定者数と募集定員の推移	76
10	県立学校における近年の教育改革	77
11	本県高校教育における現状と検討の視点	79
3	県立高校再編(前期計画)の評価と今後の課題に関する検討委員会	83
1	これまでの検討経緯	83
2	設置要項	85
3	委員名簿	86
4	委員からの主な意見	87
5	アドバイザーからの意見(概要)	93

I 県立高校再編（前期計画）の概要

県立高校における再編の目的については、「県立学校教育振興計画 基本計画」において、全ての学校を1学年4から8学級とすることを目指し、一定の学校規模を確保するとともに、学習活動や学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨することができる学習環境をつくることとされた。また、県立高校を再編するに当たっては、小規模校など特定の学校を廃止するという形ではなく、小規模校を含む複数の学校を統合するという形で実施することが望ましいとされたことから、それに基づいて再編の検討を行った。

1 再編計画における再編基準・再編数 — 「県立学校教育振興計画 基本計画」(H19.12)

(1) 前期計画における再編基準

前期計画の再編基準については、次のとおりとすることが望ましい。

- ・1学年4学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校については、優先して検討する。
- ・より近い距離にある学校を優先して再編統合の検討の対象とする。

(2) 前期計画における再編数

- ・前期計画における県立高校の再編数については、5件程度とすることが望ましい。
- ・各地区の現在(H19)の学校配置等の実情を踏まえて計算すると、新川地区1件程度、富山地区1件程度、高岡地区2件程度、砺波地区1件程度となる。

(3) 後期計画の再編基準・再編数

- ・前期計画が実施に移された後に、その再編状況を踏まえ、別途協議することが望ましい。

2 前期計画の対象校 — 「前期計画における再編統合の基本的な枠組みについて」(H20.3.31)

5件の再編対象校については、「海洋高校と滑川高校」、「大沢野工業高校と富山工業高校」、「二上工業高校と高岡工芸高校」、「有磯高校と氷見高校」、「井波高校と福野高校」の10校を対象校とする。

3 前期計画の実施手順 — 「前期計画における再編統合後の新高校の骨格(素案)について」(H20.8.4)

- ・対象校の募集を停止し、同時に、新高校の募集を開始する。
- ・対象校の在校生は、卒業まで、入学した学校の校舎等において学習する。

4 前期計画における新高校の概要 - 「県立高等学校再編の前期実施計画」(H20.12)

前期計画における5件の再編統合による新高校の学科構成等については、以下のとおりとする。

海洋高校と滑川高校による新高校

(1) 学科構成

普通科 3学級 (120)	薬業科 1学級 (40)	商業科 1学級 (40)	海洋科 1学級 (40)
---------------------	--------------------	--------------------	--------------------

※()内は募集定員数
[以下同じ]

(2) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- 生徒の進路希望等に応じて、学科の枠を超えて横断的に科目選択ができる仕組み(総合選択制)を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- コミュニケーション能力の伸長や、地域・国際理解を深めることを目指し、全生徒が共通に学ぶ科目「コミュニケーション入門」を設定する。

大沢野工業高校と富山工業高校による新高校

(1) 学科構成

機械系			電気系	建設系	
機械 工学科 2学級 (80)	金属 工学科 1学級 (40)	電子機械 工学科 1学級 (40)	電気 工学科 2学級 (80)	建築 工学科 1学級 (40)	土木 工学科 1学級 (40)

(2) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- 全学科共通の履修科目「ものづくり学」を設定し、ものづくりの基礎基本をはじめ、工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶ。
- 各学科における専門的な知識や技術の習得を柱としながらも、系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目を設定する。

二上工業高校と高岡工芸高校による新高校

(1) 学科構成

機械系		電気系	建設系		工芸・デザイン系	
機械科 1学級 (40)	電子 機械科 1学級 (40)	電気科 1学級 (40)	建築科 1学級 (40)	土木 環境科 1学級 (40)	工芸科 1学級 (30)	デザイン ・ 絵画科 1学級 (40)

(2) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- 全学科共通の履修科目「ものづくり学」を設定し、ものづくりの基礎基本をはじめ、工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶ。
- 各学科における専門的な知識や技術の習得を柱としながらも、系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目を設定する。
- 両校の特徴や伝統を生かした環境教育の導入や、工芸・デザイン教育を拡充する。

有磯高校と氷見高校による新高校

(1) 学科構成

普通科	農業 科学科	海洋 科学科	ビジネス科	生活福祉科
4学級 (160)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)

(2) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- 生徒の進路希望等に応じて、学科の枠を超えて横断的に科目選択ができる仕組み(総合選択制)を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- 地域の自然や産業などについて、全生徒が共通に学ぶ科目「氷見学(仮称)」を設定する。

井波高校と福野高校による新高校

(1) 学科構成

普通科	農業環境科	福祉科
5学級 (200)	1学級 (30)	1学級 (40)

(2) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- 生徒の進路希望等に応じて、学科の枠を超えて横断的に科目選択ができる仕組み(総合選択制)を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- 全校生徒が、地域の自然や文化、産業等への理解を深め、探究力の伸長を図る学習や、緑化運動を行うなど、学校全体で取り組むことができる活動を充実する。



Ⅱ 県立高校再編（前期計画）の評価と課題に関する検討の経過

1 第1回検討委員会(H25. 8. 27)

県立高校再編（前期計画）によって、まずは、生徒が相互に切磋琢磨できる学校規模が確保できたということを確認し、今後、具体的に評価に関する検討を進めるに当たり、評価の基本的な考え方とそのため具体的な視点等について、意見交換を行った。

2 教育委員会事務局による調査

新高校に多くの生徒が入学している10校の中学校への聞き取り調査を実施した。また、第2回検討委員会において、新高校5校の校長から直接聞き取りを行うための事前調査を実施した。

3 第2回検討委員会(H25. 11. 26)

中学校への聞き取り調査結果を分析するとともに、新高校5校の校長から、学習の状況、進路の状況、部活動の状況等の観点から、再編の効果や課題等について、直接聞き取りを実施した。

4 教育委員会事務局によるアンケートの実施等

平成25年3月に新高校最初の卒業生（一期生）を対象に実施した悉皆のアンケート結果を分析するとともに、新高校に学ぶ生徒の評価が、他校の場合と比較してどのような状況であるかを検討するため、新高校と学校形態が類似した比較対照校の3年生を対象として悉皆のアンケート調査を実施し、分析した。

5 第3回検討委員会(H26. 2. 10)

新高校における生徒の満足度・達成度や規模の小さい学校から移設された学科の現状などを検討した。

また、県立高校教育における現状と検討すべき今後の課題について意見交換を行った。

6 第4回検討委員会(H26. 6. 4)

「県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題」（案）について意見交換を行い、これまでの検討内容をとりまとめた。

Ⅲ 県立高校再編(前期計画)の評価

1 学校規模について

全県立高校(全日制)の平均学級数は、前期再編を実施した平成22年度に大きく改善された。再編した学校だけでなくそれ以外の学校についても、学校規模を確保したことによって、生徒同士が切磋琢磨できる教育環境のもとで教育内容の充実が図られている。

【高校再編(前期計画)による県立高校(全日制)学校規模の変化】

	平均学級数	6学級以上の学校数	3学級以下の学校数
H21	4.1	6	16
H22	5.0	13	8

【検討委員会委員の意見】

- ・高校教育関係者の長年の課題であった高校再編が実現し、成果が現れている。その一方では地域に愛された学校が募集を行わなくなったという痛みも伴ったが、それを補って余りある。
- ・切磋琢磨できる教育環境が整い、しっかりした高校生を育てるための学校規模が確保できた。
- ・再編統合のねらいであった一定の学校規模を確保することによって、生徒同士が切磋琢磨できる教育環境の下で教育力の向上を図ることが、5校とも十分に達成されている。

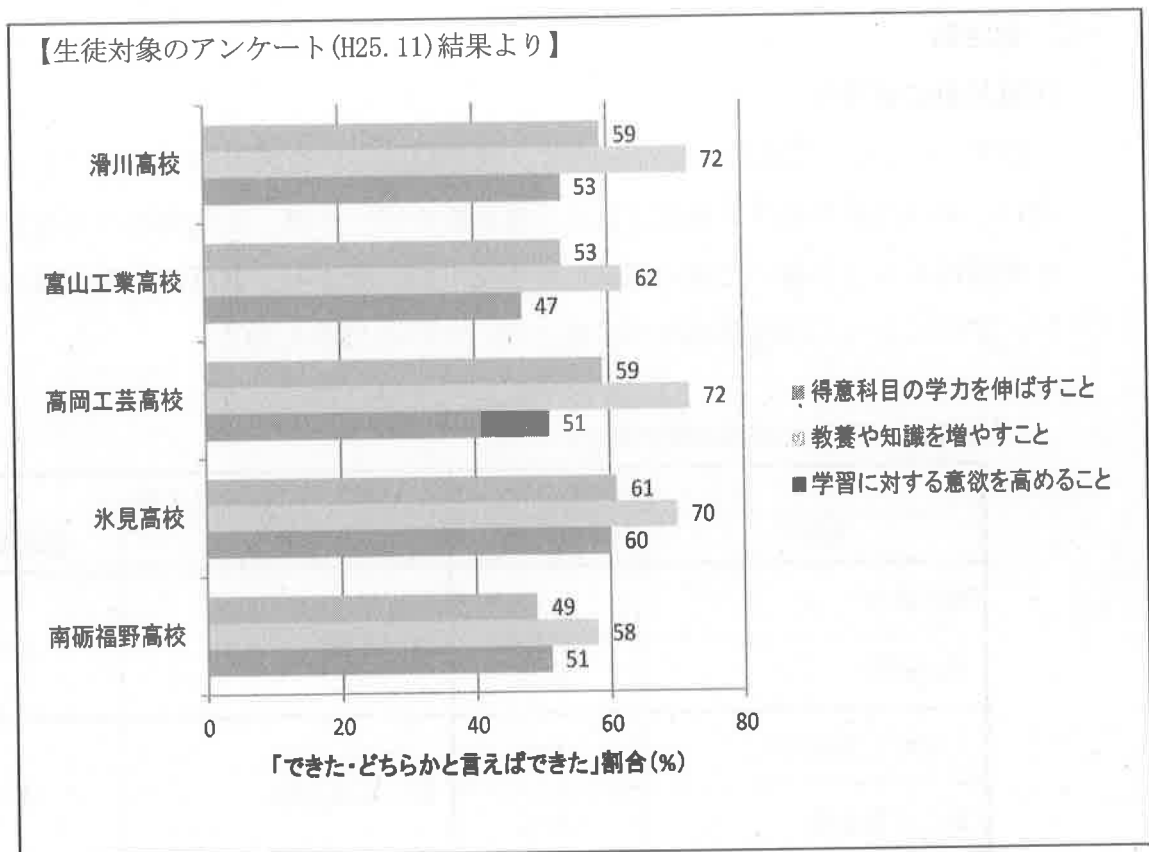
2 教育活動の充実について

(1) 学力動向・進路状況

①学力の充実

再編統合の後は、各教科の担当教員数が増加し、指導内容の充実を図ることができた。

新高校は学科の選択幅が広く、多様な進路に対応できることから、明確な目標を持って入学する生徒が多い。選択科目が増え、1学年に多くの教科担当教員を置けるようになったことで、個に応じた指導が可能になり、高校3年間での学力の伸びも大きくなると言える。資格検定等の結果からも学習の充実がうかがえる。



ただし、いずれの学校も、生徒数が増えたことにより、入学時の学力の幅が大きくなっており、どの生徒も学力を伸ばすことができるよう、一人一人の生徒の状況に応じた指導を工夫して行うことが必要である。

②進路の実現

3年間で培われる学力に加えて、部活動や学校行事における切磋琢磨も進路に良い影響を与えており、就職・進学ともに自分の希望をかなえる生徒が多くなっている。就職については、OBも多く活躍している地元の企業に就職する傾向が強く、旧高校の伝統がしっかりと受け継がれていると言える。

【中学校からの聞き取り】

- ・学科が多くあり、生徒に合ったところに進学できるのでありがたい学校だと思う。
- ・保護者は学習指導をしっかりとってくれる学校だと考えている。
- ・普通科は学力幅が大きいと思う。
- ・普通科は大学進学に、職業科は就職を視野に職業教育に力を入れていると思う。
- ・伝統校であり、各方面で活躍する優れたOBが多数いるので、就職にとっても有利であると、生徒に自信を持って勧めることができる。
- ・保護者は地元でしっかり就職していることを心強く思っている。

(2) 部活動

①部活動の活性化

運動・文化系の部活動全般において、部活動数・部員数が増え、活性化している。特に、滑川高校の海洋生物部、富山工業高校のボート部、氷見高校の弓道部のように小規模校から引き継いだ部の活躍はめざましい。ただし、部活動・部員数の増加に伴い、学校によっては活動場所が手狭となっている場合もある。

【再編前と再編後の部活動数の変化】

H 2 1		H 2 5	
高校名	部活動数	高校名	部活動数
海洋高校	1 1	滑川高校	2 6
滑川高校	2 3		
大沢野工業高校	1 9	富山工業高校	3 1
富山工業高校	2 7		
二上工業高校	1 6	高岡工芸高校	3 0
高岡工芸高校	2 8		
有磯高校	1 7	氷見高校	3 1
氷見高校	2 4		
南砺総合井波高校	1 4	南砺福野高校	3 2
南砺総合福野高校	3 1		

②生活面での生徒の意識向上

部活動の活性化は、生徒の生活面における意識向上にもつながっている。多くの学科の生徒が部活動で交流することによって、生活の規範、生活姿勢、服装等々が見直され、生徒たちは自分の学校に誇りを持って高校生活を送っている。

【中学校からの聞き取り】

- ・部の数は30余りに増えて、いろいろな思いで選べていいと思う。
- ・部活動は、小さい学校だと強くなりやすく、なかなかモチベーションが上がらないが、大きな学校となり部活動にも積極的に取り組める。
- ・部活動を通しての生徒指導が充実していると思っている。
- ・学業と部活動を両立させているというイメージが強い。

3 新高校における魅力づくりのための取組みについて

(1) 総合選択制高校3校における取組み

①総合選択制

「総合選択制」を導入した滑川・氷見・南砺福野の3校において、生徒同士が学科の枠を超えて学びあうことにより、他学科の生徒と切磋琢磨する気風が生まれてきている。また、生徒の多様な学習ニーズや進路希望に対応するという趣旨が生かされ、専門学科で普通教科にも関心を持つ生徒が増え、普通科においても新たな学習内容について関心を持つ生徒が出てきた。

課題として、専門学科の生徒の普通科目に対する学習ニーズが高い反面、普通科生徒は他学科科目の履修が低調という点が挙げられる。今後は、生徒の学習ニーズに合った総合選択制の運用を図ることが望ましい。

②学校設定科目

「コミュニケーション入門」(滑川高校)、「HIMI学」(氷見高校)、「とやま地球学」(南砺福野高校)など新設の学校設定科目は、当初のねらいを生かして、生徒の表現力や思考力、実践力を高める役割を果たしている。「コミュニケーション入門」では、生徒がプレゼンテーションや討論に慣れ、様々な場面で実践できるようになった。また、「HIMI学」、「とやま地球学」[※]などの地域と連携した学習により、地域行事への参加、ボランティア活動など、地域の方々に受け入れられている活動が活性化している。

※ HIMI学(2単位)

キャリア教育の一環として、1年生280名全員が氷見の自然や文化、産業から生きた知識を学び、学び方や生き方を考察する。氷見市ゆかりの講師による講演、施設見学などの校外活動、研究成果のグループ別発表会などを実施している。

とやま地球学(1単位)

2年次に、探究コースと福祉科の生徒全員と他の希望者が、校外でのボランティア活動、大学等の公開講座、地域での諸活動を体験し、その成果をレポートにまとめる。

【再編校校長の意見】

- ・学科の枠を超えることにより、他学科の生徒同士で切磋琢磨しあう雰囲気を感じられる。(滑川高校)
- ・生徒は、学科外の教員からも学ぶ機会が増え、多くの刺激を受けることができ、教員側も、他学科の生徒理解が図られ、生徒相談や生徒指導に活かすことができる。(滑川高校)
- ・「コミュニケーション入門」では、日本語リスニングで聞く技術、伝言ゲームや道案内、プレゼンテーションを通して話す技術を高め、ブレインストーミング、ディベートなどで話し合う技術を高めている。(滑川高校)

- ・「HIMI学」では、研究成果をグループ毎にプレゼンテーションする発表会を実施しており、生徒が主体的に学ぶ力を身につけ、他学科の学習内容を理解する良い機会となっている。(氷見高校)
- ・「とやま地球学」の活動では、生徒が授業で学ぶ知識教養を生かし、体験活動をもとに、コミュニケーション能力や進路意識を伸ばしている。(南砺福野高校)

(2) ものづくりの中核となる総合的な工業科高校2校における取組み

①ものづくり学

富山工業高校と高岡工芸高校の2校においては、機械・金属・電気・電子・建築・土木・デザイン・化学など主要な領域を広範に学習する「ものづくり学」により、工業の基礎基本が幅広く習得されている。生徒は、これまで無関係と思っていた分野でも、自分の専門分野と深い関連があることに気づくなど、工業科全体を見渡しながら自分の専門分野を考えられるようになり、専門学科に対する学習意欲が高まり、就職意識も高まっている。教員も学科の枠を越え、全員で協調して指導する体制が整った。

②学校の特色を生かす取組み

富山工業高校では、機械系・電気系・建設系という3つの系それぞれに、他の系に所属する生徒も選択できるような専門科目を設定したことにより、3年次での課題研究において、複数の学科にわたるテーマ設定が可能となり、共同実習がスムーズに行えるようになった。

高岡工芸高校では、二上工業高校の伝統を継承した環境学習を全学科通じて行っており、環境に対する意識の高揚が図られている。課題研究においても、工業系・芸術系の両面を活かした実習作品が制作されるようになった。

【再編校校長の意見】

- ・再編前は、各科独自に課題研究の課題テーマを設定して実施してきたが、再編後は、他科が担当する分野との関連等について互いに協議するなど、実践的なものづくりの方法を学ぶ良い機会となった。(富山工業高校)
- ・「ものづくり学」の実施により、工業系・芸術系の良い面を活かした実習作品が制作されるようになった。工業系ではデザインにも気を配るようになり、芸術系では溶接や制御技術等の方法でも表現することができるようになってきた。(高岡工芸高校)

4 志願状況及び通学状況

(1) 志願状況

再編前の小規模校では、定員割れを起こす学科もあったが、再編の結果、志望者数が定員を上回るようになった。特に海洋高校、有磯高校、南砺総合井波高校の専門学科においては、再編前は定員に満たない年が目立ったが、再編後は志願倍率が2倍を超える年も見られるようになった。このため、生徒の希望に応じた進路先のあり方という課題はあるが、より明確な目的意識を持って入学する生徒が増えている。

【再編前と再編後の一般入学者選抜志願倍率】

※下線は定員割れ

◎再編前 (H18～21年度入試)

海洋高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
海洋技術 スポーツ(50)	<u>0.62</u>	<u>0.38</u>	<u>0.60</u>	<u>0.83</u>
海洋食品 情報(30)	2.40	<u>0.87</u>	1.11	1.29

◎再編後 (H22～25年度入試)

滑川高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
海洋 (40)	2.32	2.05	2.55	2.20

有磯高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
農業科学 (30)	1.43	1.00	1.68	<u>0.52</u>
漁業 (12)	<u>0.67</u>	<u>0.92</u>	1.33	1.17
水産食品 (18)	1.36	1.47	1.21	<u>0.80</u>
生活福祉 (40)	1.68	<u>0.96</u>	<u>0.86</u>	<u>0.70</u>

氷見高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
農業科学 (20)	3.64	1.67	2.42	2.00
海洋科学 (20)	3.36	2.00	1.75	2.50
生活福祉 (40)	2.30	1.50	1.45	1.15

南砺総合井波高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
福祉 (50)	<u>0.94</u>	1.27	<u>0.81</u>	1.41

南砺福野高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
福祉 (40)	1.52	1.45	1.00	1.13

【中学校からの聞き取り】

- ・いろいろな学科があり、選択できるので良い。学科の枠を越えて様々な工夫がされていることも分かる。学校の印象が良くなっているので進学先として勧めやすい。
- ・倍率が高くなり、入るのが難しくなったと思う。
- ・進路先の選択において苦労している子どもたちがいるのも現実である。
- ・再編統合によってイメージの向上につながり、前向きにプライドをもって進路選択するようになっている。

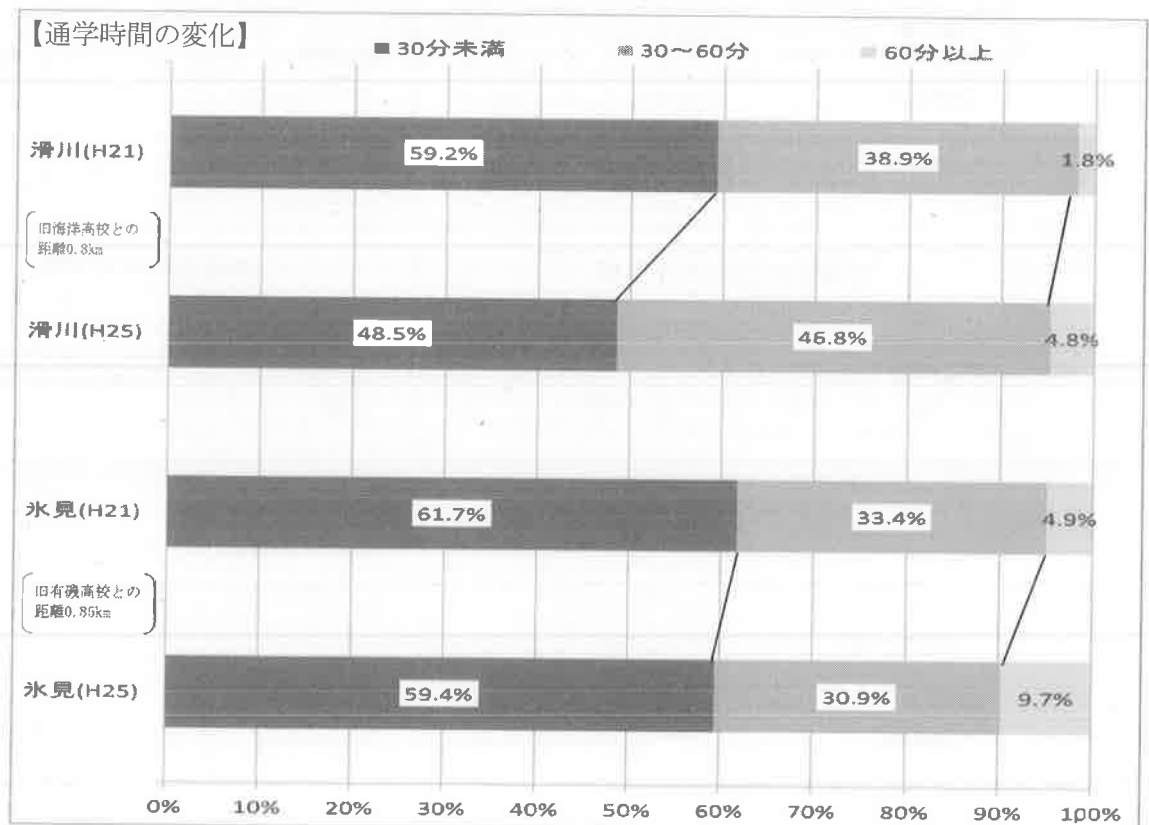
(2) 通学状況

生徒の通学時間は、再編後のどの高校においても通学に30分以上かかる生徒が増えている。

富山工業高校では、大沢野工業高校・富山西高校があった富山市南部地区から高山線など公共交通機関を利用して通学する生徒が倍増していることが一因と考えられる。



その他の学校については、比較的近い距離にある学校同士の統合であったことから、富山工業高校に見られるような再編後の通学時間増加の要因は明確ではないが、統合した2校の距離がごく近い滑川高校や氷見高校においても、通学時間の長い生徒が増えたということは、新高校がカリキュラムや施設設備等の充実により魅力が増し、遠方からでもその学校に通いたいという生徒が増えたものと推測される。



5 施設・設備の充実について

再編後の高校における施設・設備については、5校それぞれに実習棟を新設するなど、主に職業科教育の環境整備に重点が置かれている。総合選択制高校3校では小規模校にあった学科の施設を整備し、ものづくり中核校2校においては工業の総合的教育や新カリキュラムに対応した教育が可能な施設を整備した。こうしたことにより、総合実習室における複数学科の共同による課題研究の取組みや、大講義室での外部講師による講演なども可能になり、生徒の意欲・関心をより一層引き出している。

また、各専門学科のニーズに応え、最新の実習・実験設備を導入しており、生徒は最先端の技術を学ぶことができるなど、専門科目の学習内容がより深まっている。

【統合に伴って新たに充実された施設・設備の概要】

	新設の施設	主な設備
滑川高等学校	海洋科実習棟 (H23.11 竣工)	恒温器、6.6トン大型水槽 小型実習船(19t)
富山工業高等学校	総合実習棟 (H24.1 竣工)	CAD/CAMシステム、超音波探傷装置 トータルステーションシステム
高岡工芸高等学校	工芸・デザイン実習棟 (H23.10 竣工)	レーザー加工機、送電線路実験装置、水理実験装置、CGデザインシステム
氷見高等学校	総合実習棟 (H23.12 竣工)	ショックフリーザー、醗酵室、マイクロバス、農場用トラクター、魚艇(4.5t)
南砺福野高等学校	福祉実習棟 (H23.9 竣工)	ユニットバス、昇降式洗面化粧台、電動ベッド、介護リフト、洗髪車

6 前期再編の総括的評価

前期再編により、本県の全日制高校における学校規模が確保され、学習活動、学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨できる教育環境が整備された。

再編された新高校においては、統合した二つの学校の良いところを引き継ぎ、魅力ある学校づくりをすすめ、教育内容の充実が図られている。

総合選択制・ものづくり学などの新しい試みや地域に根ざした教育活動、新しく設置された施設設備などによって、生徒の学習意欲が向上している。

また、他学科との交流、活性化した部活動の中で、生徒の規範意識も向上している。新高校を卒業した生徒は、母校に対する誇りを持ち、地域に根ざした形で社会に出ている。

IV 今後の課題

1 新しい時代への対応

県内の中学校卒業予定者数は、今後、平成30年に1万人を割り込み、平成34年には9千人を割ることが予想されている。公私比率[※]を勘案すると、公立高校（全日制）ではH30年度からH34年度までの間に22学級程度（約5～6校に相当）の減となる。

こうした生徒の急激な減少に対して、毎年の学級編制だけで対応することは困難であり、今後、さらなる再編統合について検討する必要がある。

※ 公私協調の態勢により高校教育の充実を図ることを目的とする「富山県公立学校高等学校連絡会議」の合意に基づき設定。平成26～28年の全日制県立高校の受け入れ割合は、中学校卒業予定者数の71.2%程度。

【今後の中学校卒業予定者数の推移】

年 度	H26	H27	H28	H29	H30	H31	H32	H33	H34
中学校卒業 予定者数	10,063	10,187	10,122	10,142	9,685	9,572	9,326	9,030	8,929
前年度比		+124	-65	+20	-457	-113	-246	-296	-101

（平成25年学校基本調査<5/1>に基づく）

また、時代の変化に伴い、子どもたちが身につけるべき能力も多様になってきている。本県では、高校再編（前期計画）における教育改革の他にも、探究科学科の設置、県内4地区すべてにおける生涯学習校の整備などを進めてきた。

今後、さらに生徒が新しい時代に必要とされる力を身につけるために望ましい教育環境を構築するという視点から、中高一貫教育校など新しいタイプの高校の設置の可能性についても引き続き検討するとともに、国の教育改革の動き（大学入学者選抜制度の見直し、グローバル人材の育成に関わる英語教育の改革、学制についての検討等）に留意する必要がある。

なお、前期計画において実施した再編統合は、2校を同時に募集停止とし新高校を設置するという再編統合であったが、今後、再編を行う場合は、統合の形態、実施時期などについても改めて検討しなければならない。

また、定時制高校や特別支援学校について、その配置のあり方等を検討する必要がある。

【検討委員会委員の意見】

- ・将来の中学卒業予定者数を見ると、いずれ次の再編があつてしかるべきであり、今後適切な時期に高校の数や学科について検討する場が必要になると思う。
- ・子どもの数が減るから高校再編するというだけではなく、国の教育制度改革の方向を見据えて対応すべきでないか。
- ・職業系高校、中高一貫校、普通科高校など、子供達にどういった教育環境を提供してあげたいのかという視点で考えなければならない。

2 望ましい学校規模・配置

学校規模については、「県立学校教育振興計画 基本計画」において、「1 学年 5 から 6 学級(200 から 240 人)を基本とし、1 学年 4 から 8 学級(160 から 320 人)の規模の学校を配置することが望ましい」とされているところである。高校再編(前期計画)により、学校規模について一定の改善が図られたが、全国の学校規模と比較すると依然として小規模校が多い。また、本県における中学校卒業予定者数が平成 30 年以降急速に減少していくことが見込まれることから、今後、さらなる改善を図ることが必要である。

【学校規模別全日制高校の割合(%)と平均学級数】

学校規模	3 学級以下	4 学級	5 学級	6 学級	7 学級	8 学級	9 学級以上	平均学級数
富山県	21.1	31.6	15.8	10.5	18.4	2.6	0.0	4.8
全国	19.6	12.8	13.9	18.6	14.1	13.5	7.5	5.5

(平成 25 年全国公立高等学校第 1 学年募集状況調査に基づく)

「県立学校教育振興計画 基本計画」では、「地域の実情や学校の特色、生徒の通学の便等を勘案し、地区バランスにも十分配慮しなければならない」ともされており、教育の充実や進路状況、生徒・保護者のニーズ等についても配慮しながら、丁寧に検討を進めていくことが重要である。全ての生徒にとって、通学可能な地域内に、その進路希望に合った高校をバランスよく配置していく視点も必要である。また、学校には、それぞれ、歴史や伝統、地域の方々の学校に寄せる思いなどがあることから、高校再編を進める際には、市町村と協議するとともに、再編に関する情報を地域住民や保護者に的確に伝え、理解を得ながら慎重に進める必要がある。

【検討委員会委員の意見】

- ・適正な学校規模という視点から、もう少し再編していく必要がある。
- ・学校の規模が小さくても残さなければならないという場合も想定されるので、小さくても多様な教育が受けられる工夫が可能かどうか検討してみる必要があるのではないかと。
- ・次の再編を実施するとした場合、前期再編以上に地域との関係の問題が大きくなると思うので、マイナスの部分を少なくするように丁寧に議論を進めていく必要がある。
- ・小中学生の保護者の間で、高校の存続について噂が飛び交っている。不安を解消するため、今ある高校が少なくとも何年まで存続するかを示してもらいたい。
- ・地域の実情などを考慮した検討が必要だが、高校教育の質を維持する観点から再編を進めるべきである。
- ・生徒の学力等には個人差があり、それぞれに合った受け皿となる高校がバランスよく配置される必要がある。

3 学科の構成・配置

今後の再編を進めるにあたっては、普通系学科・職業系専門学科・総合学科の各学科の定員割合と配置、普通科に併設された1学級1学科の職業科のあり方など、学科の構成や配置の在り方についても、県全体の状況、地域の実情、全日制高校の各学科のこれまでの取組みを考慮した検討を進める必要がある。

※ 平成元年8月の「富山県産業教育審議会」の建議を踏まえ、以来、普通科66%程度、専門学科34%程度(総合学科を除く)を基本に設定している。

【検討委員会委員の意見】

- ・産業のニーズだけでなく、生徒の希望を尊重していかなければならない。
- ・生徒数が減少する中で、職業科で1学級1学科の職業科について、どのように対処するか考えなければならない。

おわりに

今後、このとりまとめを踏まえ、県立学校整備のあり方について引き続き検討を進めることとし、① 県立高校の望ましい規模や配置（「望ましい学校規模と地域バランスを考慮した学校の配置のあり方」、「再編の形態や実施時期」等）、② 職業科などの各学科の構成や配置（「普通科系学科、職業系専門学科、総合学科の各学科の定員割合と配置」、「普通科に併設された1学級1学科の職業科のあり方」等）、③ 時代のニーズに即した高校教育充実のための方策などの基本的なことについて、新たな検討委員会を設け、十分議論していくことが必要である。

県立高校の次の再編については、時代の大きな変化に対応するとともに、また生徒や保護者のニーズ等も考慮しながら、「高校生にとって、どういう教育を受けることが、その後の人生にとって良いのか、そのためには、県立高校は将来も見据えて、どのような姿が望ましいのか」など、教育充実の観点を基本にしながら、中長期的な視点に立って、いろいろな角度から丁寧に検討を進めることが必要である。

資料編

1 新高校5校の概要および各調査結果

1 「県立学校教育振興計画 基本計画」より

1 再編の進め方

県立高校の再編は、全ての学校を、1学年4から8学級とすることを目指し、一定の学校規模を確保するとともに、新しいタイプの高校を設置するなど、学習活動や学校行事、部活動の面で、生徒相互に切磋琢磨することができる学習環境をつくることを目的とするものである。

県立高校を再編するに当たっては、小規模校など特定の学校を廃止するという形ではなく、小規模校を含む複数の学校を統合するという形で実施することが望ましい。

また、県立高校の再編は、平成27年を見通して実施することとする。

再編の進め方については、中学生の進路に及ぼす影響等を考慮し、平成27年度までを前期（計画策定から平成24年度まで）、後期（平成25年度から27年度まで）の2期に分けて段階的に進めることが望ましい。

2 再編基準

前期計画及び後期計画の再編基準については、次のとおりとすることが望ましい。

[前期計画]

① 規模に関する基準

平成19年現在の学校規模が、1学年4学級未満又は160人未満の規模の学校については、再編統合の検討の対象とする。その際、1学年3学級未満又は120人未満など極めて規模の小さい学校については、優先して検討する。

② 配置に関する基準

前述の「第2節 2 既存の学校・学科の配置」における「工業科単独校を県内4地区に各1校配置すること」など既存の学校の配置に係る規定に該当する学校を優先して、再編統合の検討の対象とする。

③ 距離に関する基準

上記の「② 配置に関する基準」が適用された再編統合の対象となる学校以外の学校であって、再編統合の対象となる複数の学校については、生徒の通学の利便性など教育条件に配慮し、再編統合による生徒への影響が極力少なくなるよう、より近い距離にある学校を優先して再編統合の検討の対象とする。

なお、上記の規模に関する基準にかかわらず、複数校を再編統合し、中高一貫教育校や新しいタイプの学科を軸とした高校など新しいタイプの高校を設置することで、より高い教育効果が期待できると判断される場合においては、再編統合の検討の対象とすることが望ましい。

[後期計画]

後期計画における基準については、前期計画が実施に移された後に、その再編状況を踏まえ、後期計画における各地区の再編数も含めて、別途協議することが望ましい。

3 再編数

[前期計画]

前期計画における県立高校の再編数については、平成 27 年における望ましい学校数が基本的な学校規模である「1 学年 5 から 6 学級」に基づき算定すると 30 から 36 校となることを踏まえるとともに、現在の配置状況や望ましい学級数等を勘案して、5 件程度とすることが望ましい。

前期計画における地区別再編数については、平成 27 年における地区別の中学校卒業生数と基本的な学校規模である「1 学年 5 から 6 学級」に基づき算定した各地区の学校数や、各地区の現在の学校配置等の実情を踏まえて計算すると、新川地区 1 件程度、富山地区 1 件程度、高岡地区 2 件程度、砺波地区 1 件程度となる。

なお、上記の再編数にかかわらず、複数校を再編統合し、中高一貫教育校や新しいタイプの学科を軸とした高校など新しいタイプの高校を設置することで、より高い教育効果が期待できると判断される場合においては、再編統合の検討の対象とすることが望ましい。

[後期計画]

後期計画における再編数については、再編基準と同様、前期計画が実施に移された後に、その再編状況を踏まえ、別途協議することが望ましい。

2 前期計画における再編統合

通学区域（郡市）		再編前	再編後			
新 川	下新川郡	泊 (普) 入善 (普・農)	泊 入善			
	黒部市	桜井 (普・土・家)	桜井			
	魚津市	魚津 (普・理) 魚津工業 (工)	魚津 魚津工業			
	滑川市	滑川 (普・薬・商) 海洋 (水)	普通科と複数の職業系専門学科を設置した高校			
	中新川郡	上市 (総) 雄山 (普・家)	上市 雄山			
富 山	富山市	中央農業 (農) 八尾 (普) 富山西 (普・主) 富山 (普・理) 富山中部 (普・理) 富山北部 (普・薬・商) 富山工業 (工) 大沢野工業 (工)	中央農業 八尾 富山西 富山 富山中部 富山北部 ものづくりの中核となる総合的な工業科高校			
		富山商業 (商)	富山商業			
		富山いずみ (総・看)	富山いずみ			
		富山東 (普)	富山東			
		富山南 (普)	富山南			
		水橋 (普)	水橋			
		呉羽 (普)	呉羽			
		高 岡	射水市	小杉 (総) 大門 (普) 新湊 (普・商)	小杉 大門 新湊	
				高岡市	高岡 (普・理) 高岡西 (普) 高岡工芸 (工) 二上工業 (工)	高岡 高岡西 ものづくりの中核となる総合的な工業科高校
					高岡商業 (商)	高岡商業
					伏木 (国)	伏木
				氷見市	高岡南 (普) 福岡 (普) 氷見 (普・商) 有磯 (農・水・家)	高岡南 福岡 普通科と複数の職業系専門学科を設置した高校
		砺波市	砺波 (普・理) 砺波工業 (工)		砺波 砺波工業	
砺 波	南砺市	南砺総合高校福野 (普・農) 南砺総合高校井波 (普・福) 南砺総合高校福光 (普・国)	普通科と複数の職業系専門学科を設置した高校			
		南砺総合高校平 (普)	南砺総合高校福光 南砺総合高校平			
		小矢部市	石動 (普・商)	石動		

3 新高校の概要（「県立高等学校再編の前期実施計画」より）

1 海洋高校と滑川高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応等を考慮し、滑川高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1 学年 6 学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「薬業科」、「商業科」、「海洋科」の 4 学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	薬業科	商業科	海洋科
3 学級 (120)	1 学級 (40)	1 学級 (40)	1 学級 (40)

()内は募集定員数
[以下同じ]

(4) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、職業系専門学科の生徒が、他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② コミュニケーション能力の伸長や、地域・国際理解を深めることを目指し、全生徒が共通に学ぶ科目「コミュニケーション入門(仮称)」を設定する。
- ③ 全生徒によるインターンシップや地域行事等への参加、地域関係者等の講師招聘など、地域と連携し、学校全体で取り組むことができる活動を充実する。

2 大沢野工業高校と富山工業高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応や、生徒の通学の利便性等を考慮し、富山工業高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況、また、地区内における工業科の募集定員割合等を総合的に勘案し、1学年8学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「機械系」、「電気系」、「建設系」の3領域を柱とし、機械系には「機械工学科」、「金属工学科」、「電子機械工学科」の3学科、電気系には「電気工学科」の1学科、建設系には「建築工学科」、「土木工学科」の2学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

機械系			電気系	建設系	
機 械	金 属	電子機械	電 気	建 築	土 木
工学科	工学科	工 学 科	工学科	工学科	工学科
2学級 (80)	1学級 (40)	1学級 (40)	2学級 (80)	1学級 (40)	1学級 (40)

(4) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 全学科共通の履修科目「ものづくり学(仮称)」を設定し、ものづくりの基礎基本をはじめ、工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶ。
- ② 各学科における専門的な知識や技術の習得を柱としながらも、系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目を設定する。
- ③ 専門技術者の講師招聘や大学等と連携したものづくり人材育成などを推進する。

3 二上工業高校と高岡工芸高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応や、生徒の通学の利便性等を考慮し、高岡工芸高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況、また、地区内における工業科の募集定員割合等を総合的に勘案し、1学年7学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「機械系」、「電気系」、「建設系」、「工芸・デザイン系」の4領域を柱とし、機械系には「機械科」、「電子機械科」の2学科、電気系には「電気科」の1学科、建設系には「建築科」、「土木環境科」の2学科、工芸・デザイン系には「工芸科」、「デザイン・絵画科」の2学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

機械系		電気系	建設系		工芸・デザイン系	
機械科	電子機械科	電気科	建築科	土木環境科	工芸科	デザイン・絵画科
1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (40)	1学級 (30)	1学級 (40)

(4) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 全学科共通の履修科目「ものづくり学(仮称)」を設定し、ものづくりの基礎基本をはじめ、工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶ。
- ② 各学科における専門的な知識や技術の習得を柱としながらも、系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目を設定する。
- ③ 両校の特徴や伝統を生かした環境教育の導入や、工芸・デザイン教育を拡充する。
- ④ 専門技術者の講師招聘や大学等と連携したものづくり人材育成などを推進する。

4 有磯高校と氷見高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応等を考慮し、氷見高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1 学年 7 学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「農業科学科」、「海洋科学科」、「ビジネス科」、「生活福祉科」の 5 学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	農業科学科	海洋科学科	ビジネス科	生活福祉科
4 学級 (160)	1 学級 (40)		1 学級 (40)	1 学級 (40)

(4) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、職業系専門学科の生徒が、他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 地域の自然や産業などについて、全生徒が共通に学ぶ科目「氷見学(仮称)」を設定する。
- ③ 職業系専門学科におけるインターンシップの実施、地域の専門家等の講師招聘など、学校外の教育力を活用した教育を充実する。
- ④ 職業意識の向上や社会性の育成を図るため、職業系専門学科の生徒が共通に学ぶ「キャリアガイダンス(仮称)」の時間を設定する。

5 井波高校と福野高校による新高校

(1) 設置場所

新高校の設置場所については、現有施設の規模や設備の整備状況など多様な学科への対応等を考慮し、福野高校の校舎等を活用し設置するものとする。

(2) 学校規模

前期計画の期間中における新高校の学校規模については、新たな学科構成、設置場所における現在の施設・設備の規模などの状況等を総合的に勘案し、1 学年 7 学級とする。

(3) 学科構成

学科構成については、「普通科」、「農業環境科」、「福祉科」の 3 学科を設置し、各学科の学級数については、次のとおりとする。

普通科	農業環境科	福祉科
5 学級 (200)	1 学級 (30)	1 学級 (40)

(4) 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ① 生徒の進路希望や興味・関心などに応じて、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、職業系専門学科の生徒が、他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み（総合選択制）を導入し、生徒の多様な学習ニーズに対応できるようにする。
- ② 全生徒が、地域の自然や文化、産業等への理解を深め、地域における課題のより良い解決方法について、自ら考え、提案する活動に取り組む。
- ③ 「みどりの学校づくり」や「福祉の学校づくり」を柱として、全生徒が、緑化活動や福祉施設でのボランティア活動などに取り組む活動を充実する。

4 再編前期計画による学科・定員の変化

【 滑川高校 】

H 2 1		学級数	定員
海 洋	海洋技術スポーツ科	2	50
	海洋食品情報科	1	30

滑 川	普通科	3	120
	薬業科	1	40
	商業科	1	40

(8 学級 280 名)



H 2 2 ~		学級数	定員
新 滑 川	普通科	3	120
	薬業科	1	40
	商業科	1	40
	海洋科	1	40

(6 学級 240 名)

【 富山工業高校 】

H 2 1		学級数	定員
大 沢 野 工 業	機械科	1	40
	電子機械科	1	40
	電気情報科	1	40

富 山 工 業	機械科	1	40
	情報技術科	1	40
	金属工業科	1	40
	電気科	2	80
	建築科	1	40

富 山 西	土木科	1	40
-------------	-----	---	----

(10 学級 400 名)



H 2 2 ~		学級数	定員
新 富 山 工 業	機械工学科	2	80
	金属工学科	1	40
	電子機械工学科	1	40
	電気工学科	2	80
	建築工学科	1	40
	土木工学科	1	40

(8 学級 320 名)

【 高岡工芸高校 】

H 2 1		学級数	定員
二上工業	機械工学科	1	40
	環境科学科	1	40
高岡工芸	機械科	1	40
	電子機械科	1	40
	電気科	1	40
	建築科	1	40
	工芸科	1	40
	デザイン科		

(7学級 280名)

H 2 2 ~		学級数	定員
新高岡工芸	機械科	1	40
	電子機械科	1	40
	電気科	1	40
	建築科	1	40
	土木環境科	1	40
	工芸科	1	30
	デザイン・絵画科	1	40

(7学級 270名)

【 氷見高校 】

H 2 1		学級数	定員
有機磯	農業科学科	1	30
	漁業科	1	30
	水産食品科		
	生活福祉科	1	40
氷見	普通科	4	160
	商業科	1	40

(8学級 300名)

H 2 2 ~		学級数	定員
新氷見	普通科	4	160
	農業科学科	1	40
	海洋科学科		
	ビジネス科	1	40
	生活福祉科	1	40

(7学級 280名)

【 南砺福野高校 】

H 2 1		学級数	定員
南砺総合井波	普通科	1	40
	福祉科	2	50
南砺総合福野	普通科	4	160
	農業環境科	1	30

(8学級 280名)

H 2 2 ~		学級数	定員
南砺福野	普通科	5	200
	農業環境科	1	30
	福祉科	1	40

(7学級 270名)

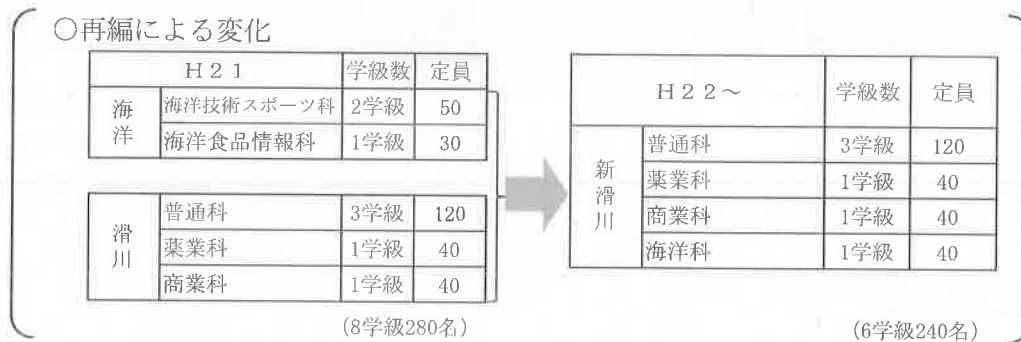
5 新高校5校の状況

【 滑川高校 】 普通科と専門学科3学科を併設する総合制高校 (平成22年に海洋高校と滑川高校を再編統合)

1 学科構成

学 科		普通科	薬業科	商業科	海洋科	合 計
募集定員		120名 (3学級)	40名 (1学級)	40名 (1学級)	40名 (1学級)	240名 (6学級)
在籍 者数	1学年	120	40	40	41	241
	2学年	120	40	40	38	238
	3学年	117	40	40	38	235

※在籍者数は平成25年5月1日現在



2 特色ある教育課程

- ・全学科で実施・・・「コミュニケーション入門」「滑高ゼミ」
- ・普通科で実施・・・「発展科目」「文理探究」
- ・職業科3学科で実施・・・「総合選択」

	1年	2年	3年
普通科	コミュニケーション入門	発展科目	発展科目
海洋科			文理探究
薬業科		総合選択	総合選択
商業科		滑高ゼミ	

3 「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

- ① 生徒の多様な学習ニーズに対応し、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み

<実施状況>

- ・総合選択制・・・(1)薬業科・商業科・海洋科の3学科で実施。自分の学科に加え、他の学科の科目を学習できる。
- (2)普通教科や専門学科に関連するテーマについて、少人数のゼミ形式で討論や実習等を行う講座を、普通科と職業科で別々に開設。(2年次の総合的な学習の時間に「滑高ゼミ」として実施)

【開設状況】

学科・学年 科目	普通科			専門学科		
	1年	2年	3年	1年	2年	3年
総合選択制					2	5
滑高ゼミ		1			1	

(単位数)

2年次6科目
数学探究・薬理学・潜水理論など
3年次8科目
リーディング・薬品化学・経済活動と法など

普通科…国文学・簿記概論・海洋科学など
専門学科…国語常識・スポーツ など

【履修状況】

	普通科	薬業科	商業科	海洋科
自学科関連科目	62	55	70	49
他学科関連科目	56	25	10	27

(普通科は滑高ゼミ<H24 後期>における2年生選択者数、 (名)
 専門学科は総合選択科目<H25>における2・3年生選択者数)

- ② コミュニケーション能力の伸長や、地域・国際理解を深めることを目指す、全生徒が共通に学ぶ科目の設定

＜実施状況＞

- ・コミュニケーション入門・・・1年次全学科の総合的な学習の時間で、ブレインストーミングやディベート、英語によるスピーチなどの活動を実施。

- ③ 地域と連携し、学校全体で取り組むことができる活動の充実

＜実施状況＞

- ・インターンシップ・・・H24年度は、1年生120名、2年生80名の計200名が、76社において体験
- ・地域行事などへの参加・・・海洋科と商業科が連携して魚介物缶詰を滑川市の竜宮祭りで販売、海洋科の全生徒によるビーチクリーンアップ活動に参加など

4 その他の状況

(1) 学びの質を高めるしくみ

- ・発展科目・・・普通科で大学進学を目指して英語・数学・国語に導入。
- ・文理探究・・・普通科3年次の総合的な学習の時間に、進路に対応した発展的内容を選択して探究する。

(2) 部活動の設置状況

	H21		H25
	海洋	滑川	新滑川
運動系	8	12	13
文化系	3	11	13
計	11	23	26

ウエイトリフティング部の+105kg級で全国総合体育大会優勝

海洋高校のサクラマス研究を海洋生物部で継承し、富山県の日本学生科学賞の最優秀賞を2年連続受賞

(3) 海洋科の併設に係る主な施設・設備

- 海洋科実習棟 (H23.11 竣工) 海洋科の栽培漁業を中心とする海洋系、船舶エンジンなどの工学系、水産食品加工系の3分野に対応した実習室7室を整備
- 設備 サクラマス栽培のための大型水槽、急速冷凍庫、低温冷風乾燥機
19t 小型実習船

5 再編についての学校の認識

- ・海洋科が加わったことで、薬業科、商業科への刺激となり、各専門学科においては、生徒を前面に出した取り組みが、質・量ともに向上した。
- ・部活動では、4学科の生徒が連帯感をもって意欲的に活動している。部員数が少なかった海洋高校と比べ、このことが最も生徒の活性化という意味で大きい。
- ・中学校からは、服装など生徒指導面で安心でき、学科の選択幅が広く多様な進路に対応できるなど、学校の特色が明確であるという良い評価をもらっている。
- ・従来海洋高校へ行っていたような生徒の進路の選択肢が狭まったとの声もある。

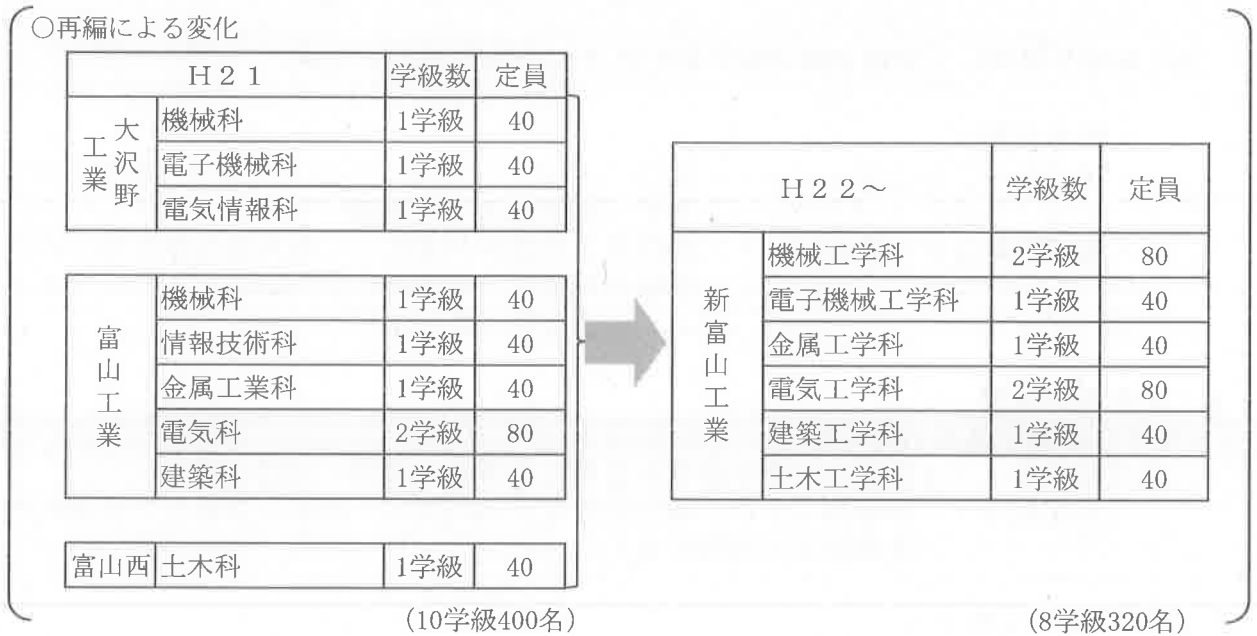
【 富山工業高校 】 ものづくりの中核となる総合的な工業科高校

(平成 22 年に大沢野工業高校と富山工業高校を再編統合)

1 学科構成

学 科		機械工学科	電子機械工学科	金属工学科	電気工学科	建築工学科	土木工学科	合 計
募集定員		80 名 (2 学級)	40 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	80 名 (2 学級)	40 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	320 名 (8 学級)
在 籍 者 数	1 学年	80	40	40	80	40	40	320
	2 学年	80	40	39	81	40	40	320
	3 学年	79	40	40	75	39	39	312

※在籍者数は平成 25 年 5 月 1 日現在



2 系の設置

各学科における専門的な知識や技術の習得を大切にしつつ、「機械」「電気」「建築」の各系に応じた基礎科目を学び、幅広い専門性を身につける。

機械系			電気系	建設系	
機械工学科	電子機械工学科	金属工学科	電気工学科	建築工学科	土木工学科

3 「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

- ① ものづくりの基礎基本や工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶこと

<実施状況>

- ・ものづくり学・・・高校 3 年間を通じて、他学科と知識・技術を共有し、ものづくりに必要な総合力を身につける。

【開設状況】

	1年	2年	3年
ものづくり学Ⅰ	3		
ものづくり学Ⅱ		2	
ものづくり学Ⅲ			3

(単位数)

専門科目「工業技術基礎」により、すべての学科に共通の基礎基本を身につけるための実習を受ける

学校設定科目により、「ものづくり概論」、「産業技術論」等についての学習

複数の学科間の協業によるテーマ設定も可能な課題研究

② 系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目の設定

＜実施状況＞

- ・「機械」「電気」「建設」の各系で、それぞれ基礎となる内容(機械系「生産システム技術」、電気系「電気基礎」など)を学び、幅広い専門性を学ぶ。

③ 専門技術者の講師招聘や大学等と連携したものづくり人材の育成

＜実施状況＞

- ・企業の第一線で活躍する熟練技術者や大学教員等を講師とし、先進的な取り組みやものづくりに対する姿勢などを直接伝授してもらう。(平成25年度は14企業2法人1大学に講師派遣を依頼)

4 その他の状況

(1) 部活動の設置状況

	H21		H25
	大沢野工業	富山工業	新富山工業
運動系	11	15	17
文化系	8	12	14
計	19	27	31

大沢野工業から引き継いだボート部が国体に出場

相撲ロボット等、各種ロボット競技大会で上位入賞

(2) 学科間の連携を可能にする新たな施設設備

○総合実習棟 (H24.1 竣工) 旋盤や計測装置、工具類などの実習機器を備え、複数の学科の生徒が共同研究できる総合実習室など、23室を整備

- 設備
- ・機械系…CAD/CAM (キャド・キャム) 装置
 - ・電気系…P.C制御装置送電線路実験装置
 - ・建設系…トータルステーションシステム

5 再編についての学校の認識

- ・ものづくり学は卒業後に職場で役立つ画期的な取り組みであり、社会のニーズに対応したスペシャリストとして活躍することができる資質を育めるようになった。
- ・「系」や「ものづくり学」の導入によって、全学科が一層協調して教育活動を行えるようになった。
- ・新規設備や新実習棟の整備により、各系の基礎基本をしっかりと学べるようになった。
- ・クラス数の増加により、各部活動の人数が増加し、切磋琢磨の雰囲気が高まり、好成績につながっている。一方、活動場所が手狭になり、十分な活動を行えない場合も出てきている。

【 高岡工芸高校 】 ものづくりの中核となる総合的な工業科高校

(平成 22 年に二上工業高校と高岡工芸高校を再編統合)

1 学科構成

学 科		機械科	電子 機械科	電気科	建築科	土木 環境科	工芸科	デザイン・ 絵画科	合計
募集定員		40 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	30 名 (1 学級)	40 名 (1 学級)	270 名 (7 学級)
在 籍 者 数	1 学年	40	40	40	40	40	30	40	270
	2 学年	40	39	40	41	39	30	39	268
	3 学年	40	40	39	37	40	31	40	267

※在籍者数は平成 25 年 5 月 1 日現在

○再編による変化

H 2 1		学級数	定員
工二 業上	機械工学科	1 学級	40
	環境科学科	1 学級	40

高岡 工芸	機械科	1 学級	40
	電子機械科	1 学級	40
	電気科	1 学級	40
	建築科	1 学級	40
	工芸科	1 学級	40
	デザイン科		

(7 学級 280 名)

H 2 2 ~		学級数	定員
新高岡 工芸	機械科	1 学級	40
	電子機械科	1 学級	40
	電気科	1 学級	40
	建築科	1 学級	40
	土木環境科	1 学級	40
	工芸科	1 学級	30
	デザイン・絵画科	1 学級	40

(7 学級 270 名)

2 系の設置

各学科における専門的な知識や技術の習得を大切にしつつ、「機械」「電気」「建設」「工芸・デザイン」の各系に応じた基礎科目を学び、幅広い専門性を身につける。

機械系		電気系	建設系		工芸・デザイン系	
機械科	電子機械科	電気科	建築科	土木環境科	工芸科	デザイン・絵画科

3 「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

- ① ものづくりの基礎基本や工業全般にわたる広い視野と応用力、ものづくりに対する総合的な見方・考え方を学ぶこと

<実施状況>

- ・ものづくり学・・・全生徒が共通に学び、工業全般における広い知識と応用力を身につける。

【開設状況】

	1 年	2 年	3 年
ものづくり学	1	1	
課題研究			3

(単位数)

学校設定科目により、1 年次にもものづくりの基礎基本を幅広く習得し、2 年次に環境学習に取り組む

工学系と芸術系の良さを相互に取り入れた研究や作品制作にも取り組む

② 系ごとに、複数の学科が共通に学ぶ専門科目の設定

＜実施状況＞

- ・「機械系」「電気系」「建設系」「工芸・デザイン」の各系で、それぞれ基礎となる内容(機械系「製図」、電気系「電気基礎」など)を学び、幅広い専門性を学ぶ。

③ 両校の特徴や伝統を生かした環境教育の導入や、工芸・デザイン教育の拡充

＜実施状況＞

- ・2年次の「ものづくり学」において、工業での実践を発展させ、新エネルギーやリサイクル技術、環境対策技術などの「環境学習」に取り組む。
- ・3年次の「課題研究」において、工学系と芸術系の良さを相互に取り入れた研究や作品制作にも取り組む。

④ 専門技術者の講師招聘や大学等と連携したものづくり人材の育成

＜実施状況＞

- ・企業の第一線で活躍する熟練技術者や伝統工芸の技能保持者、大学教員等を講師とし、産業技術や伝統的な技法、先進的な取り組み、ものづくりに対する姿勢などを学ぶ。(平成25年度は8企業に講師派遣を依頼)

4 その他の状況

(1) 部活動の設置状況

	H21		H25
	二上工業	高岡工芸	新高岡工芸
運動系	9	13	14
文化系	7	15	16
計	16	28	30

統合後に創設したハンドボール部の活躍

部員が4割増の吹奏楽部で、東日本吹奏楽大会金賞受賞

(2) 学科改編に伴う新たな施設設備

○工芸・デザイン実習棟 (H23. 10 竣工)

木材加工実習室、基礎デザイン実習室等、工芸・デザイン系の実習に対応した実習室 23 室を整備。窓には生徒作品を屋外に向けて展示できるショウウィンドウを設置

- 設備
- ・機械科…レーザー加工機
 - ・土木環境科…水理実験装置
 - ・デザイン・絵画科…CGデザインシステム

- 建築・電気・土木環境実習棟 (H26. 10 完成予定)
- ・電気科…送電線路実験装置 (実習棟完成時に導入)
- 機械実習棟 (H28. 3 完成予定)

5 再編についての学校の認識

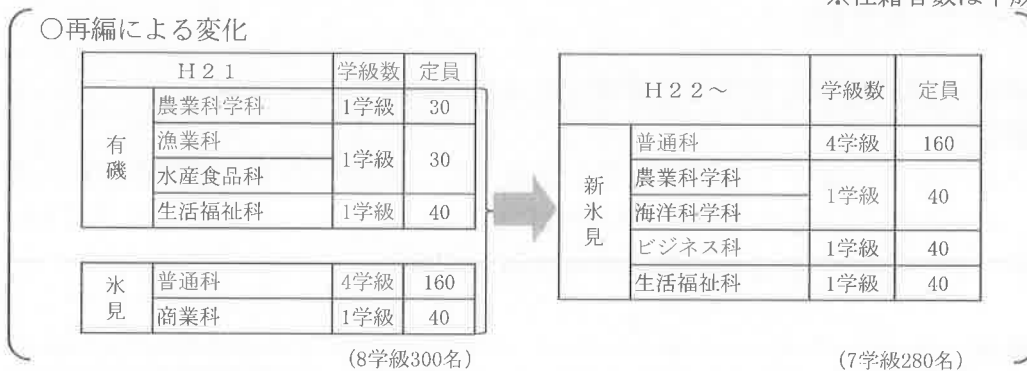
- ・芸術系学科が増員となり施設設備も増強され、県下一円から広く入学者が集まるようになり、目的意識が高い入学生が増えた。
- ・「ものづくり学」の実施により、工業系・芸術系の良い面を活かした実習作品が制作されるようになった。
- ・生徒が増え、これまで以上に部活動が盛んになった。
- ・教員も増え、二上工業から異動してきた教員は多くの教員と情報交換できるようになり、教育活動全般において意欲的に取り組んでいる。
- ・中学生にとって、高岡地区の工業高校が1校になったため、工業教育を学びその関連企業に就職希望の生徒にとって進路選択しやすくなった。

【 氷見高校 】 普通科と専門学科4学科を併設する総合制高校 (平成22年に有磯高校と氷見高校を再編統合)

1 学科構成

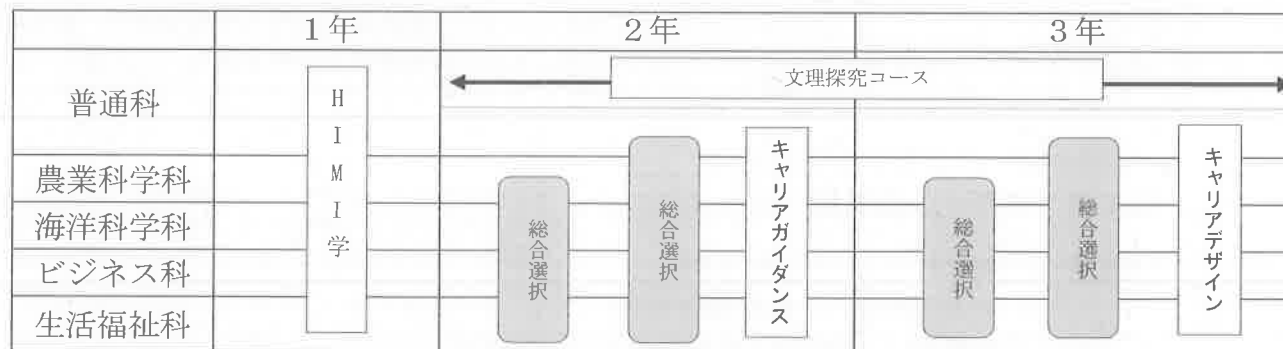
学 科		普通科	農業科学科	海洋科学科	ビジネス科	生活福祉科	合 計
募集定員		160名 (4学級)	(20名) 40名 (1学級)	(20名)	40名 (1学級)	40名 (1学級)	280名 (7学級)
在籍者数	1学年	161	20	20	40	40	281
	2学年	159	20	19	39	40	277
	3学年	157	19	19	40	40	275

※在籍者数は平成25年5月1日現在



2 特色ある教育課程

- ・全学科で実施・・・「HIMI学」「総合選択」「キャリアガイダンス」「キャリアデザイン」
- ・普通科で実施・・・「文理探究コース」



3 「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

- ① 生徒の多様な学習ニーズに対応し、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み

<実施状況>

- ・総合選択制・・・全5学科による総合選択制と専門学科4学科のみの総合選択制の2種類を開設。

【開設状況】

科目	学科・学年	普通科			専門学科		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
総合選択制(5学科)			2	2		2	2
総合選択制(4学科)						2	2

2年次 10科目
数学A・基礎英語 など
3年次 12科目
表現探求・食のルーツ など

2年次 8科目 化学探究・造園技術 など
3年次 7科目 マーケティング・福祉実施 など

(単位数)

【履修状況】

	普通科	農業科学科	海洋科学科	ビジネス科	生活福祉科
自学科関連科目	224	55	65	135	93
他学科関連科目	7	23	13	23	67

(普通科は全5学科による総合選択制<H25>における2・3年生選択者数、
専門学科は2つのタイプの総合選択科制<H25>における2・3年生選択者数) (名)

② 地域の自然や産業などについて、全生徒が共通に学ぶ科目の設定

＜実施状況＞

- ・HIMI学・・・1年次に、地域の豊かな自然や文化、産業などの地域研究を通して、人々の生き方等に接し、自分の進路を見出していく。

③ 地域と連携し、学校全体で取り組むことができる活動の充実

＜実施状況＞

- ・インターンシップ・・・H24年度は1年生42名、2年生148名が、3年生43名の計233名が11社において体験
- ・地域行事などへの参加・・・中山間地での低タンパク米の栽培、わかめ育成栽培体験、チャレンジショップの出店など

④ 職業意識の向上や社会性の育成を図るため、職業系専門学科の生徒が共通して学ぶ時間の設定

＜実施状況＞

- ・キャリアガイダンス・・・2年次に大学訪問や職場見学、高大連携による出前授業、インターンシップなどの実施。
- ・キャリアデザイン・・・3年次に進路実現に向けた学習支援などの実施。

4 その他の状況

(1) コース制の導入

- ・文理探究コース・・・2年次から普通科で1クラス開設。(H25：2年次文系12名、理系31名、3年次文系13名、理系28名)
2時間多い授業時数を確保し、探究的な学習にも重点を置く。

(2) 部活動の設置状況

	H21		H25
	有磯	氷見	新氷見
運動系	9	14	19
文化系	8	10	12
計	17	24	31

有磯高校の伝統を受け継ぐ弓道部が秋季大会において女子団体優勝

有磯高校の伝統を受け継ぐJRCを新設

(3) 農業科学科・海洋科学科・生活福祉科の併設に伴う新たな施設設備

- 総合実習棟 (H23.12 竣工) 最新の実習機器等を備え、農業・海洋水産・生活福祉の実践的な実習に対応する11室を整備
- 設備 ショックフリーザー、発酵室、実習船4.5t、藻場調査艇0.5t

5 再編についての学校の認識

- ・普通教科の教員を各学年に複数配置でき、教科・進路指導の充実につながっている。
- ・多学科の設置と生徒増により、部活動や学校行事の活性化を図ることができる。
- ・専門学科の生徒は、基礎学力の向上などを通して大学進学に対する意識が強まった。
- ・各専門学科主導から、各学年・分掌を主体とする運営組織となり戸惑いも見られる。
- ・市内唯一の高校として、大学進学や部活動における実績に注目され期待されている。

【 南砺福野高校 】 普通科と専門学科2学科を併設する総合制高校 (平成22年に南砺総合井波高校と南砺総合福野高校を再編統合)

1 学科構成

学 科		普通科	農業環境科	福祉科	合 計
募集定員		200名 (5学級)	30名 (1学級)	40名 (1学級)	270名 (7学級)
在籍 者数	1学年	200	30	40	270
	2学年	200	28	40	268
	3学年	198	30	39	267

※在籍者数は平成25年5月1日現在

○再編による変化

H21		学級数	定員
井総南 波合砺	普通科	1学級	40
	福祉科	2学級	50
福総南 野合砺	普通科	4学級	160
	農業環境科	1学級	30

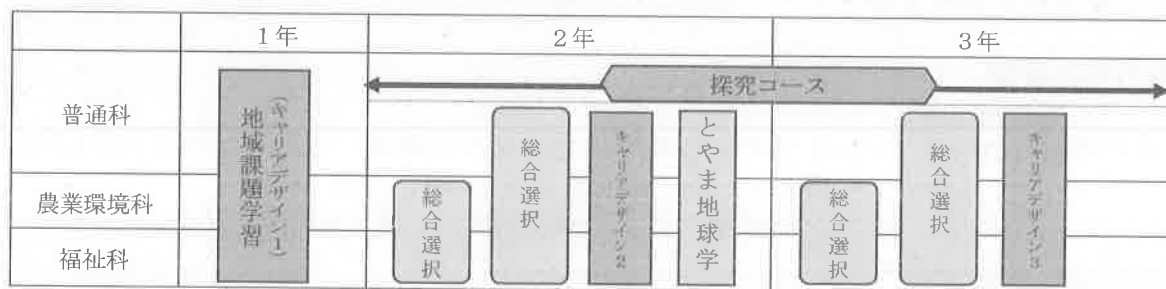
(8学級280名)

H22～		学級数	定員
福南 野砺	普通科	5学級	200
	農業環境科	1学級	30
	福祉科	1学級	40

(7学級270名)

2 魅力ある学校づくりのための仕組み

- ・全学科で実施・・・「キャリアデザイン」「総合選択」「とやま地球学」
- ・普通科で実施・・・「探究コース」



3 「魅力ある学校づくりのための仕組み」と実施状況

- ① 生徒の多様な学習ニーズに対応し、普通科の生徒が職業系の専門科目を学習したり、専門学科の生徒が他の職業系の専門科目や普通科の科目を学習したりできる仕組み

＜実施状況＞

- ・進路型総合選択制・・・自らの進路目標をもとに、全3学科共通の選択。
- ・専門学科総合選択制・・・農業環境科と福祉科の生徒が、進路希望に応じて、他学科の科目などを選択。

【開設状況】

科目	学科・学年	普通科			専門学科		
		1年	2年	3年	1年	2年	3年
進路型総合選択制			1	3		1	3
専門学科総合選択制						1	2

(単位数)

2年次
表現技術・園芸福祉 など
3年次
数学研究・環境緑地 など

2年次8科目
化学探究・造園技術 など
3年次7科目
マーケティング・福祉実施 など

【履修状況】

	普通科	農業環境科	福祉科
自学科関連科目	290	47	30
他学科関連科目	—	69	128

(名)

(普通科は進路型総合選択制<H25>における2・3年生選択者数、
専門学科は進路型および専門学科型総合選択科制<H25>における2・3年生選択者数)

- ② 全生徒が、地域の自然や文化、産業等への理解を深め、地域における課題のより良い解決方法について、自ら考え、提案する活動

＜実施状況＞

- ・地域課題学習・・・1年次の後半に、グループで南砺・砺波地域の自然や文化・歴史、産業などから課題を設定し、地域における課題のより良い解決方法について、自ら考え、提案する。
- ・とやま地球学・・・2年次に、探究コースと福祉科の生徒全員と他の希望者が、校外での体験活動やボランティア、大学での公開講座等に参加、その成果をレポートにまとめ、単位として認定。

- ③ 「みどりの学校づくり」や「福祉の学校づくり」を柱として、全生徒が、緑化活動や福祉施設でのボランティア活動などに取り組む活動

＜実施状況＞

- ・中学校が実施する学力向上セミナーにTAとして生徒が参加。
- ・壁面緑化指導や共学農園の実施。

4 その他の状況

(1) コース制の導入

- ・探究コース・・・2年次から普通科で1クラス開設。(H25：2年次文系17名、理系23名、3年次文系18名、理系22名)
国語・数学・英語の発展的な学習を実施。

(2) 部活動の設置状況

	H21		H25
	南砺総合井波	南砺総合福野	南砺福野
運動系	9	19	19
文化系	5	12	13
計	14	31	32

柔道部、なぎなた部でインターハイ出場

放送局、書道部、新聞部、弁論部で全国高文祭に出場

(3) 福祉科の併設に係る新たな施設設備

- 福祉実習棟 (H23.9 竣工) 電動ベットや簡易浴槽など実践に即した実習機器を備え、介護等に必要とされる基本技術等を習得できる介護福祉実習室2室を整備
- 設備 ユニットバス、昇降式洗面化粧台、昇降式調理台、電動ベッド
介護リフト、洗髪車

5 再編についての学校の認識

- ・新高校になり、様々な魅力と活力ある教育活動を取り入れており、学校に活気が出た。
- ・生徒は、文武両道で学習、部活動を両立しながら頑張っており輝いている。
- ・放課後に生徒同士が教え合うなど、南砺総合高校福野高校では見られなかった光景が多く見られるようになった。
- ・本校職員には南砺総合高校井波高校から異動してきた者も多く、井波高校の指導のノウハウも取り入れるなどして、指導の改善に努めている。
- ・外部からは、「生徒をしっかりと育てている」、「学習も部活動もしっかり取り組むように指導している」、「挨拶や服装がしっかりしている」など、良い評価を得ている。
- ・中学生、保護者、地域からは、安心感のある学校として受け止められている。

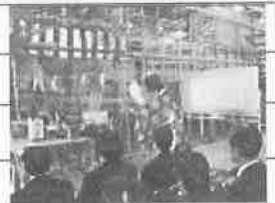
6 新高校5校の施設・設備

※新高校5校において、統合に伴って新たに充実された施設・設備の概要
(詳細は次ページ以降、各学校別に掲載)

	教育環境整備の主旨	新設の施設	主な設備
滑川高等学校	時代の変化に対応したこれからの水産業に求められる能力等を育成する充実した教育環境を整備	海洋科実習棟 (H23.11 竣工)	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温器 ・6.6トン大型水槽 ・小型実習船(19t)
富山工業高等学校	産業の先端技術にも対応し工業科の基幹となる機械・電気・建設系の実習を手厚く指導する充実した教育環境を整備	総合実習棟 (H24.1 竣工)	<ul style="list-style-type: none"> ・CAD/CAMシステム ・超音波探傷装置 ・トータルステーションシステム
高岡工芸高等学校	産業の先端技術にも対応し工学系と芸術系の両分野の工業教育を積極的に推進する充実した教育環境を整備	工芸・デザイン実習棟 (H23.10 竣工)	<ul style="list-style-type: none"> ・レーザー加工機 ・送電線路実験装置 ・水理実験装置 ・CGデザインシステム
氷見高等学校	農業・水産・生活福祉科が連携しての「食」に関する総合的な実習の実施など新カリキュラムに対応した充実した教育環境を整備	総合実習棟 (H23.12 竣工)	<ul style="list-style-type: none"> ・ショックフリーザー ・醗酵室 ・マイクロバス ・農場用トラクター ・魚艇(4.5t)
南砺福野高等学校	本県唯一の福祉科設置校として、地域福祉を担う人材育成に向け、実践的な充実した教育環境を整備	福祉実習棟 (H23.9 竣工)	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットバス ・昇降式洗面化粧台 ・電動ベッド ・介護リフト ・洗髪車

□教育環境の整備充実

(1) 実習棟の新築 等	
新実習棟 904 m ² (鉄鋼2階建て) H23.11 竣工	・海洋科の新カリキュラムに対応し、「獲る漁業からつくり育てる漁業へ」、「とる、育てる、加工する、販売する」をコンセプトに、栽培実習や工学実習、食品総合化学実習等を行う実習室を整備
改修	・H21 普通教室棟 (内部改修)
(2) 実習機器等教育備品の整備	
H21～23 に整備	・H21 恒温器 等 ・H23 6.6トン水槽、急速冷凍庫、低温冷風乾燥機
(3) 小型実習船の整備	
H23 建造	・小型実習船(19t)
(4) その他	
H21 に整備	・太陽光発電



海洋科実習棟

海洋科の栽培漁業を中心とする海洋系、船舶エンジンなどの工学系、水産食品加工系の3分野に対応した実習室7室を整備



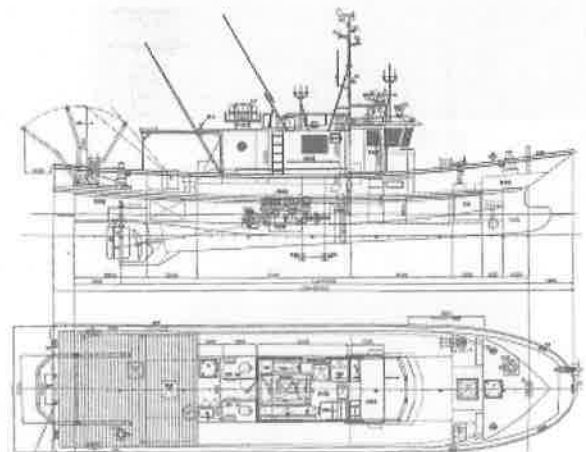
恒温器

薬業科や海洋科のバイオテクノロジーに関する実験実習において、一定の温度等条件を保ち微生物の培養等に使用



6.6トン大型水槽

これまでは水槽が小規模で実施できなかったサクラマス^①の成魚までの栽培を実践。深層水を使用することとしており、水の浄化や温度調節装置を装備



小型実習船(19t)

富山湾内での実習に対応。外洋でのマグロ延縄漁を行う450トンの雄山丸から転換。サクラマスの放流追跡調査やプランクトン調査などの各種調査、魚卵採取、回遊魚・甲殻類等の成長度調査のための漁獲実習、漁法実習など、幅広く対応

□教育環境の整備充実

(1) 実習棟の新築 等	
新実習棟 4,566 m ² (鉄筋5階建て) H24.1 竣工	・全学科共通の「ものづくり学」等の新カリキュラムに対応した新実習棟の建築
改修	・ H21 C棟、D棟 (耐震・内部改修)、渡り廊下 (耐震) ・ H23 管理教室棟 (耐震)
(2) 実習機器等教育備品の整備	
H21~23 に整備	<p>〔機械系〕 機械工学科・・・CAD/CAMシステム、大型(6尺)旋盤 電子機械工学科・PC制御装置 FA(ファクトリーオートメーション)システム 金属工学科・・・超音波探傷装置</p> <p>〔電気系〕 電気工学科・・・送電線路実習装置</p> <p>〔建設系〕 建築工学科・・・3次元CAD建築システム 土木工学科・・・トータルステーションシステム 等</p>
(3) その他	
H21 に整備	・太陽光発電



完成した総合実習棟

旋盤や計測装置、工具類などの実習機器を備え、複数の学科の生徒が共同研究できる総合実習室など、23室を整備



超音波探傷装置

casting products or welded parts, etc., internal damage, cracks, etc. can be checked by ultrasonic waves. It is possible to learn about the quality improvement or the characteristics of metal, etc. specifically through learning.



CAD/CAMシステム

従来、別々に行っていた「設計製図」「工作機械の加工データ作成」「工作機械による部品製造」の行程を、連続して実習できる。生産現場と同様の作業が可能



トータルステーションシステム

現場での測量データの記録・計算などの作業を自動的に行うことができる。実際の現場で普及している機材であり、即戦力の技術を習得

□教育環境の整備充実

(1) 実習棟の新築 等

新実習棟 2,736㎡(鉄筋4階建て) H23.10 竣工	・工芸科、デザイン・絵画科等の新カリキュラムに対応した新実習棟の建築
改修・解体	・H21 体育館(耐震) ・H21 家庭・理科棟、機械・旧志貴野実習棟(解体) ・H24 旧工芸・デザイン科実習棟(解体)

(2) 実習機器等教育備品の整備

H21~23に整備	[機械系] 機械科・・・レーザー加工機 電子機械科・・・FA(ファクトリーオートメーション)システム [電気系] 電気科・・・送電線路実験装置 [建設系] 建築科・・・3次元CAD建築システム 土木環境科・・・トータルステーションシステム、水理実験装置 [工芸・デザイン系] 工芸科・・・ルーターマシーン、集塵機 デザイン・絵画科・・・CGデザインシステム	等
-----------	--	---



工芸・デザイン実習棟

木材加工実習室、基礎デザイン実習室等、工芸・デザイン系の実習に対応した実習室23室を整備。窓には生徒作品を屋外に向けて展示できるショウウィンドウを設置



レーザー加工機

CADにより設計した形状に、あらゆる金属板を高速高精度に切断。金属加工について、先端の生産現場と同様の作業が可能



送電線路実験装置

送電設備の、原理や事故発生時の対応について模擬的に対処等を実習、電気工事士資格取得にも必要な装置



水理実験装置

流水の作用について各種の実験を行い、水理学の基礎から水環境の整備・管理技術を実践的に学習



CGデザインシステム

最新のコンピューターグラフィックソフトの使用技術を習得し、業界で必要とされるデザイン技術や表現技法を向上

□教育環境の整備充実

(1) 農業・水産・生活福祉新実習棟の新築 等	
新実習棟 1,805㎡(鉄筋3階建て) H23.12竣工	<ul style="list-style-type: none"> ・新カリキュラムに対応した農業バイオ実習や海洋環境実習、介護実習等を行う実習室を整備 ・食品加工実習室や調理実習室は、農水家の3学科に共通する「食」に関する加工・調理で、地元の食材を活用
改修	<ul style="list-style-type: none"> ・H21 普通教室棟北棟(内部改修) ・H21 渡り廊下(耐震) ・H24 東棟(暖房改修)・中央棟(外壁改修)
(2) 実習機器等教育備品の整備	
H21~24に整備	<ul style="list-style-type: none"> ・H21 ショックフリーザー、マイクロバス(29人乗)、小型トラクター、魚艇4.5t 藻場調査艇0.5t 等 ・H23 醗酵室、燻製機、蒸気ボイラー、ビニールハウス ・H24 肉挽き機、油濾過器、包丁まな板殺菌庫
(3) 実習農場、農場実習棟の整備	
①実習農場 H22 氷見市から購入	<ul style="list-style-type: none"> ・氷見高校隣接地で畑地を造成、効率的に実習 ・ビニールハウスを整備、野菜・草花の集約農業を実習
②農場実習棟 S1、480㎡ H25 竣工	<ul style="list-style-type: none"> ・農場実習に伴う育苗作業や生産物の出荷準備、用土配合や機械整備等、農場運営に必要な実習全般を一括して実施
(4) その他	
H21に整備	<ul style="list-style-type: none"> ・太陽光発電(合わせて屋上防水)



農業・水産・生活福祉実習棟
 最新の实習機器等を備え、農業・海洋水産・生活福祉の実践的な実習に対応する11室を整備

※食品加工調理の実習機器は農業・海洋・家庭の3学科で共同使用



ショックフリーザー

緩慢冷凍では味が落ちることから、急速冷凍で高品質のレトルト食品等を製造



醗酵室

栽培した作物等を使用し味噌や漬物などの発酵食品を製造



マイクロバス

有磯高校の農場や実習棟などでの実習、乗船実習での氷見漁港への生徒移動に使用



農場用トラクター

老朽化の著しかったトラクターを更新。農場での各種耕作に効率的に対応



魚艇(4.5t)

氷見漁港沿岸で漁法実習や海洋調査等を実習。さらに小型の調査艇で、漁場保全のための藻場の造成を実施

□教育環境の整備充実

(1) 福祉実習棟の新築 等	
新実習棟 693㎡(鉄筋2階建て) H23.9竣工	・福祉科の新カリキュラムに対応し、介護実習室を2室設置するとともに、入浴設備や電動ベッドなど、福祉の現場に即した設備や実習機器を整備
改修	・H21 体育館(耐震・照明改修)等 ・H22 特別教室棟(耐震) ・H23 食堂・LL教室(耐震)
(2) 実習機器等教育備品の整備	
H21に整備	・H21 ユニットバス、昇降式洗面化粧台、昇降式調理台、流し台、電動ベッド、介護リフト、洗髪車 等 ※その他の実習機器は井波高校から移設
(3) その他	
H21に整備	・太陽光発電



福祉実習棟

電動ベッドや簡易浴槽など実践に即した実習機器を備え、介護等に必要とされる基本技術等を習得できる介護福祉実習室2室を整備



ユニットバス

介護施設における入浴及び家庭での入浴を想定した介助を学ぶ際に使用する家庭用ユニットバス



昇降式洗面化粧台

要介護者の洗顔・整髪を想定した介護を学ぶ際に使用。要介護者の身長等に応じ、洗面台の高さを調整できる仕様



電動ベッド

要介護者の体位変換、ベッド上での食事介助、安楽な体位の保持などを学ぶ際に必要な普及型電動ベッド



介護リフト、洗髪車

要介護者のベッドからの移動や臥床したまま洗髪する介助を学ぶ際に使用する機器

7 小規模校にあった学科の一般入試倍率の変化

※小規模校から引き継がれ新高校に新設された学科、あるいは小規模校にあった学科の特色が新高校に色濃く引き継がれている学科について、統合前の平成18～21年度の4年間と、統合後の平成22～25年度の4年間における一般入試の倍率を示したもの

- ・(募集定員)は推薦入試による入学者も含めた人数
- ・下線は定員割れ。

◎再編前 (H18～21年度入試)

海洋高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
海洋技術 スポーツ(50)	<u>0.62</u>	<u>0.38</u>	<u>0.60</u>	<u>0.83</u>
海洋食品 情報(30)	2.40	<u>0.87</u>	1.11	1.29

◎再編後 (H22～25年度入試)

滑川高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
海 洋 (40)	2.32	2.05	2.55	2.20

大沢野工業高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
電子機械 (40)	1.91	1.31	1.41	1.14
電気情報 (40)	1.88	2.00	1.46	1.64

富山工業高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
電子機械工学 (40)	1.84	2.05	2.95	1.82

富山西高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
土木 (40)	1.41	1.71	1.32	1.39

富山工業高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
土木工学 (40)	3.23	2.25	3.14	2.17

二上工業高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
環境科学 (40)	1.74	1.24	1.26	<u>0.91</u>

高岡工芸高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
土木環境 (40)	2.45	2.55	1.88	2.26

有磯高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
農業科学 (30)	1.43	1.00	1.68	<u>0.52</u>
漁業 (12)	<u>0.67</u>	<u>0.92</u>	1.33	1.17
水産食品 (18)	1.36	1.47	1.21	<u>0.80</u>
生活福祉 (40)	1.68	<u>0.96</u>	<u>0.86</u>	<u>0.70</u>

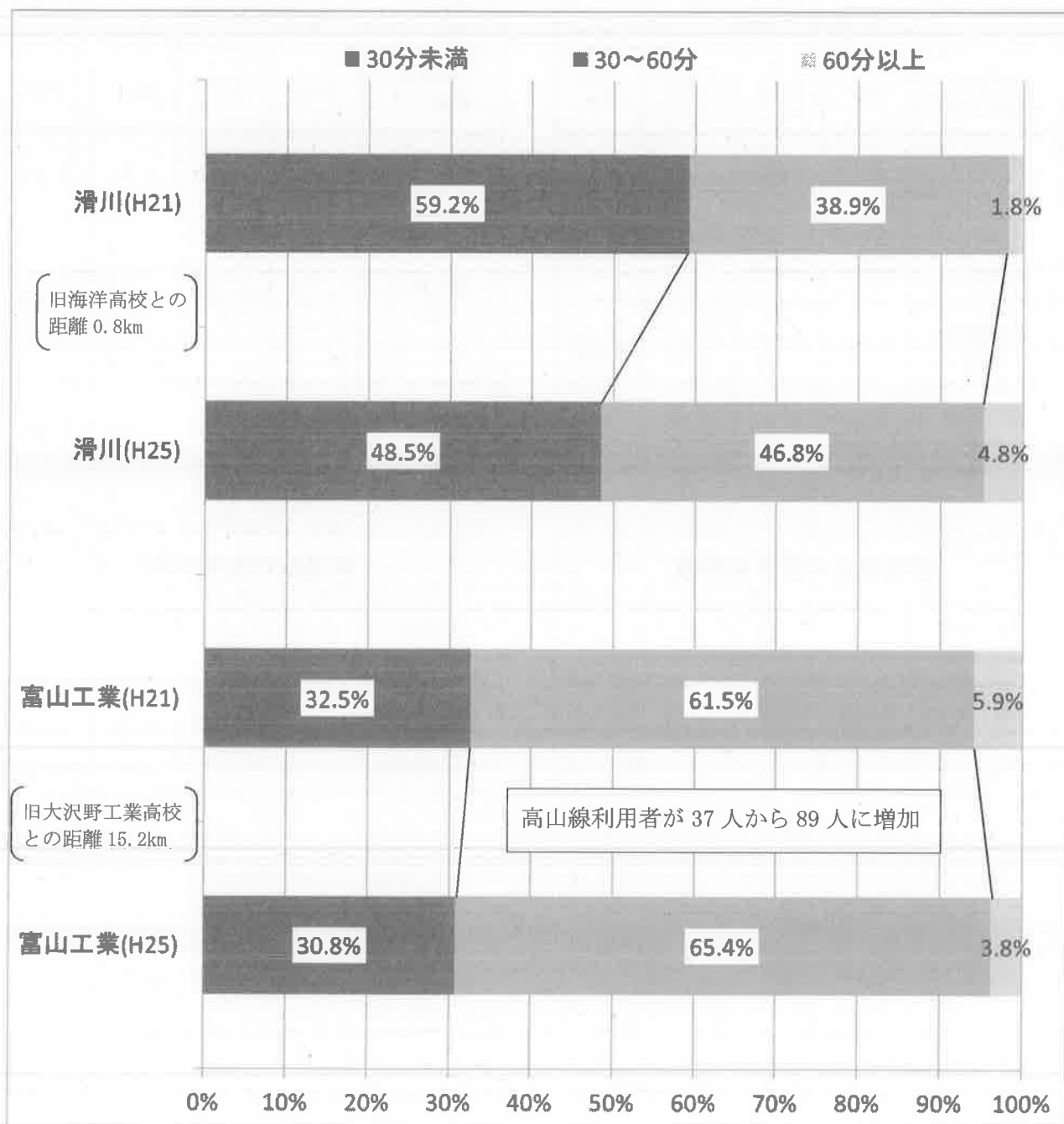
氷見高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
農業科学 (20)	3.64	1.67	2.42	2.00
海洋科学 (20)	3.36	2.00	1.75	2.50
生活福祉 (40)	2.30	1.50	1.45	1.15

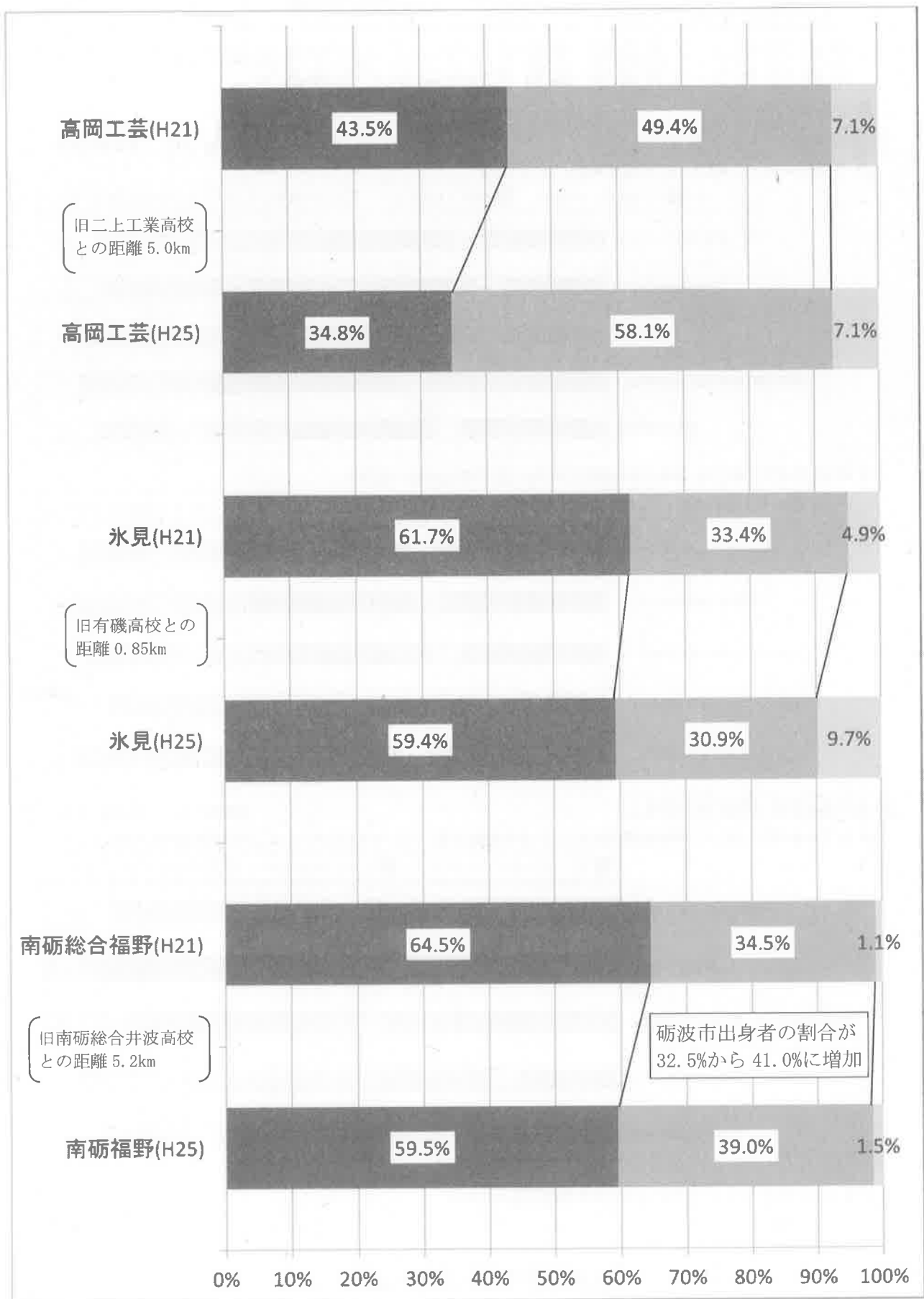
南砺総合井波高等学校				
旧学科 (募集定員)	H18	H19	H20	H21
福祉 (50)	<u>0.94</u>	1.27	<u>0.81</u>	1.41

南砺福野高等学校				
新学科 (募集定員)	H22	H23	H24	H25
福祉 (40)	1.52	1.45	1.00	1.13

8 新高校5校の通学時間の変化

※新高校5校について、統合前の平成21年度と統合後の平成25年度における全校生徒の通学時間を、「30分未満」、「30～60分」、「60分以上」の3段階でその割合の変化を示したもの（「学校管理指導計画」に基づく）





9 再編統合校にかかるアンケート調査結果

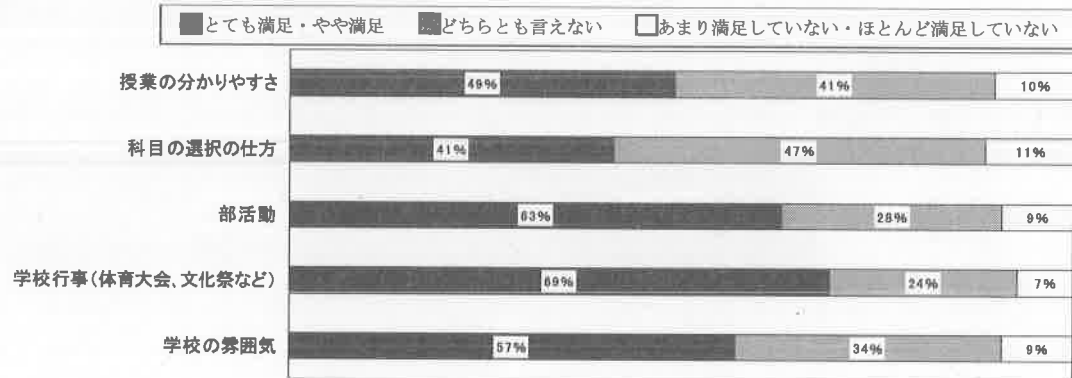
(1) 平成 25 年 2・3 月実施 生徒アンケート<3 学年生徒全員>
平成 25 年 2・3 月実施 教員アンケート<全教員>

< 滑川高校 >

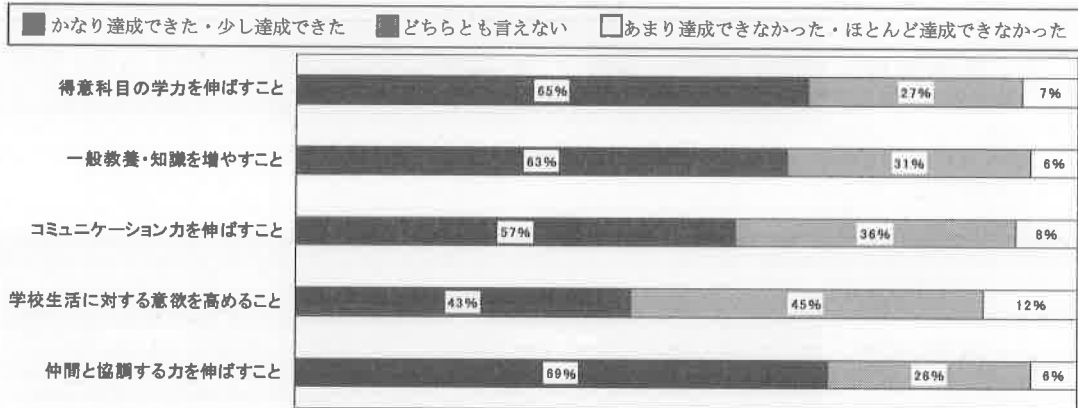
生徒対象

回答数: 216 回収率: 92%

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



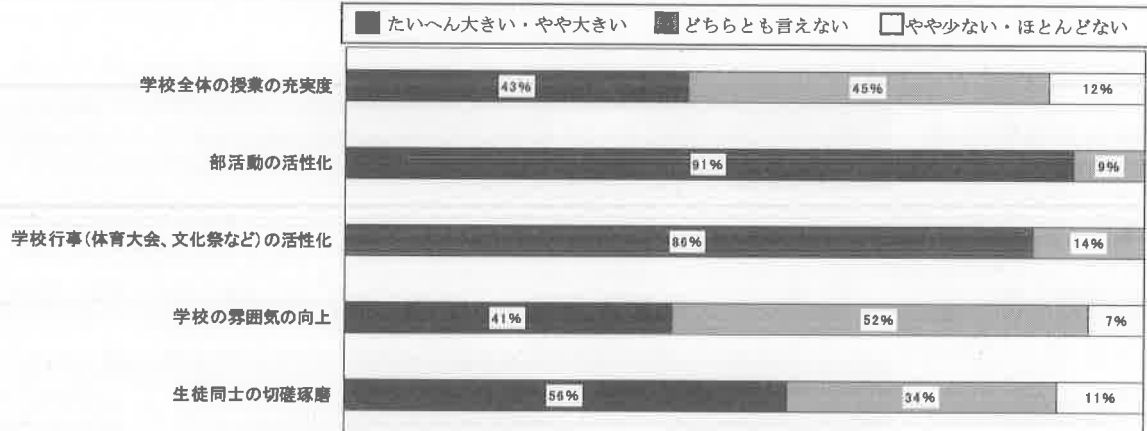
◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



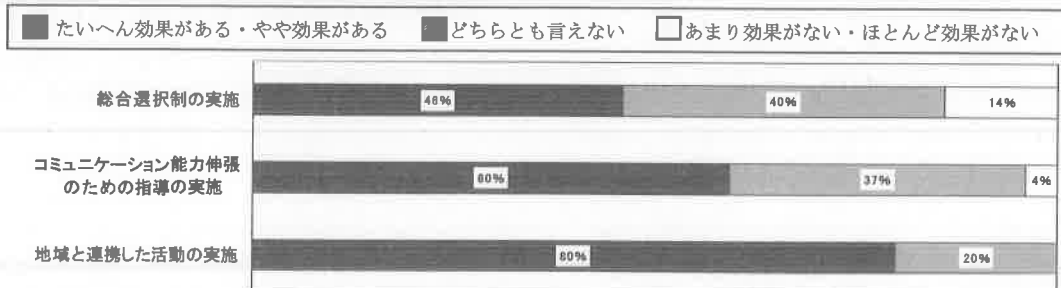
教員対象(教頭・教諭・実習助手)

回答数: 58 回収率: 95%

◆ 以下の各項目に対して、学校規模が大きいこと(全生徒数が多いこと)で生じるメリットは、どの程度だと思いますか。



◆ 魅力ある学校づくりが、生徒の成長にどの程度効果があるか。

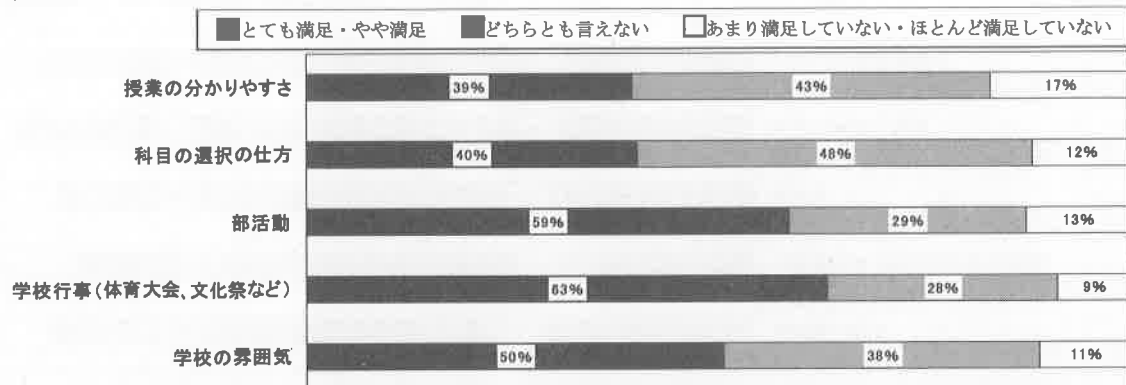


< 富山工業高校 >

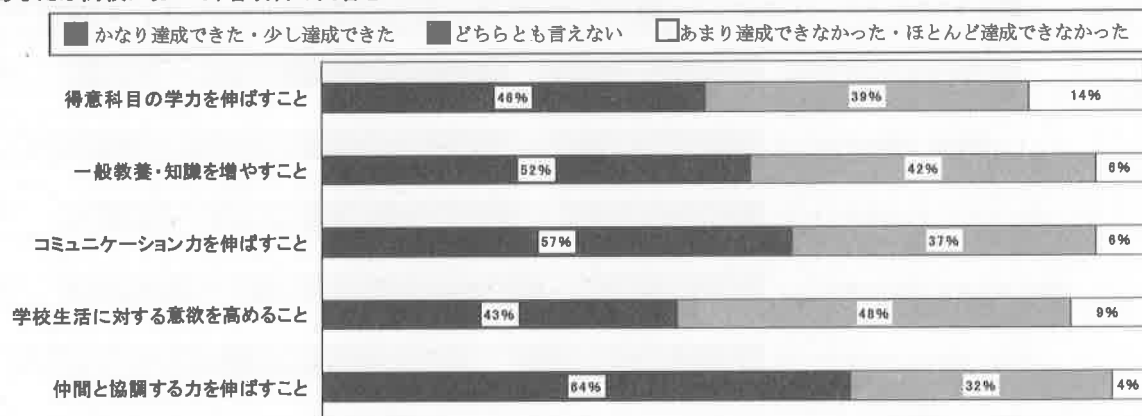
生徒対象

回答数：311 回収率：99%

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



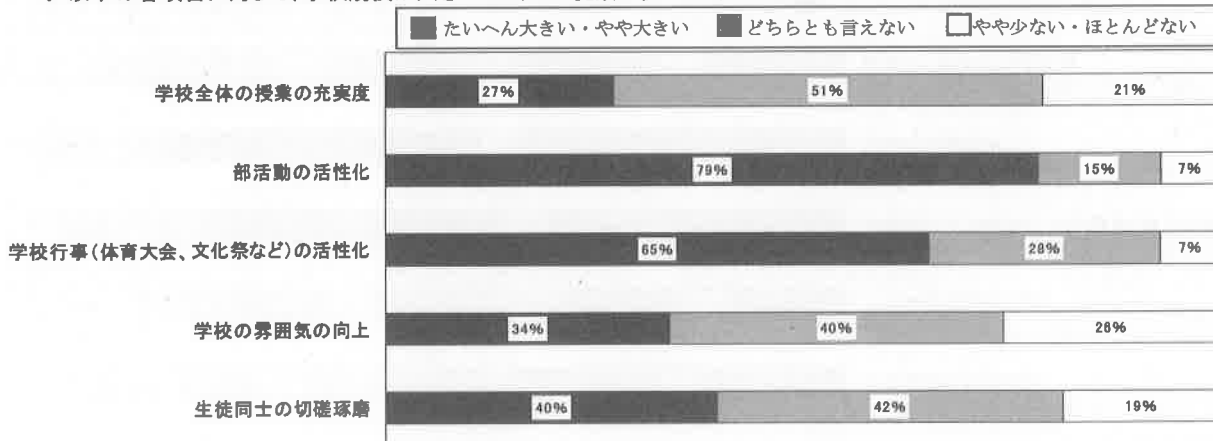
◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



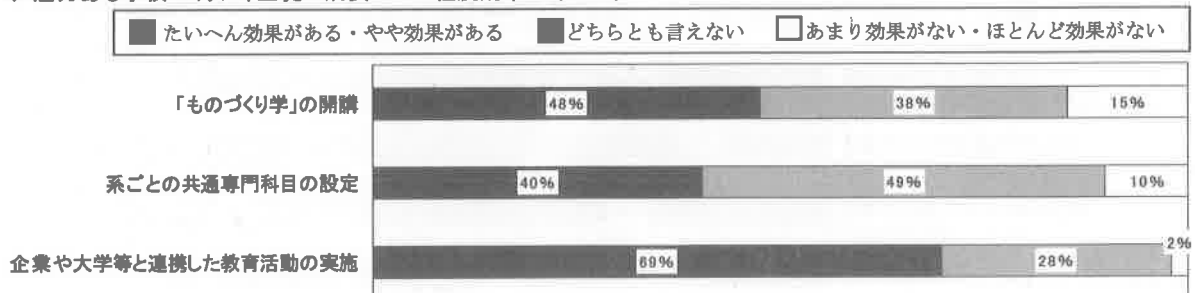
教員対象(教頭・教諭・実習助手)

回答数：88 回収率：89%

◆ 以下の各項目に対して、学校規模が大きいこと(全生徒数が多いこと)で生じるメリットは、どの程度だと思えますか。



◆ 魅力ある学校づくりが、生徒の成長にどの程度効果があるか。

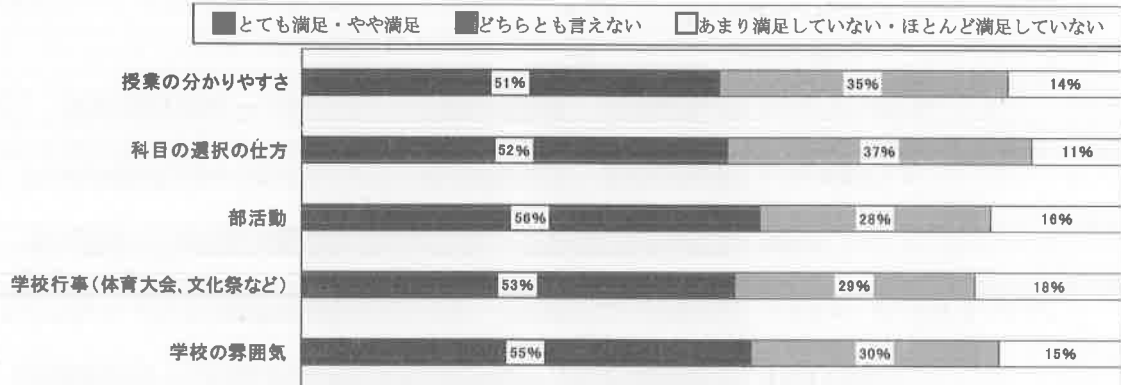


< 高岡工芸高校 >

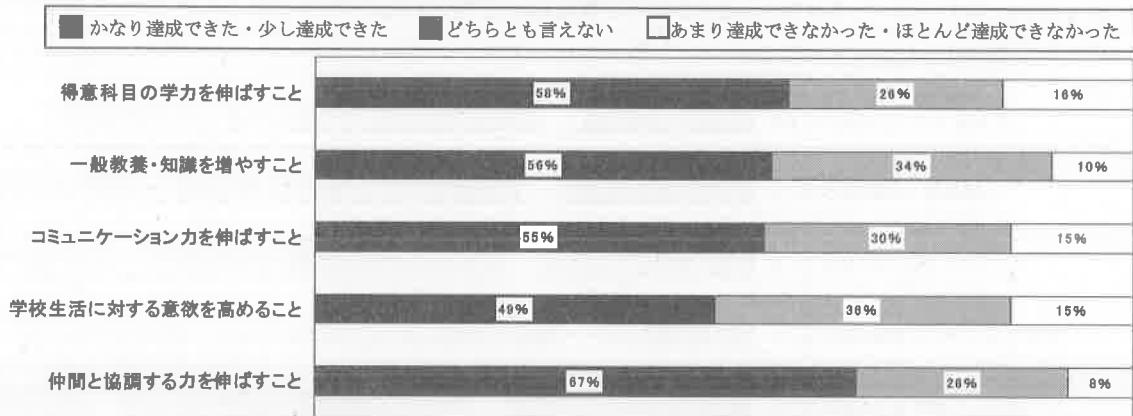
生徒対象

回答数：247 回収率：95%

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



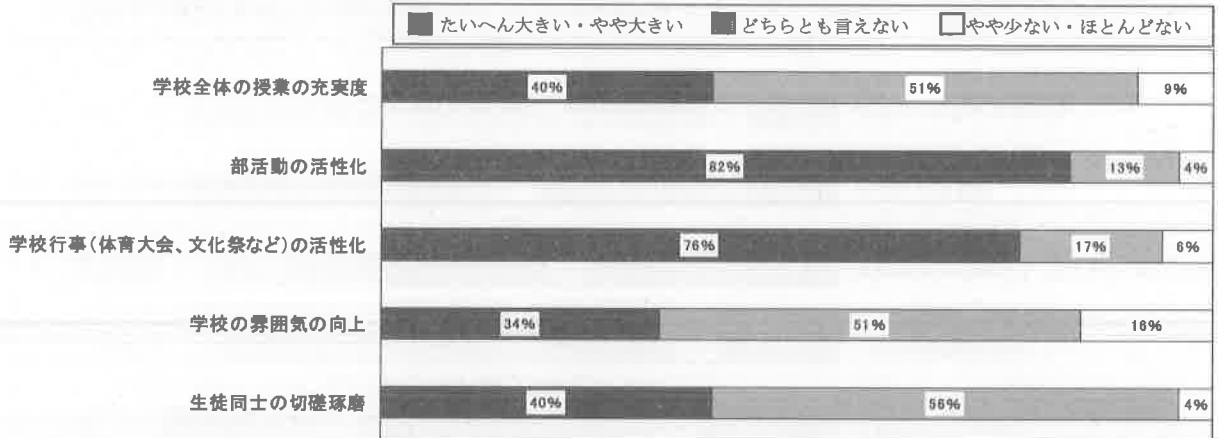
◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



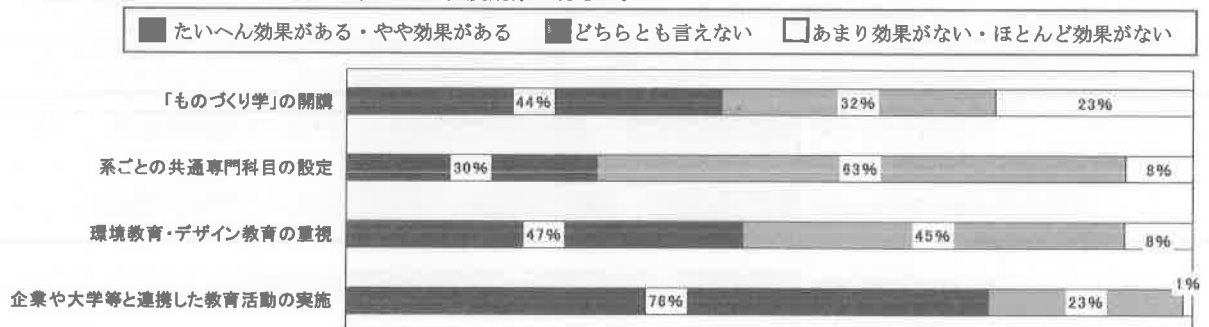
教員対象(勤務教頭・教諭・実習助手)

回答数：75 回収率：99%

◆ 以下の各項目に対して、学校規模が大きいこと(全生徒数が多いこと)で生じるメリットは、どの程度だと思えますか。



◆ 魅力ある学校づくりが、生徒の成長にどの程度効果があるか。

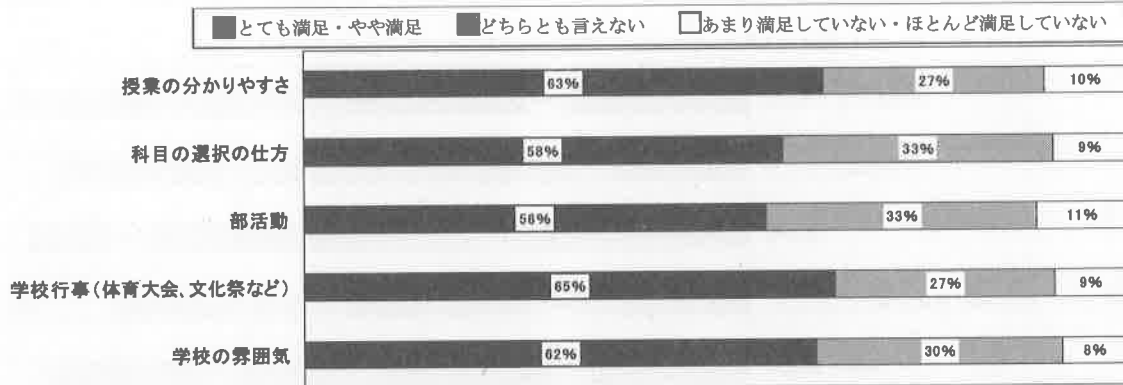


< 氷見高校 >

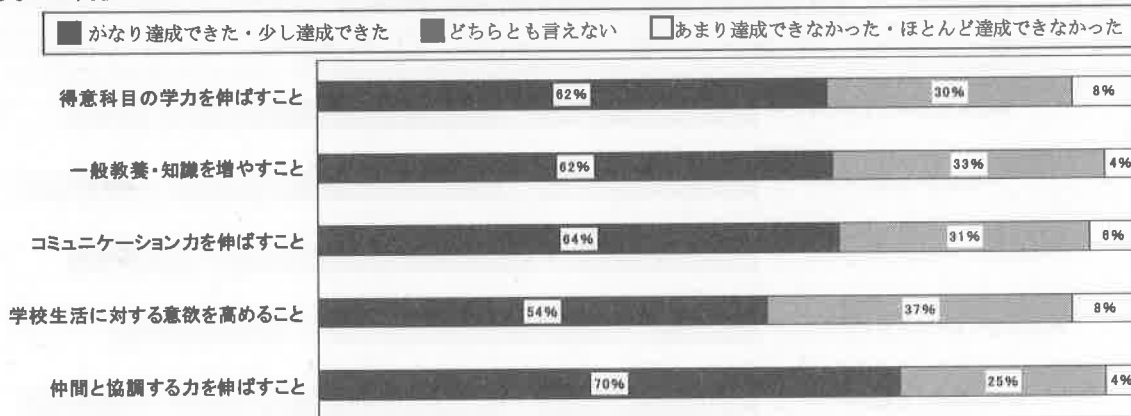
生徒対象

回答数: 263 回収率: 97%

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



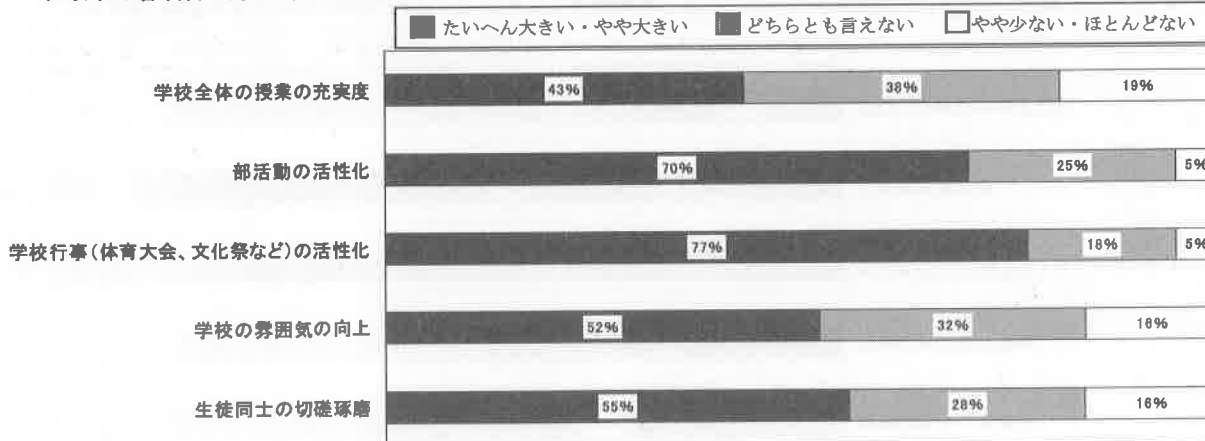
◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



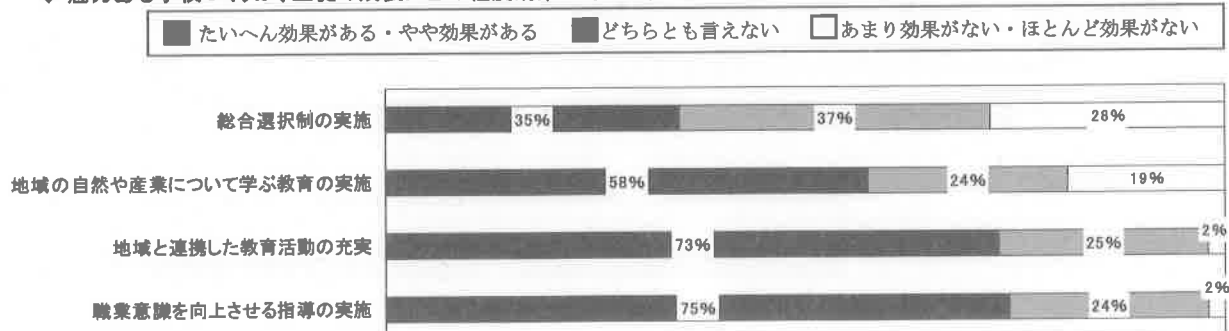
教員対象(教頭・教諭・実習助手)

回答数: 60 回収率: 95%

◆ 以下の各項目に対して、学校規模が大きいこと(全生徒数が多いこと)で生じるメリットは、どの程度だと思えますか。



◆ 魅力ある学校づくりが、生徒の成長にどの程度効果があるか。

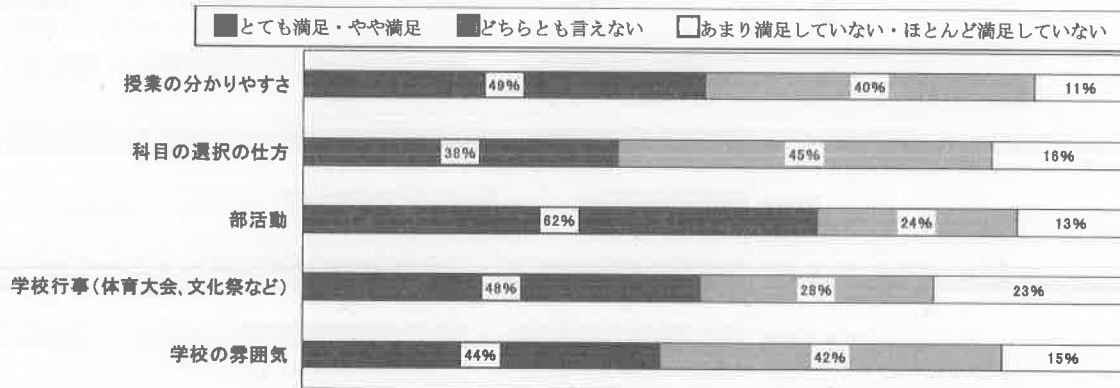


< 南砺福野高校 >

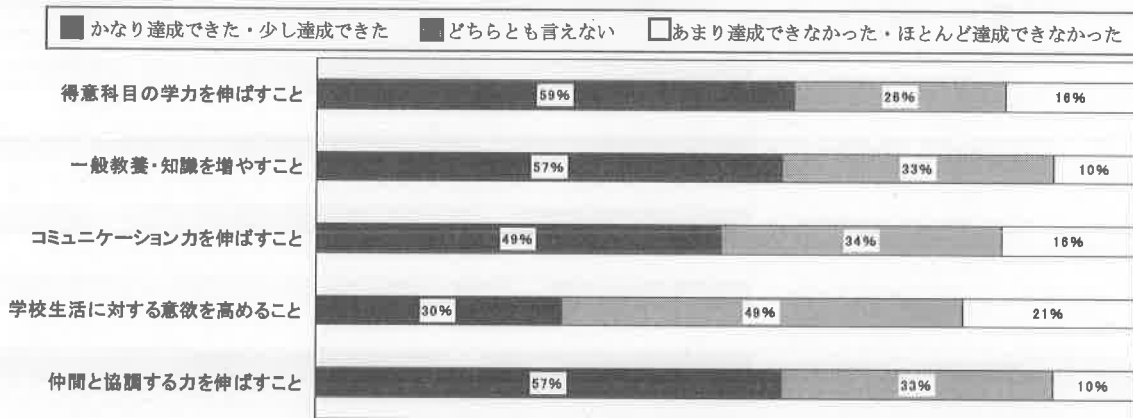
生徒対象

回答数: 243 回収率: 91%

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



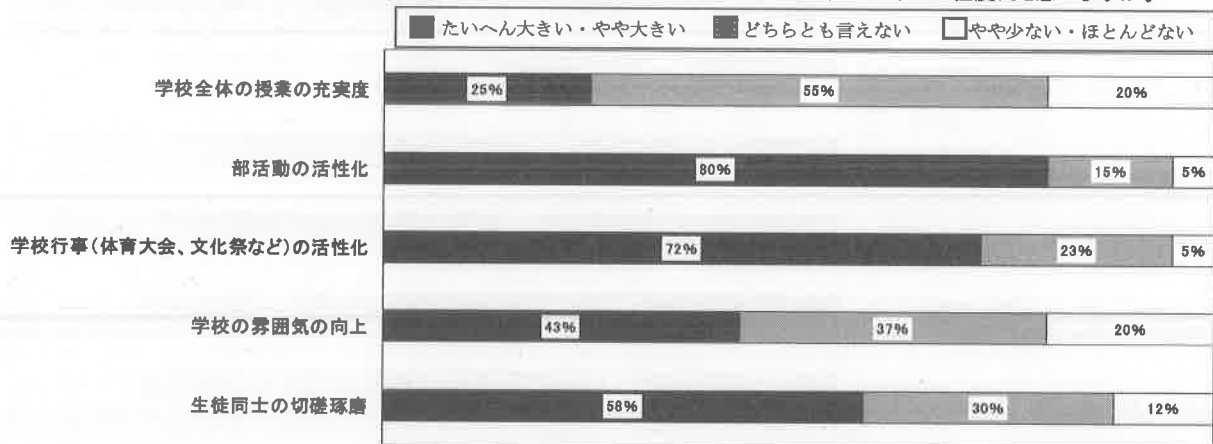
◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



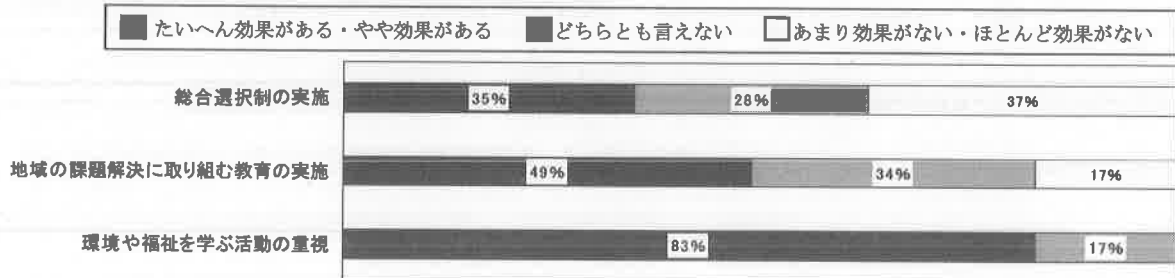
教員対象(勤務教頭・教諭・実習助手)

回答数: 80 回収率: 98%

◆ 以下の各項目に対して、学校規模が大きいこと(全生徒数が多いこと)で生じるメリットは、どの程度だと思いますか。



◆ 魅力ある学校づくりが、生徒の成長にどの程度効果があるか。



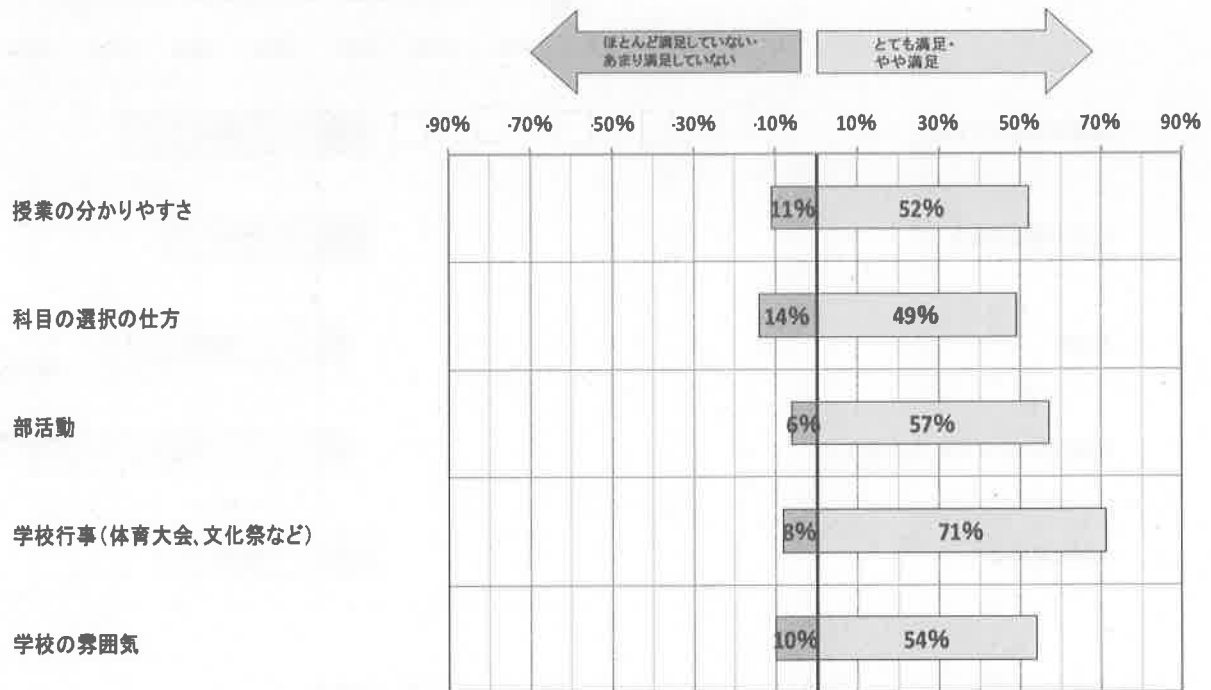
(2)平成 25 年 2・3 月実施 生徒アンケート <小規模校にあった学科に在籍する生徒>

< 滑川高校 > 海洋学科

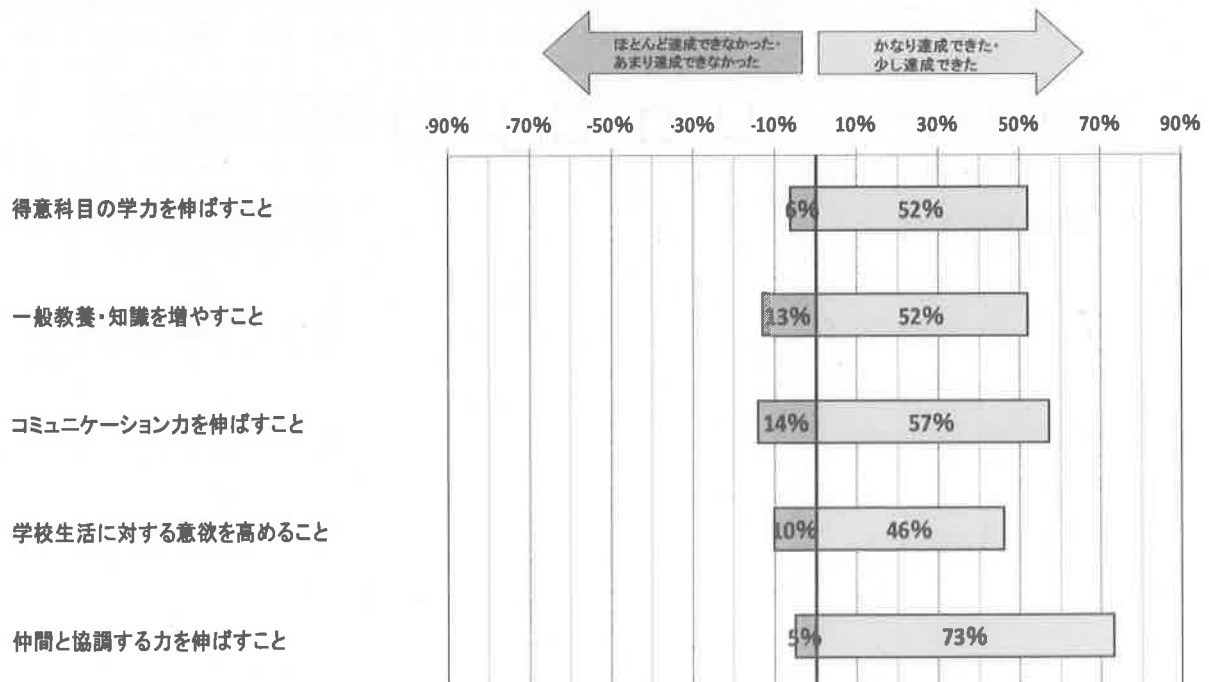
全回答数:216

うち海洋学科の回答数:37 (割合:17%)

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。

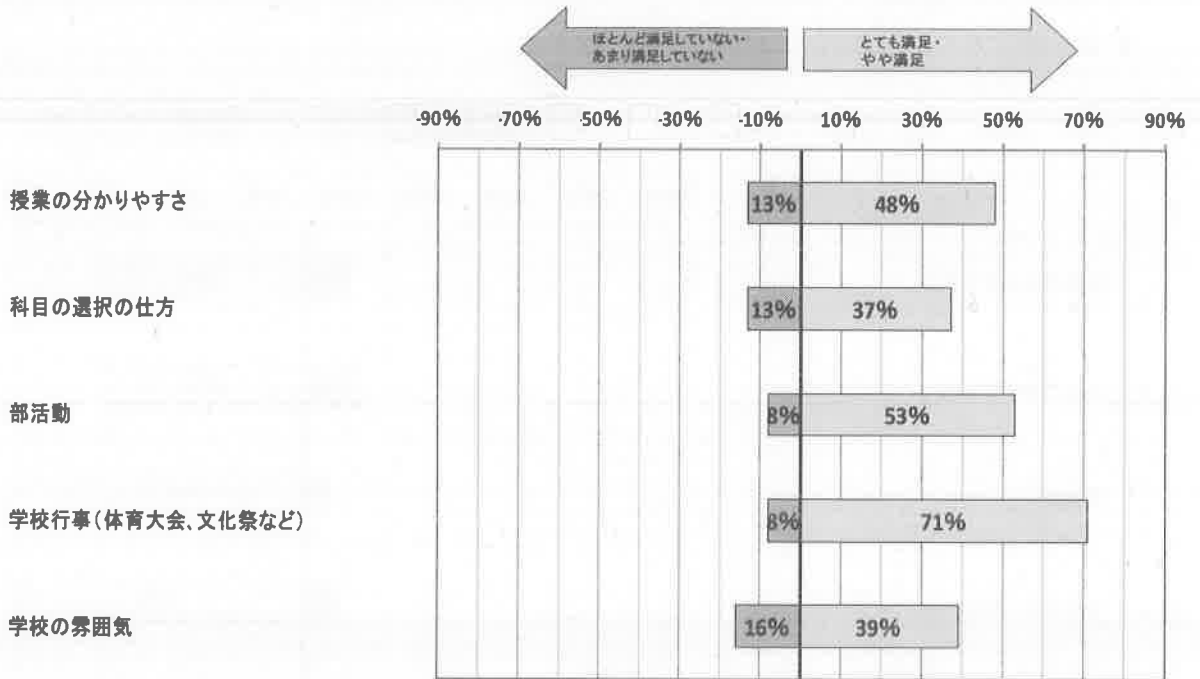


< 富山工業高校 > 土木工学科

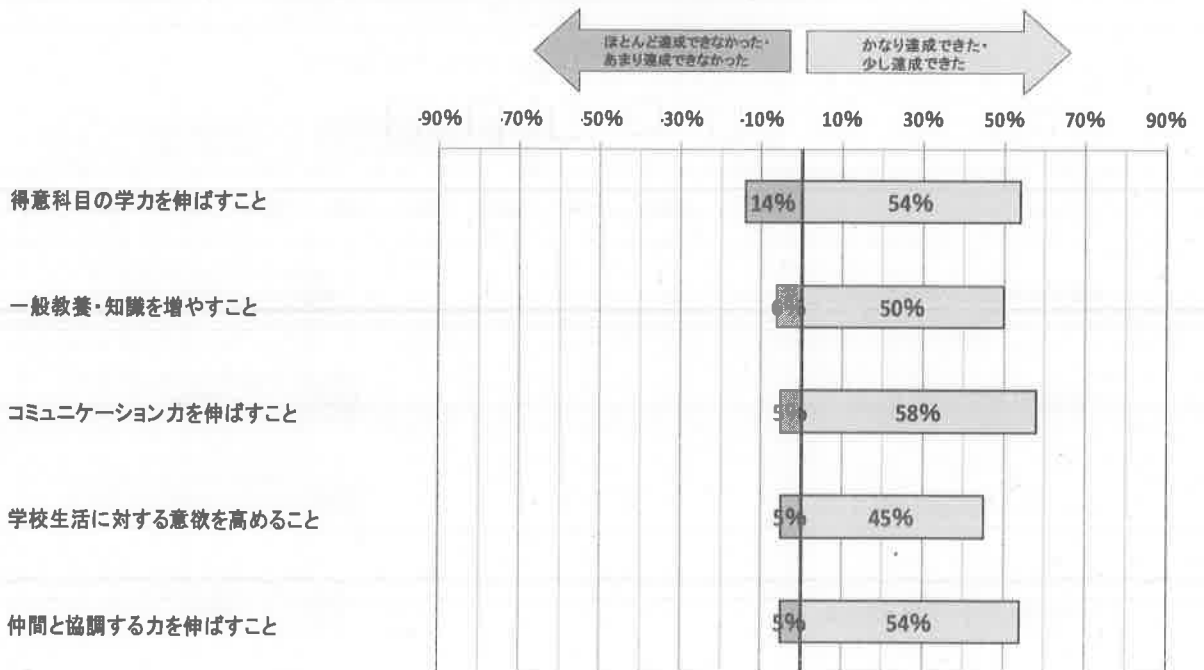
全回答数:311

うち土木工学科の回答数:38 (割合:12%)

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



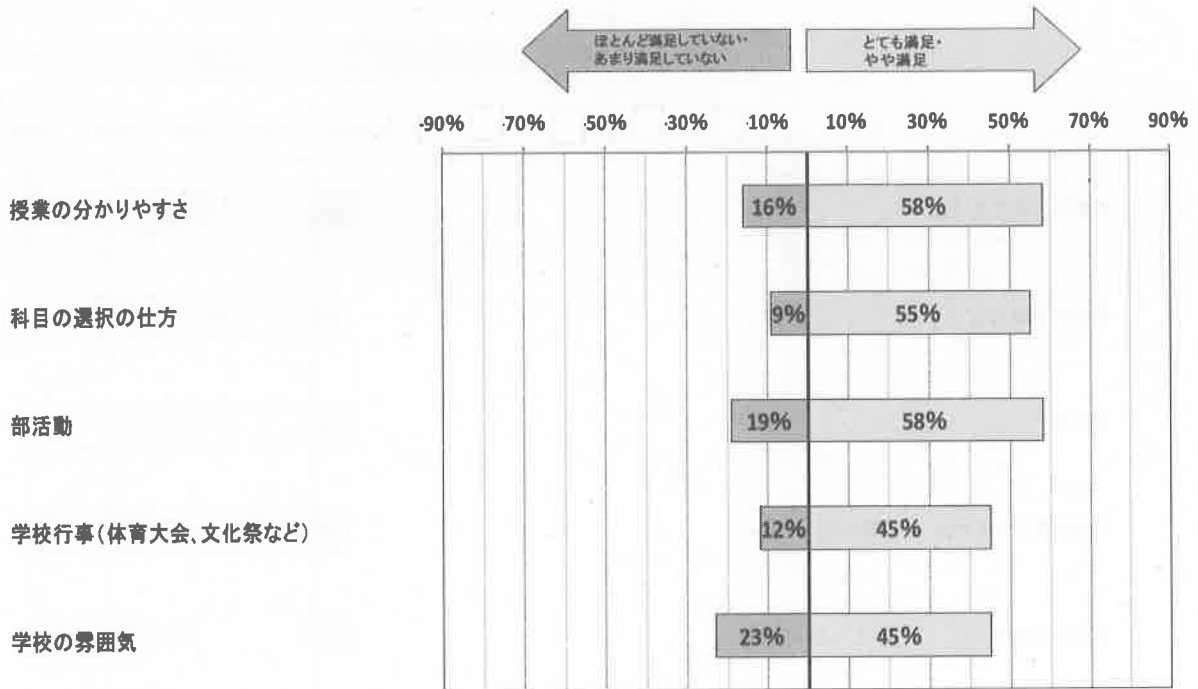
< 高岡工芸高校 >

土木環境学科

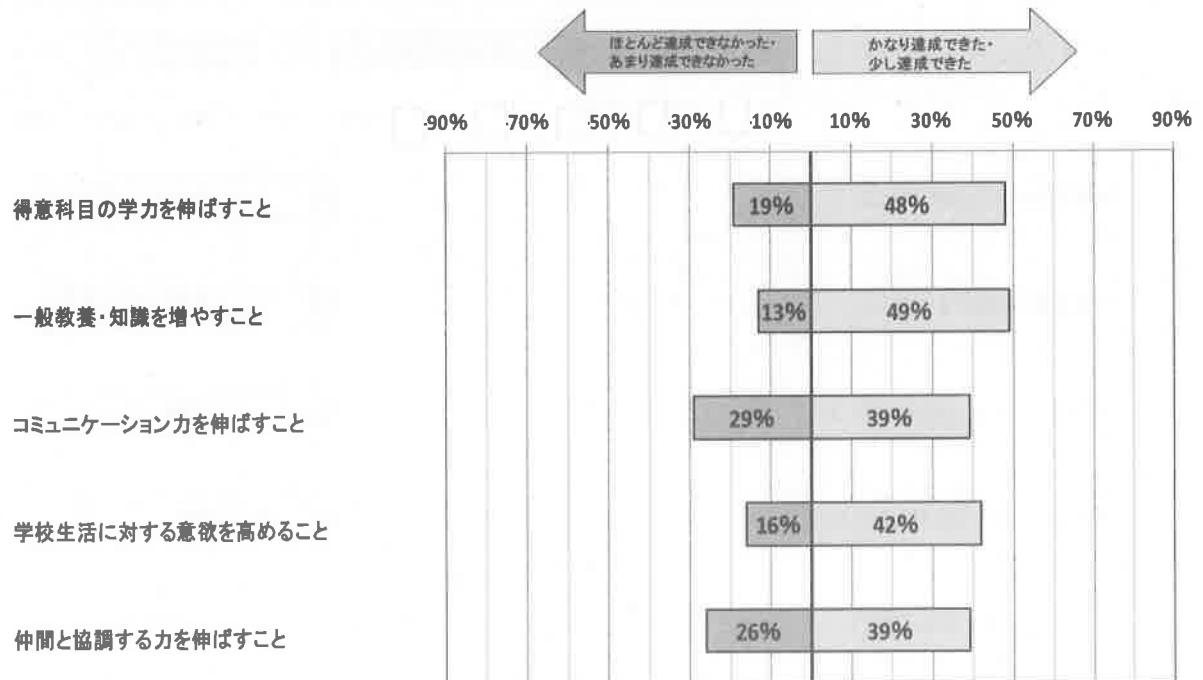
全回答数: 247

うち土木環境学科の回答数: 31 (割合: 13%)

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



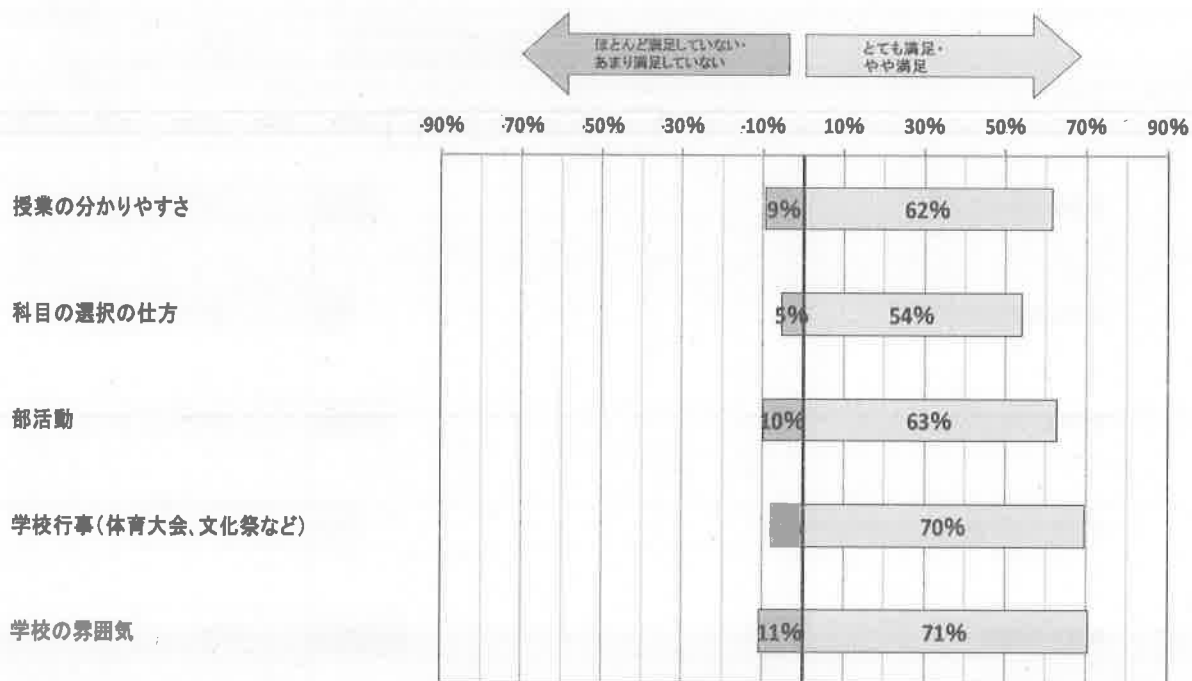
< 氷見高校 >

農業科学・海洋科学・生活福祉学科

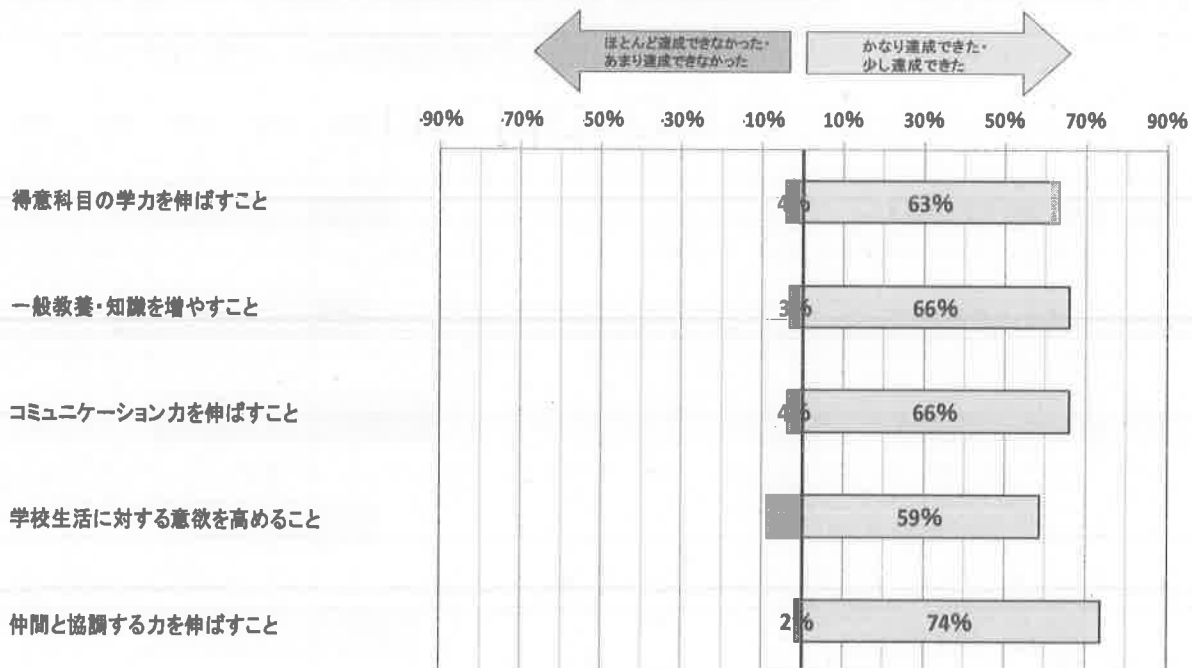
全回答数: 263

うち農業科学・海洋科学・生活福祉学科の回答数: 75 (割合: 29%)

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。



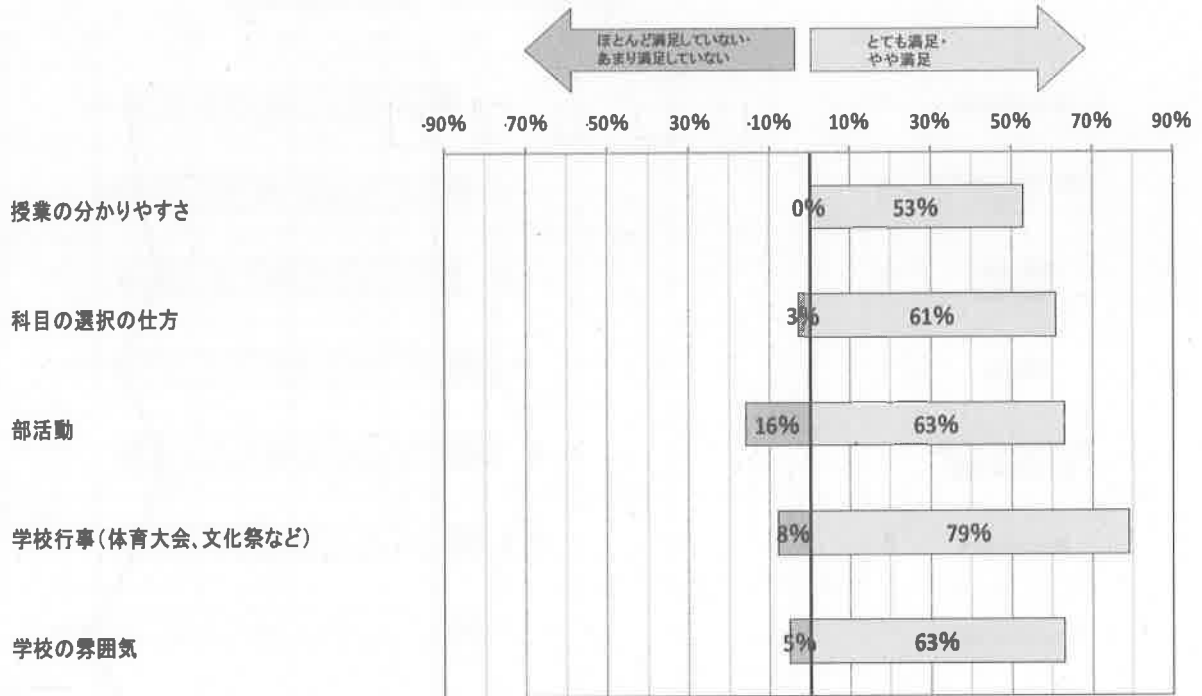
< 南砺福野高校 >

福祉学科

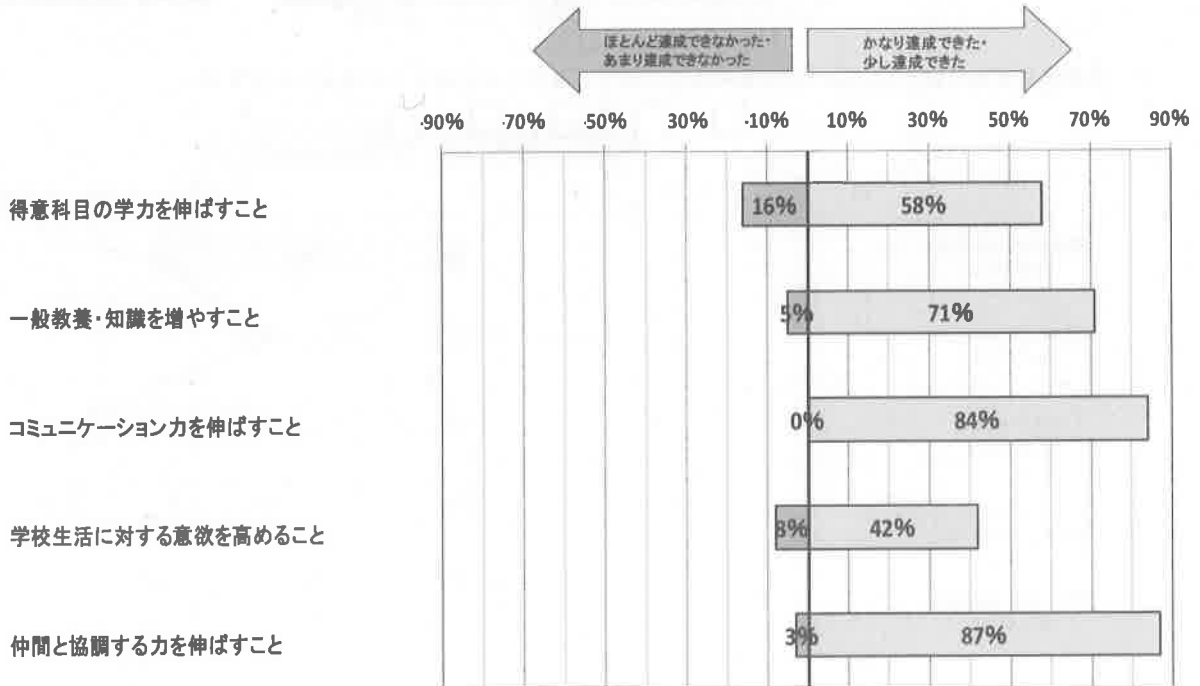
全回答数: 243

うち福祉学科の回答数: 38 (割合: 16%)

◆ 各項目について、あなたはどの程度満足していますか。



◆ あなたは高校において、各項目の内容をどのくらい達成できたと思いますか。

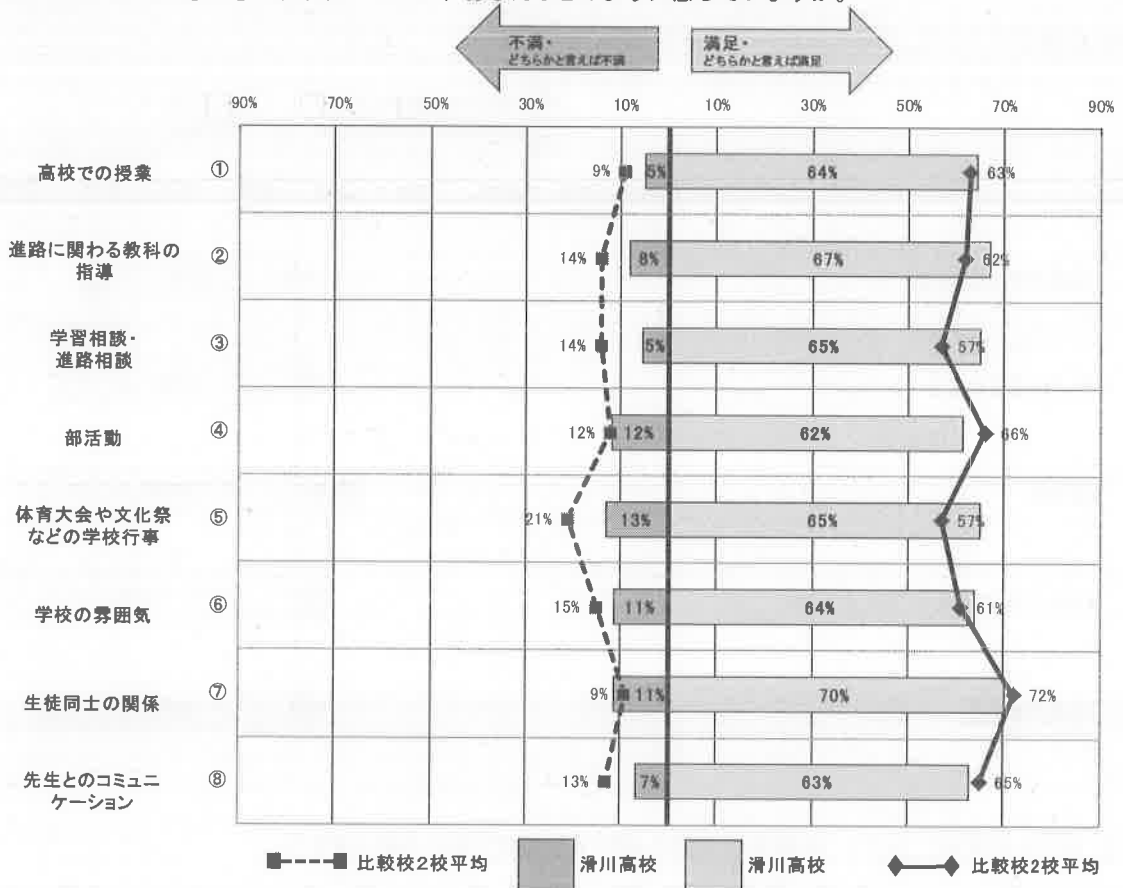


(3)平成 25 年 11 月実施 生徒アンケート

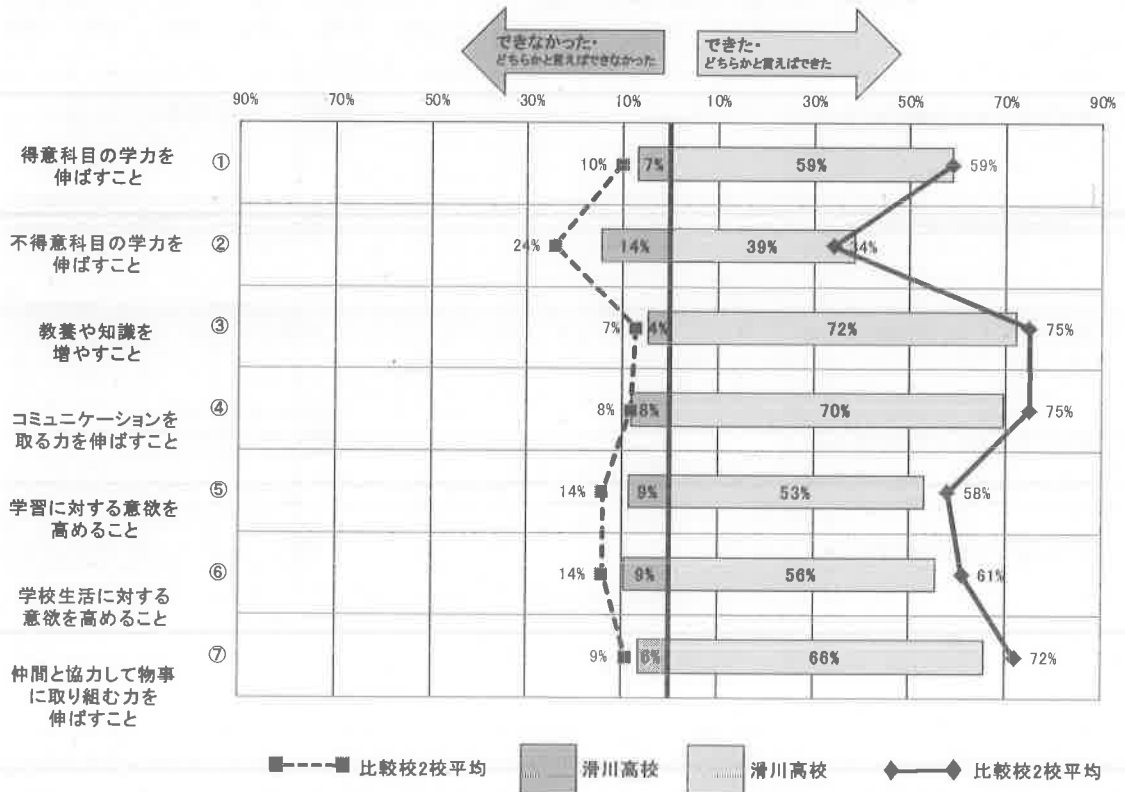
<新高校・比較校の3学年生徒全員> <滑川高校>

○滑川・氷見・南砺福野との比較校
普通科と複数の専門学科を有する総合制高校2校
○富山工業・高岡工芸との比較校
工業科単独の高校2校

I 高校生活における①～⑧の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

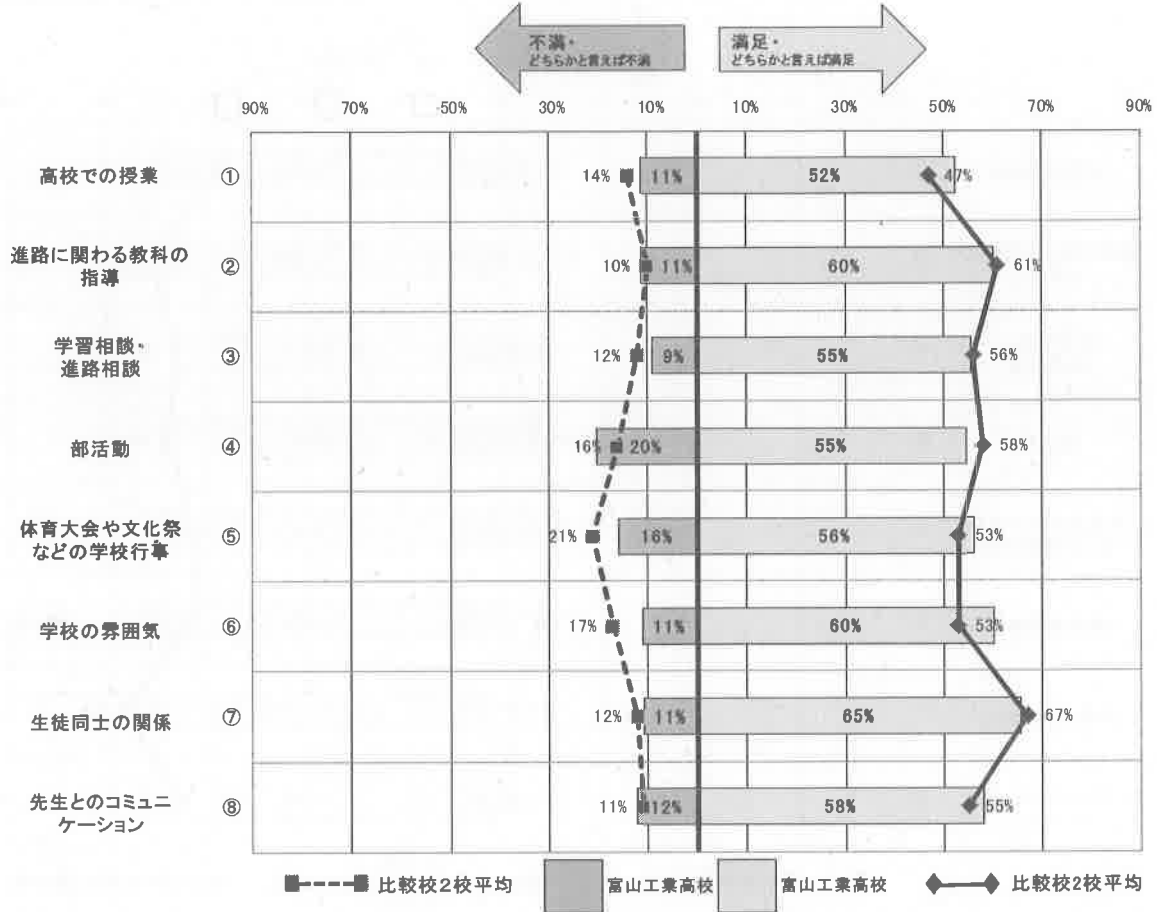


II 高校生活を振り返って、①～⑦の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

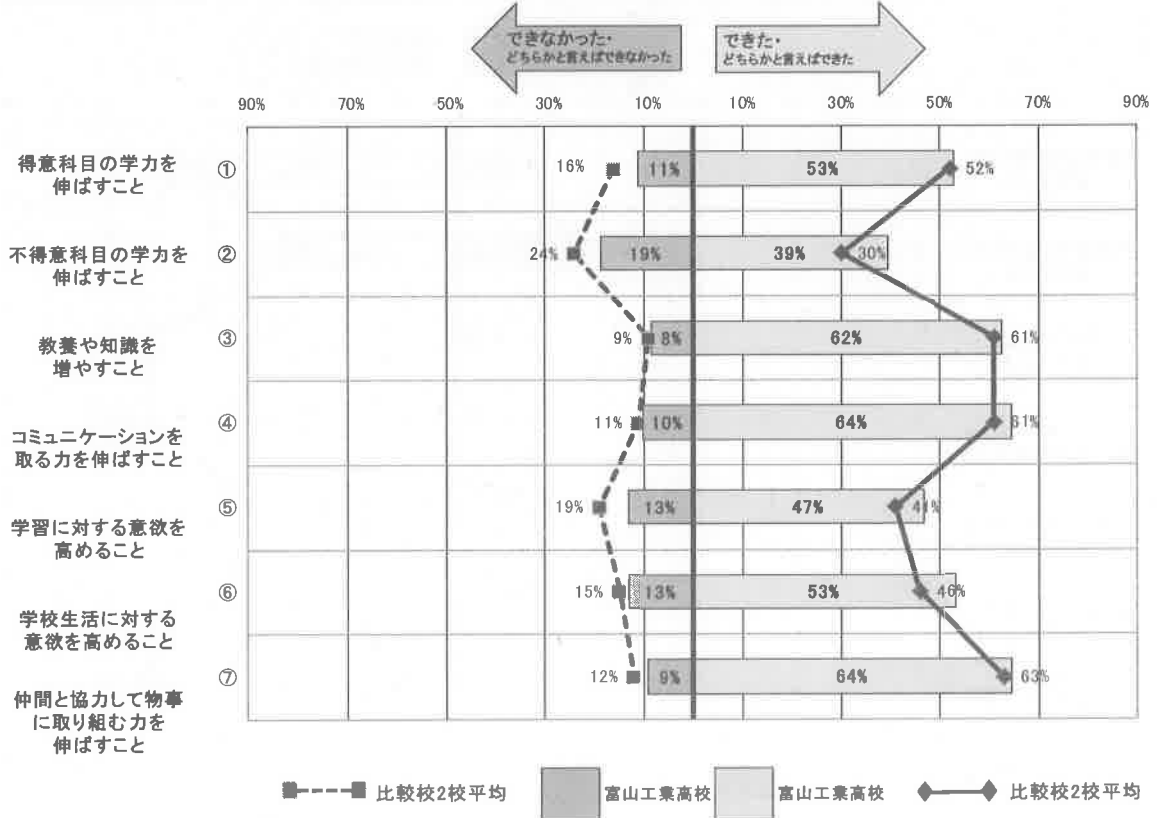


<富山工業高校>

I 高校生活における①～⑧の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

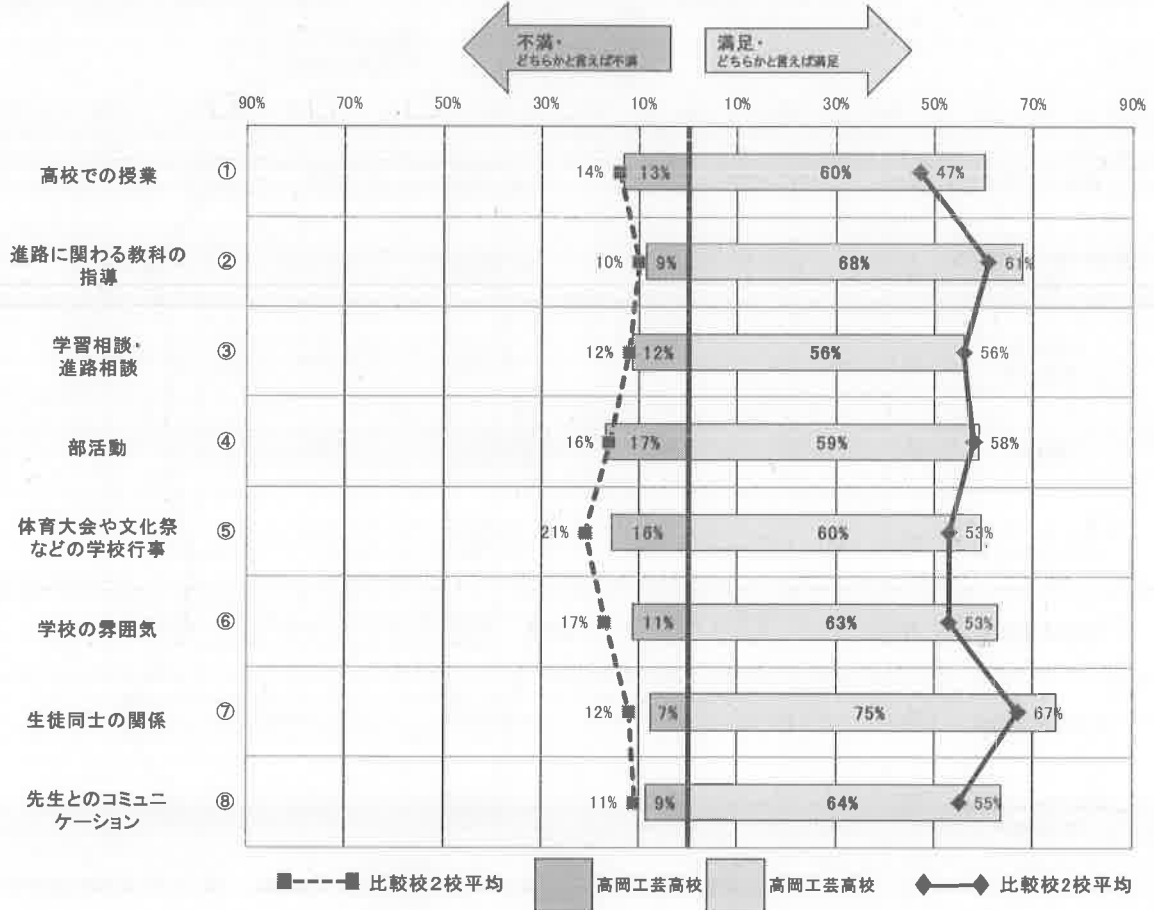


II 高校生活を振り返って、①～⑦の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

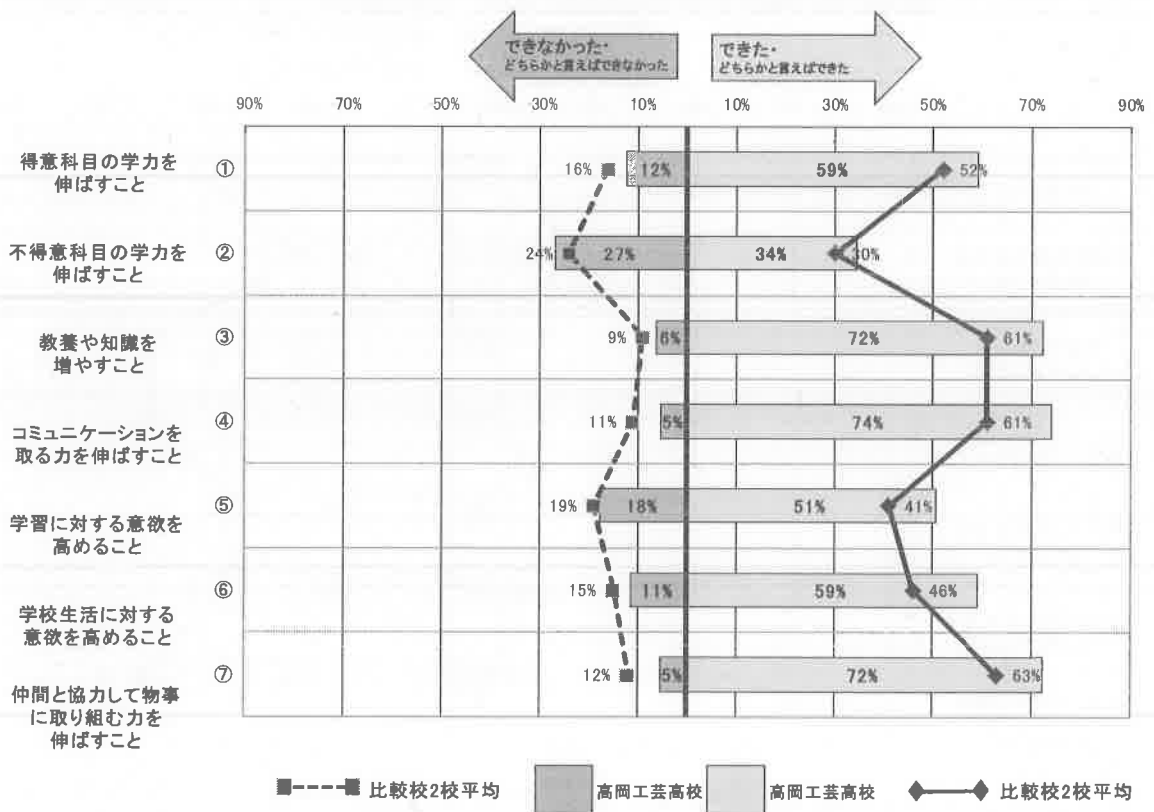


<高岡工芸高校>

I 高校生活における①～⑧の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

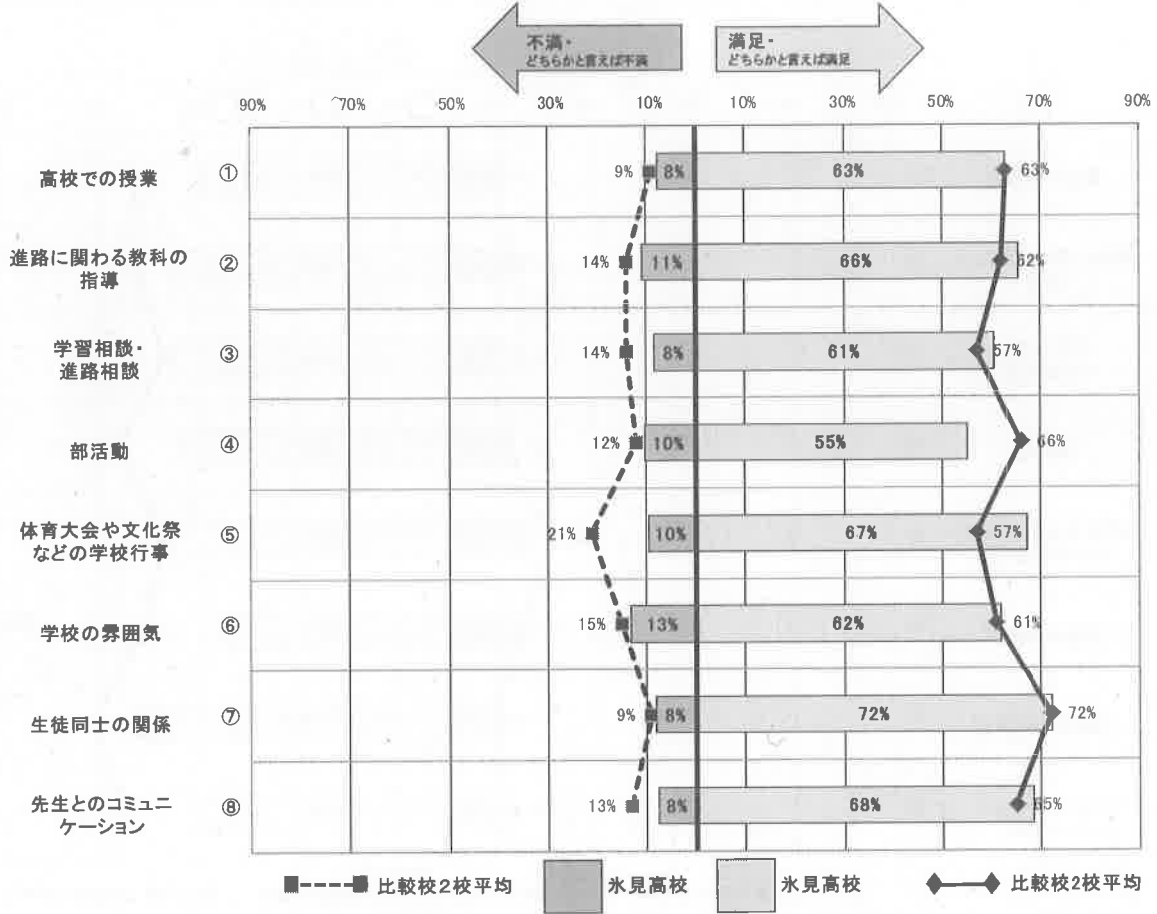


II 高校生活を振り返って、①～⑦の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

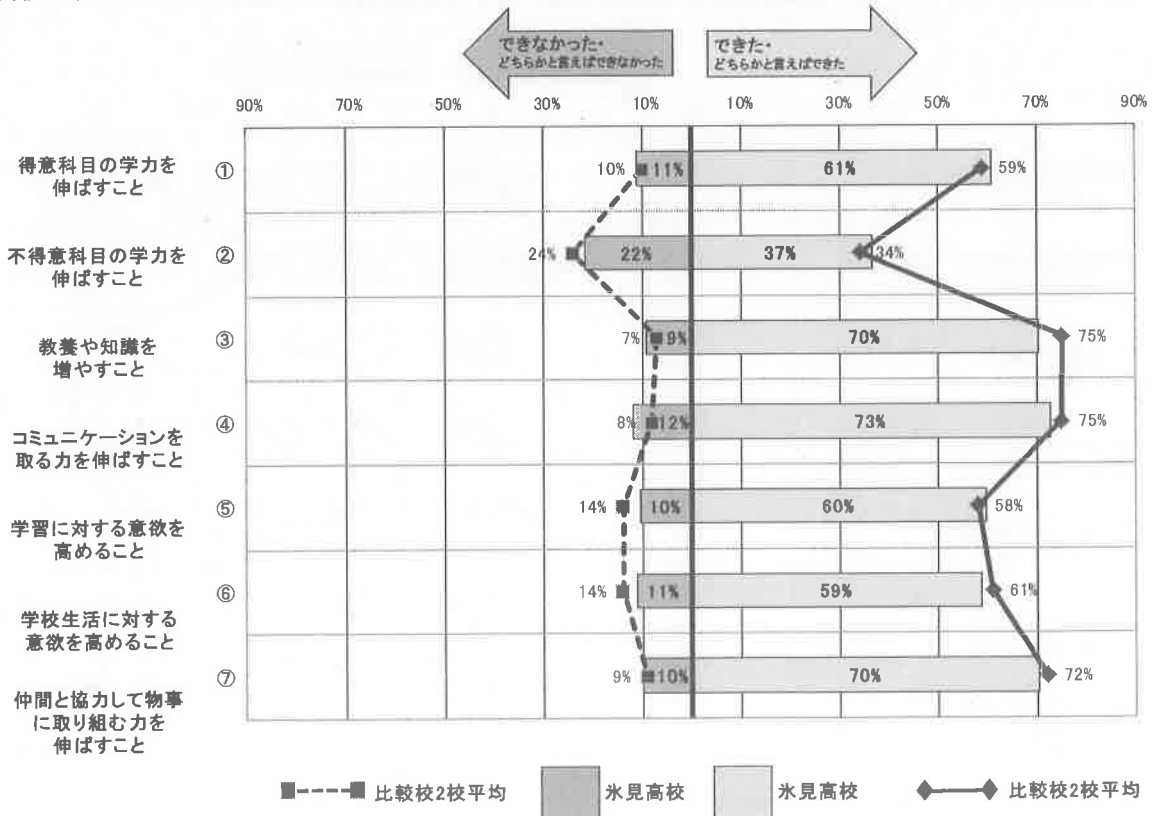


<氷見高校>

I 高校生活における①～⑧の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

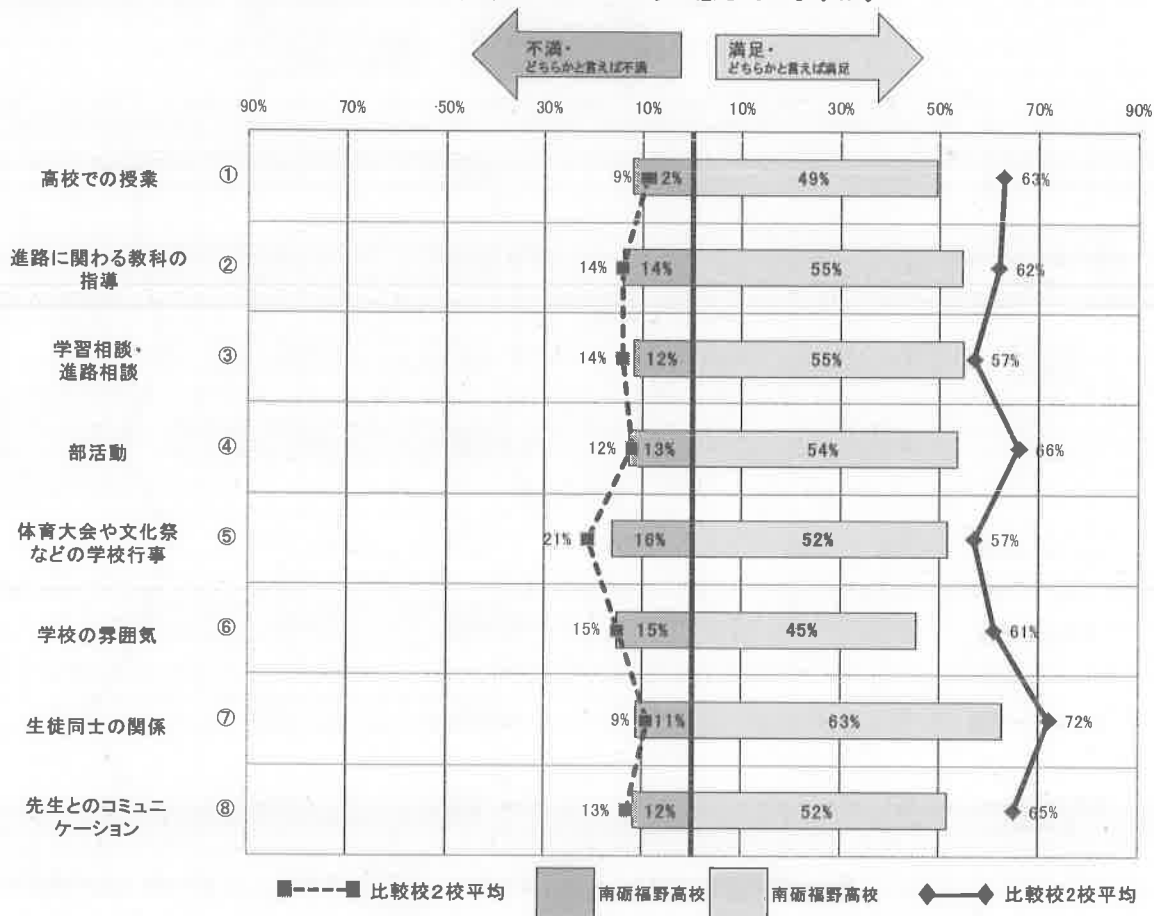


II 高校生活を振り返って、①～⑦の各項目について、あなたはどのように感じていますか。

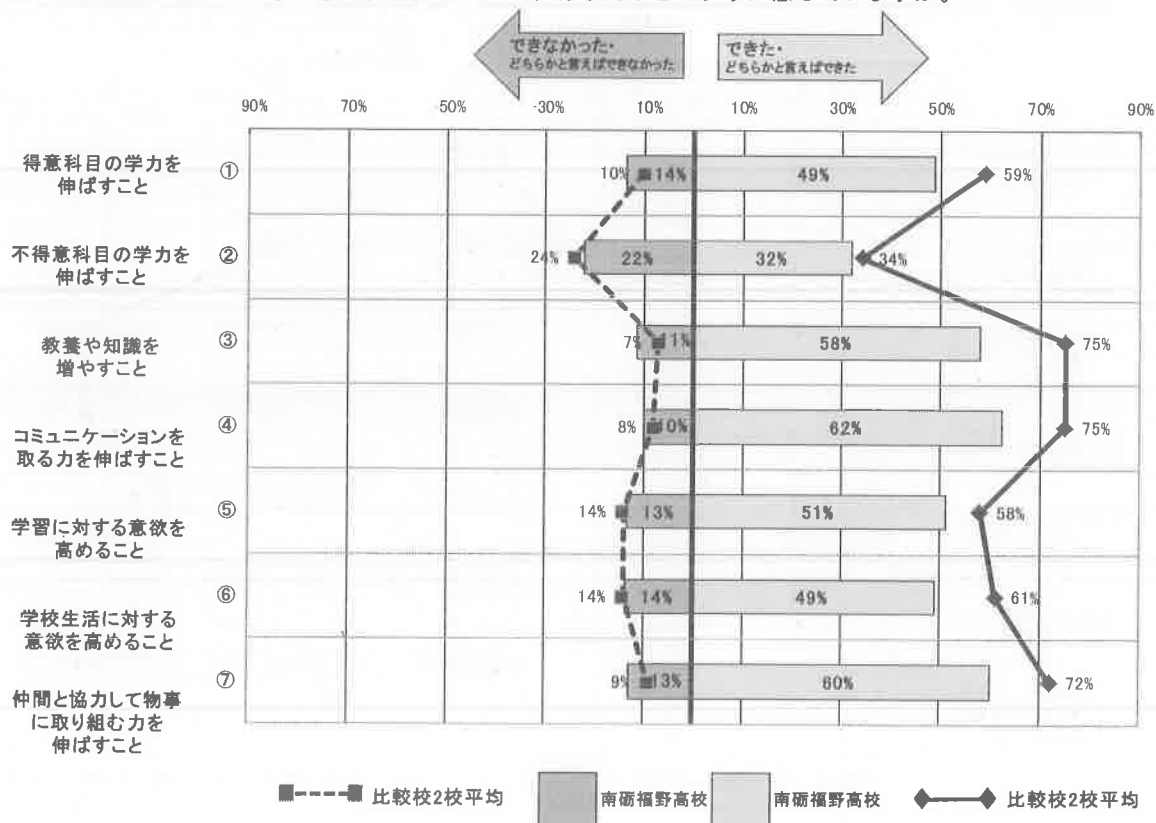


<南砺福野高校>

I 高校生活における①～⑧の各項目について、あなたはどのように感じていますか。



II 高校生活を振り返って、①～⑦の各項目について、あなたはどのように感じていますか。



10 中学校からの聞き取り調査結果

○調査の概要

<調査対象中学校>

新高校への入学者数が多い中学校のうちから、各新高校につき2校ずつ、合計10校の中学校

<調査方法>

- 1 調査対象中学校の校長に対し、事前に聞き取り内容を連絡
- 2 事務局の2名が中学校を訪問し、中学校長から聞き取り
中学校長は、教職員等からの情報を踏まえて回答

<調査期間>

平成25年10月28日(月)～11月7日(木)

<聞き取り内容>

次の項目について、分かる範囲での回答を依頼

- ・中学校は新高校をどのように見ているか。
- ・中学校は新高校への進路指導に当たって、新高校に関してどのように考え、生徒をどのように指導しているか。
- ・再編対象校が募集停止になったことにより、生徒の進路選択にどのような影響があったか。
- ・中学生は新高校をどのように見ているか。
- ・保護者は新高校をどのように見ているか。
- ・保護者は子どもの進路選択に当たって、新高校をどのように見ているか。
- ・地域の人たちは新高校をどのように見ているか。

【 滑川高校 】

○ 中学校の新高校に対する見方

- ・ 学科の選択幅が広く、多様な進路に対応できるなど学校の特色が明確であり、地元志向が強い生徒が多い中、とてもありがたい学校だと思う。
- ・ 生徒の3か年での成長が著しいと思う。入ったときの学力からの向上が見られる。進路先を見て驚くことがある。
- ・ 野球、レスリング、ウェイトリフティングの活躍が見られるので、進路選択の重要なポイントになると思っている。
- ・ 従来海洋高校に行っていたであろう子どもにとって、滑川高校はやはり大きな刺激になったようだ。部活動は、小さい学校だと強くなりやすく、なかなかモチベーションが上がらないが、大きな学校となり部活動にも積極的に取り組める。
- ・ 生活面もしっかりしており、落ち着いて学業も部活動も頑張っていると思う。
- ・ 海洋科の子どもも、滑川高校の中でいい影響を受けていると思う。
- ・ 部活動を通しての生徒指導が充実していると思っている。
- ・ 海洋高校と滑川高校が持っていたそれぞれの良さが、相乗効果によってさらに良くなったという感じである。

○ 進路指導に当たっての中学校の新高校に対する考え方と指導の仕方

- ・ いろいろな学科があり、選択できるので良い。学科の枠を越えて様々な工夫がされていることも分かる。学校の印象が良くなっているので進学先として勧めやすい。
- ・ 地元の学校であり、いろいろな学科もあるので、志望する生徒が増えている。海洋科のイメージの変化と、部活動の影響も大きいと思う。希望者には安心して勧めることができる。

○ 再編対象校が募集停止になったことの生徒の進路選択への影響

- ・ 従来海洋高校へ行っていたような生徒の選択肢が狭まった。そのため、私立や定時制にお願いするようになってきている。定時制へのオープンハイスクール参加者は以前より増加している。

○ 中学生の新高校に対する見方

- ・ 先輩からとても良い印象を与られている。生徒は、メリハリがあり、きちんと挨拶ができ、服装もしっかりしているという印象をもっている。
- ・ 従来海洋高校へ行っていたような生徒は、先輩の進学状況などを見て、頑張らなければ滑川高校に入れないという危機感をもっている。

○ 保護者の新高校に対する見方

- ・ 地元でしっかり就職していることを心強く思っている。
- ・ 部活動でしっかりと指導してくれる学校という印象がある。

○ 子どもの進路選択に当たっての保護者の新高校に対する見方

- ・ 保護者には、海洋科は入りやすいというイメージを今でももっている。現実の厳しさを伝えながら、チャレンジしてもらっている。
- ・ 倍率から見て普通科の方がむしろ入りやすいという印象をもつ保護者もいる。

○ 地域の人たちの新高校に対する見方

- ・ 服装の悪い生徒は見かけないという声や、部活動も頑張っているという声を聞く。
- ・ 滑川高校の過去の実績はやはり大きい。統合してもやはり滑川高校であるという良いイメージが強いようだ。

【 富山工業高校 】

○ 中学校の新高校に対する見方

- ・ ものづくり中心に工業系の専門科目について丁寧に指導してもらっている。
- ・ ロボットコンテストや技術者検定等の成果が新聞に掲載され、学習の充実をうかがわせる。
- ・ 頑張っていれば有名企業への就職もできる。就職率も高い。 最近は1/4が進学していると聞いている。
- ・ 強い部活動の影響で、活動場所の面で他の部活動にしわ寄せがあるようだ。
- ・ 部員数が多いが、レギュラーでなくても満足のいく活動ができると聞いている。
- ・ 以前に比べると服装など良くなった。さわやかな感じがする。

○ 進路指導に当たっての中学校の新高校に対する考え方と指導の仕方

- ・ 平易な普通科校は回避して、その他の学校で入れそうなところということで選ぶ子どももいるが、そのような安易な気持ちではダメと言っている。ものづくりへの関心が不可欠で、ものづくりの就職を重視した学校だと指導している。
- ・ 自分でも、ものづくりに本当に興味があるかどうか分からない子もいるので、学びの体験オープンハイスクールにできるだけ行かせるようにしている。
- ・ 富山工業を志望する生徒は、3種類に分類できる。家業等の関係で就職希望の者、部活動をしたい者、入れればいいと思っている生徒。どの生徒に対しても、就職しやすい学校という評価を基にしつつも、しっかりと勉強しないと就職は不可能であり、生半可な気持ちで行けば学習面についていけないことを常に強調している。
- ・ 部活動優先の子どもには、曖昧な気持ちでは行かないように指導している。どうにか入学して、結局は学習でついていけないことのないようにしている。

○ 再編対象校が募集停止になったことの生徒の進路選択への影響

- ・ 大沢野工業に行っていたであろう生徒にとっては、選択肢が狭まった感があり、富山西や上市、滑川の海洋科に行く子どもここ数年出てきている。

○ 中学生の新高校に対する見方

- ・ 部活動では野球部の甲子園出場の影響が大きく、志願する者が増えている。 野球部を含めて、部活動全体が自由で活発な印象があるようだ。
- ・ 子どもは、就職に有利、入れば資格も取れる、など安易に考えている。 そんなに甘くないこと、しっかりと勉強しないと就職についても資格についてもうまくいかないことを知らない。

○ 子どもの進路選択に当たっての保護者の新高校に対する見方

- ・ 部活動も一層活性化し、就職も有利なので、安心して進学させられると思っている保護者が多い。
- ・ 必ずしも工業科に興味があるからということではなく、学力的に普通科が難しいので行く学校というイメージをもっている保護者が少なくない。

○ 地域の人たちの新高校に対する見方

- ・ 伝統校なので立派な先輩がたくさんおり、就職にとっても有利な学校だと思っている。

【 高岡工芸高校 】

○ 中学校の新高校に対する見方

- ・普通科に入って明確な目標がないままに進学するよりも、高岡工芸に入った方が就職に有利で将来の展望が開けると思っている。
- ・就職しようとする子は、出口がしっかりしているという理由から、高岡工芸や高岡商業に行く。普通科に入って、大学に行っても就職できないこともあり、それより工芸ならOBもいるので、就職に有利だと思っている。
- ・部活動に熱心に取り組んでいるという印象がある。生徒数が増えてさらに活性化したと思っている。尚美展でPRしていて分かりやすい。
- ・特に最近、吹奏楽部が強いという印象をもっている。
- ・生徒指導が充実している。携帯電話の指導も行き届いていて、総じて好印象をもっている。

○ 進路指導に当たっての中学校の新高校に対する考え方と指導の仕方

- ・近くにある工業系の高校として大切にしている。専門学科の専門性と部活動に興味がある子どもにとって大事な学校である。
- ・就職しようとして明確に意識している子に対しては、迷わず高岡工芸高校を勧める。伝統校であり、各方面で活躍する優れたOBが多数いるので、就職にとっても有利であると自信を持って勧めることができる。

○ 再編対象校が募集停止になったことの生徒の進路選択への影響

- ・土木科が高岡工芸に入って、イメージアップしたと思う。倍率が高くなり、入るのが難しくなったと思う。
- ・従来、就職を考えると高岡工芸をまず考え、難しければ二上工業へ行っていた。今でも、どうしても土木を学びたいければ県西部に土木科がないので高岡工芸を受けるが、その他の学科の場合には、難しければ私立へ行くようになった。

○ 中学生の新高校に対する見方

- ・普通科に行くよりも、高岡工芸に入った方が就職に有利という考えで進学する者もいる。
- ・部活動が熱心で強いと思っている。また、活発でありながら、比較的自由的な雰囲気の中で活動できるというイメージをもっている。

○ 保護者の新高校に対する見方

- ・部活動もしっかりとでき、就職もきちんとできる学校と思っている。
- ・県西部を中心にOBが多方面で活躍しているため、学習などにしっかり取り組んでいれば就職は大丈夫と思っているようだ。

○ 地域の人たちの新高校に対する見方

- ・伝統校であり、各方面で活躍する優れたOBが多数おり、就職にとっても有利という印象を持っている。地元にもOBがたくさんおり、とても評価が高い。

【 氷見高校 】

○ 中学校の新高校に対する見方

- ・ 学科が多くあり、生徒に合ったところに進学できるのでありがたい学校だと思う。
- ・ 普通科は4クラス160人なので、学力幅が大きいと思う。
- ・ 普通科の文系、理系、文理探究コースの設定は能力を高める上で有効だと思う。
- ・ 普通科以外の学科は、地元の行事にたくさん参加してくれている。地域に貢献してくれる場面が多くなっており、良いことだと思う。
- ・ 部活動でいろいろなところに進学できるので良いと思う。ただ、実績面で最近やや低迷している面もあると思う。その影響で、例えば野球部なら、高岡商業や高岡工業に行ってしまう傾向があり、やはり成果が大事だと思っている。
- ・ 部の数は30余りに増えて、いろいろな思いで選べていいと思う。また、男女ハンドボール、野球、自転車、女子バレーは全国レベルを目指す部ということでPRされており、魅力がある。
- ・ 高校に行くと子どもは落ち着くという印象を持っている。有磯高校でも生徒指導がしっかり行われていたが、氷見高校においてはさらに良いと思う。

○ 進路指導に当たっての中学校の新高校に対する考え方と指導の仕方

- ・ 中学校での高校説明会に高校生が来てくれるのは、中学生の目が向くのでとても良いことだと思う。しっかりと成長の跡が見えて、中学生はあこがれをもつ。農業科学科や海洋科学科の生徒のプレゼンテーション能力の高さには驚かされる。
- ・ 普通科は学力幅が大きいので、学力不足のためについていけないということにならないように進路選択させたいという思いで指導している。

○ 再編対象校が募集停止になったことの生徒の進路選択への影響

- ・ 農業科学科、海洋科学科の枠がかつてよりも小さくなり、行き先に悩んでいる生徒が少なくない。女子生徒にとっては、できれば生活福祉科の定員が増えればいい。
- ・ 再編統合によってイメージの向上につながり、前向きにプライドをもって進路選択するようになっている。

○ 中学生の新高校に対する見方

- ・ 普通科に入りたいが、成績面でついていけるか不安を持つ子がいる。
- ・ 多くの学科があるので、選択の幅が広くてありがたい学校だと思っている。
- ・ たくさん部活動があるので、大抵の子は入ったら部活動をやろうと思っている。
- ・ 多くの先輩がのびのびとやっているところを見ているので、生徒指導面では、特に厳しいという印象はないと思う。
- ・ 普通科に行く子は進学したいと思い、職業科へ行く子は部活動をやりながら頑張ろうと思っている。それだけに部活動の知名度を上げてほしいと思っている。

○ 保護者の新高校に対する見方

- ・ 就職にも進学にも幅広く対応してくれる多様な学科があり、子どもに合った学科を選択できるありがたい学校が地元にあることを喜んでいる。
- ・ 再編統合によって学校全体が活気づいているという印象をもっているようだ。

○ 地域の人たちの新高校に対する見方

- ・ 受験産業による高校の評価が低かったり、入試で定員割れが起きたりすると、心配している。
- ・ 地域への貢献についても良い印象を持っている。
- ・ 氷見市の振興という意味で、氷見高校への期待は大である。

【 南砺福野高校 】

○ 中学校の新高校に対する見方

- ・福野は入学した生徒をしっかりと育てているという印象がある。生徒が投げ出すケースが少ない学校というイメージがある。
- ・普通科は大学進学に、職業科は就職を視野に職業教育に力を入れていると思う。
- ・学習課題をしっかりと出し、しっかりと取り組ませるなど、進学指導に力を注いでいると考えている。
- ・野球で甲子園に出場した実績は大きい。今年は男子バレー部が優勝するなど、学業と部活動を両立させているというイメージが強い。
- ・部活動だけでなく、学習にも真剣に取り組むように指導していると思う。
- ・挨拶や服装がしっかりしている学校だと思う。

○ 進路指導に当たっての中学校の新高校に対する考え方と指導の仕方

- ・国公立大学に数多く進学する普通科としては、比較的目指しやすい学校というイメージがあり、とてもありがたい学校だと思っている。
- ・専門学科については、目的意識を明確に持っていないと学習が困難であるという認識を持って指導に当たっている。

○ 再編対象校が募集停止になったことの生徒の進路選択への影響

- ・いろいろな意味で砺波地区の進路先としてありがたかった高校がなくなり、生徒によっては単位制の定時制高校や私立高校に行くようになった。進路先の選択において苦勞している子どもたちがいるのも現実である。
- ・南砺福野は普通科が5クラスになって、かつてのイメージとは違う生徒も入学するようになった。

○ 中学生の新高校に対する見方

- ・専門学科の実習が充実していると思っている。
- ・普通科については、大学に進学したい生徒が行く学校と思っている。
- ・中学に設置されている部が全てあるので、とても部の数が多いと思っている。
- ・部活動と学習の両立が求められる学校だと思っている。
- ・服装についてそれほどうるさくないが、全体としてきちんとしている学校というイメージをもっている。
- ・オープンハイスクールに多数参加し、とてもよい印象を抱いている。
- ・いろいろな意味で安心感がある学校だと思っている。
- ・全体的にけじめがしっかりしていて好印象をもっている。

○ 新高校に対する保護者の見方

- ・学習指導をしっかりとしてくれる学校だと考えている。
- ・部活動でも学習と両立するように指導してくれる学校だと思っている。
- ・服装や生活面で規則が厳しく、しっかり指導してくれる学校と考えている。

○ 子どもの進路選択に当たっての保護者の新高校に対する見方

- ・伝統校であり、あそこなら安心、というイメージをもっている。
- ・子どもを大学に行かせたい親にとっては、地元の学校としては、入学させたい学校である。

○ 地域の人たちの新高校に対する見方

- ・伝統校であり、いろいろな意味で安心感がある。
- ・再編によって福野高校の学力レベルにやや変化があったという人もいる。

2 本県県立学校の現状

1 県内における高校の設置状況

- ・全日制課程のある高校は、県立、私立を合わせて48校ある。その他、定時制・通信制課程のある県立高校が6校（内1校は全日制・定時制を併置）ある。
- ・平成26年3月の中学卒業予定者数10,063人に対し、全日制の定員は県立、私立合わせて9,394人だが、定時制・通信制の定員を含めると卒業予定者数以上の定員となっている。

平成26年度

地区		新川地区		富山地区		高岡地区		砺波地区		全地区	
		学校数	定員	学校数	定員	学校数	定員	学校数	定員	学校数	定員
全日制課程	県立	8	1,390	13	2,760	11	2,110	6 (分校1)	884	38 (分校1)	7,144
	私立	1	155	6	1,355	3	740	—	—	10	2,250
	合計	9	1,545	19	4,115	14	2,850	6 (分校1)	884	48 (分校1)	9,394
定時制課程	県立	1	約160	2 (併置1)	約400	1	約240	2 (分校1)	約160	6 (併置1) (分校1)	約960
通信制課程	県立	—	—	1 (併置1)	約300	—	—	—	—	1 (併置1)	約300
学校数計 (併置を除く)		10		20		15		8 (分校2)		53 (分校2)	

(参考)

中学校卒業 予定者数 (平成26年3 月)	1,963	3,914	3,021	1,165	10,063
--------------------------------	-------	-------	-------	-------	--------

- ・中学校卒業予定者数に占める募集定員の割合は、従来から、富山県公私立高等学校連絡会議の合意を尊重して設定している。
- ・平成26～28年度における全日制高校の募集定員の割合は、県立が71.2%、私立が22.3%となっている。

2 県立高校（全日制）の配置

- ・全日制課程のある県立高校38校（分校1校を含む。）は、新川、富山、高岡、砺波の4地区の中学卒業者数、市町村の所在等に応じて設置されている。
- ・富山市、高岡市には、他市町村に比べ、多くの県立高校が設置されている。



※ 括弧内の数字は1学年の学級数
学級数は平成26年度の募集定員による

3 県立高校(全日制)の規模別・地区別配置の変化

・前期再編前の平成21年度は、多くが1学年5学級以下の学校であり、その内3学級以下の学校が16校と多かった。

・再編後の平成26年度には、6学級以上の学校が12校と多くなり、3学級以下の学校は7校となっている。

全 日 制	H 2 1 年度				全 日 制	H 2 6 年度				
	高校名					高校名 (再編校)				
学級数	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	学級数	新川地区	富山地区	高岡地区	砺波地区	
8 学級					8 学級		富山工業 (工 8)			
7 学級		富山 (普 6 理 1)	高岡 (普 6 理 1)		7 学級		富山 (普 5 探 2)	高岡 (普 5 探 2)		
		富山中部 (普 6 理 1)					富山中部 (普 5 探 2)	高岡工芸 (工 7)		
6 学級	魚津 (普 5 理 1)	富山工業 (工 6)			6 学級	滑川 (普 3 工 1 商 1 水 1)	富山東 (普 6)	高岡商業 (商 6)	南砺福野 (普 4 農 1 福 1)	
		富山商業 (商 6)					富山南 (普 6)			
5 学級	桜井 (普 3 工 1 家 1)	富山いずみ (総 4 看 1)	高岡工芸 (工 5)	砺波 (普 4 理 1)	5 学級	桜井 (普 3 工 1 家 1)	富山いずみ (総 4 看 1)	高岡南 (普 5)	砺波 (普 5)	
	滑川 (普 3 工 1 商 1)	富山東 (普 5)	高岡商業 (商 5)	南砺総合福野 (普 4 農 1)			魚津 (普 5)	呉羽 (普 5)		
4 学級	入善 (普 3 農 1)	八尾 (普 4)	新湊 (普 3 商 1)	砺波工業 (工 4)	4 学級	入善 (普 3 農 1)	八尾 (普 4)	小杉 (総 4)	砺波工業 (工 4)	
	上市 (総 4)	富山西 (普 3 工 1)	高岡南 (普 4)				魚津工業 (工 4)	富山西 (普 4)	大門 (普 4)	石動 (普 3 商 1)
	雄山 (普 3 家 1)	富山北部 (普 2 工 1 商 1)					上市 (総 4)	富山北部 (普 2 工 1 商 1)	新湊 (普 3 商 1)	
		富山南 (普 4)					雄山 (普 3 家 1)	水橋 (普 4)		
3 学級	泊 (普 3)	中央農業 (農 3)	小杉 (総 3)	南砺総合井波 (普 1 福 2)	3 学級	泊 (普 3)	中央農業 (農 3)	高岡西 (普 3)	南砺福光 (普 2 国 1)	
	魚津工業 (工 3)	大沢野工業 (工 3)	大門 (普 3)	南砺総合福光 (普 2 国 1)				伏木 (国 3)		
	海洋 (水 3)		高岡西 (普 3)	石動 (普 2 商 1)				福岡 (普 3)		
			伏木 (国 3)							
			福岡 (普 3)							
2 学級			有磯 (農 1 水 1 家 1)							
2 学級			二上工業 (工 2)		2 学級					
1 学級				南砺総合平 (普 1)	1 学級				南砺平 (普 1)	
規 模 数 別 学 校 数	8 学級				規 模 数 別 学 校 数	8 学級				1
	7 学級					7 学級				6
	6 学級					6 学級				5
	5 学級					5 学級				6
	4 学級					4 学級				13
	3 学級					3 学級				6
	2 学級					2 学級				0
1 学級				1 学級				1		
平均学級数 (基本 5 ~ 6 学級)				4.1	平均学級数 (基本 5 ~ 6 学級)				4.8	
3 学級以下の学校数				16	3 学級以下の学校数				7	

4 県立高校（定時制・通信制）の配置

- ・富山県民生涯学習カレッジの地区センターを併置した生涯学習校が、各地区に1校設置されている。
- ・その他、全日制と併置した定時制工業科が富山工業高校に、全日制高校の分校である定時制農業科高校として小矢部園芸高校が設置されている。



学 校 名	区 分
新川みどり野高等学校	昼間単位制Ⅰ、Ⅱ部、夜間単位制
富山工業高等学校	夜間制
雄峰高等学校	昼間単位制Ⅰ、Ⅱ部、夜間単位制、通信制、専攻科
志貴野高等学校	昼間単位制Ⅰ、Ⅱ部、夜間単位制
小矢部園芸高等学校	昼間単位制、専攻科
となみ野高等学校	昼間単位制Ⅰ、Ⅱ部、夜間単位制

5 特別支援学校の配置

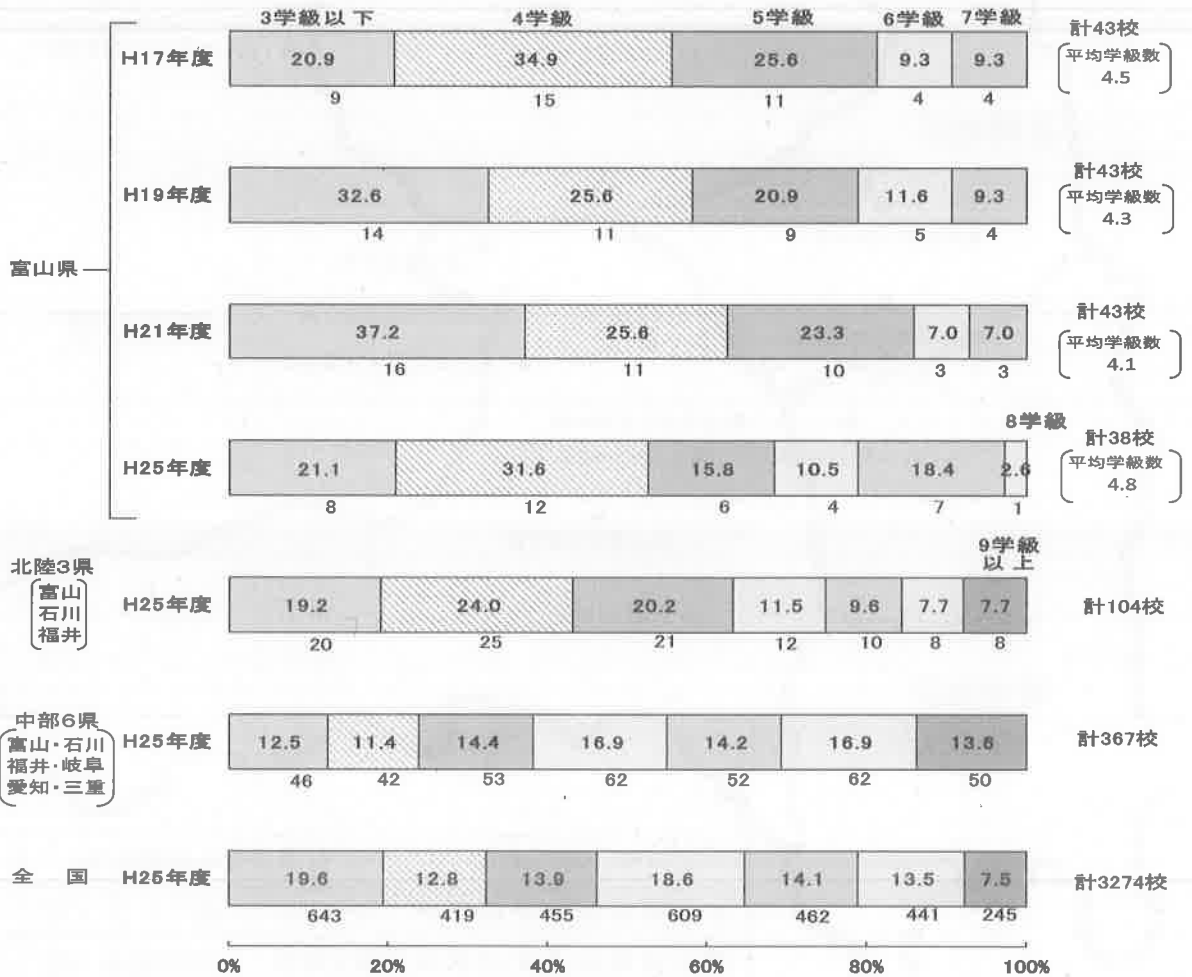
- ・特別支援学校は13校、その内7校は富山地区に配置されている。
- ・となみ東支援学校は、小学部・中学部のみの分校として設置されている。
- ・平成25年度に新設された高等特別支援学校は、富山、高岡地区に各1校ある。



学 校 名	対象とする障害種別	設置学部等
富山視覚総合支援学校	視覚障害 病 弱 (高)	幼小中高専
富山聴覚総合支援学校	聴覚障害 知的障害 (高)	幼小中高専
高岡聴覚総合支援学校	聴覚障害 知的障害 (高)	幼小中高
にいかわ総合支援学校	知的障害 肢体不自由	小中高 訪
しらとり支援学校	知的障害	小中高
富山高等支援学校	知的障害	高
高岡支援学校	知的障害	小中高 訪
高岡高等支援学校	知的障害	高
となみ総合支援学校	知的障害 肢体不自由	小中高 訪
となみ東支援学校	知的障害	小中
富山総合支援学校	肢体不自由 知的障害 (高)	小中高 訪
高志支援学校	肢体不自由	小中高
ふるさと支援学校	病 弱	小中高 訪

6 学校規模別学校数の割合（全国比較）

- ・本県の県立高校(全日制)は、小規模化が進み、3学級以下の小規模校の割合が、平成17年度約21%、平成19年度約33%、平成21年度約37%と増えてきた。
- ・前期再編後の平成25年度は、3学級以下が約21%、6学級以上が約31%となるなど、全体的に一定規模が確保されてきた。
- ・しかし、北陸3県、中部6県、全国の状況との比較では、依然として、小規模校が多くなっている。



※富山県教育委員会の「全国公立高等学校—第1学年—募集状況調査」に基づく。
 ※グラフ中の数値は割合(%)、グラフ下の数値は校数を示す。

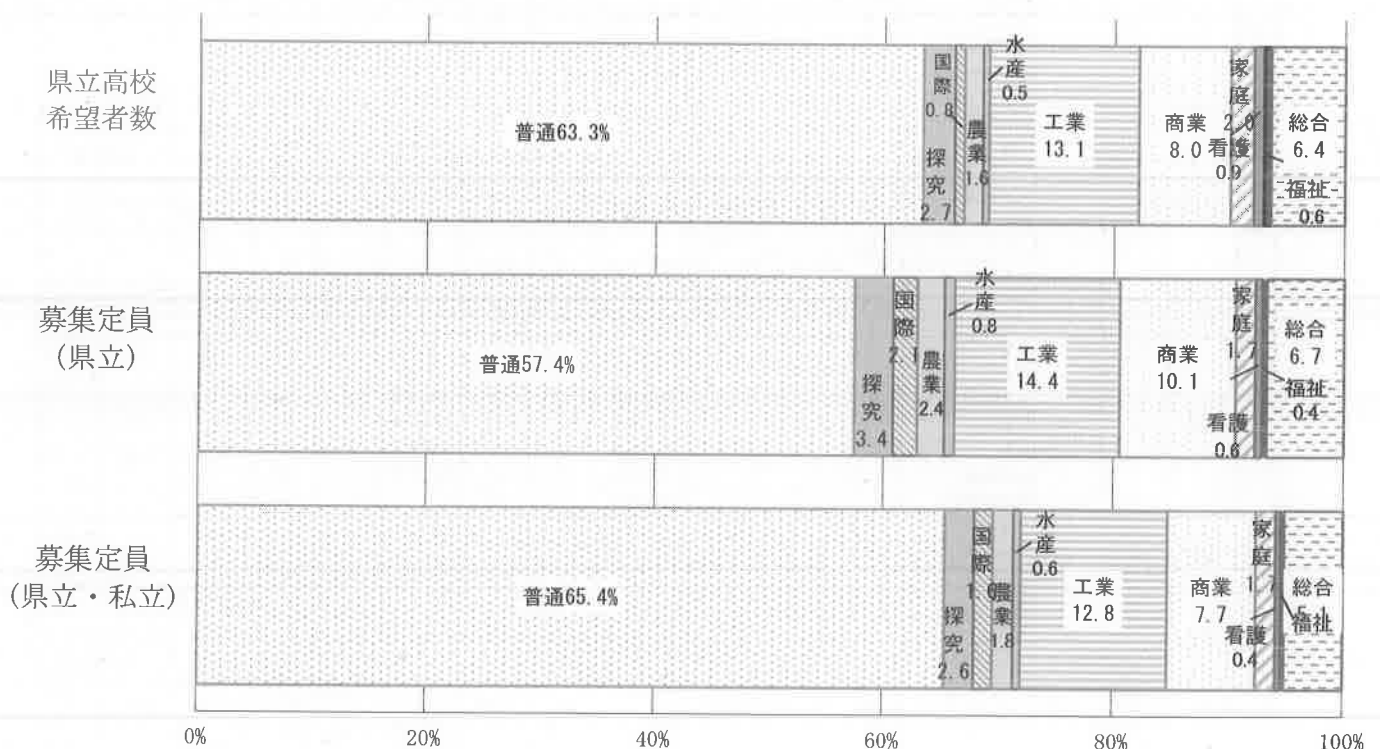
平成25年度 募集定員等調査結果に基づく都道府県立(本校)の設置数と平均学級数
 1学年当たりの平均学級数 全国平均、北陸3県、設置校数40校以下の県

県	設置校数	全クラス数	1校平均
奈良	32	215	6.72
和歌山	30	185	6.17
山梨	28	166	5.93
山福	27	159	5.89
香	31	173	5.58
宮	36	197	5.47
徳	31	167	5.39
石	38	195	5.13
鳥	22	111	5.05
大	39	197	5.05
富	37	180	4.86
佐	36	165	4.58
高	31	131	4.23
島	34	139	4.09
全	3,217	18,049	5.61

8 中学3年生の学科別進学希望状況と学科別募集定員割合

- ・県立高校(全日制)の各学科の希望と募集定員の関係について、募集定員が200名(5学級)以上の学科をみると、普通科、工業科、総合学科が、希望者数に比べ募集定員が少なくなっている。
- ・普通科、工業科については、私立高校が不足分の受け皿となっている。

区分	計 (人)	普通系の学科					職業系の学科					総合学科	
		普通科	探究科	国際科	農業科	水産科	工業科	商業科	家庭科	看護科	福祉科		
進学希望者	県立全日制高校 進学希望者数(H25.5)	8,898	5,634	243	74	144	48	1,162	710	179	78	54	572
	全体に占める割合	100.0%	63.3%	2.7%	0.8%	1.6%	0.5%	13.1%	8.0%	2.0%	0.9%	0.6%	6.4%
募集定員 △H26年度▽	県立全日制高校	7,144	4,104	240	150	170	60	1,030	720	120	40	30	480
	(対希望者比率)	80.3%	72.8%	98.8%	202.7%	118.1%	125.0%	88.6%	101.4%	67.0%	51.3%	55.6%	83.9%
	私立全日制高校	2,250	2,040	—	—	—	—	170	—	40	—	—	—
	県立・私立の合計	9,394	6,144	240	150	170	60	1,200	720	160	40	30	480



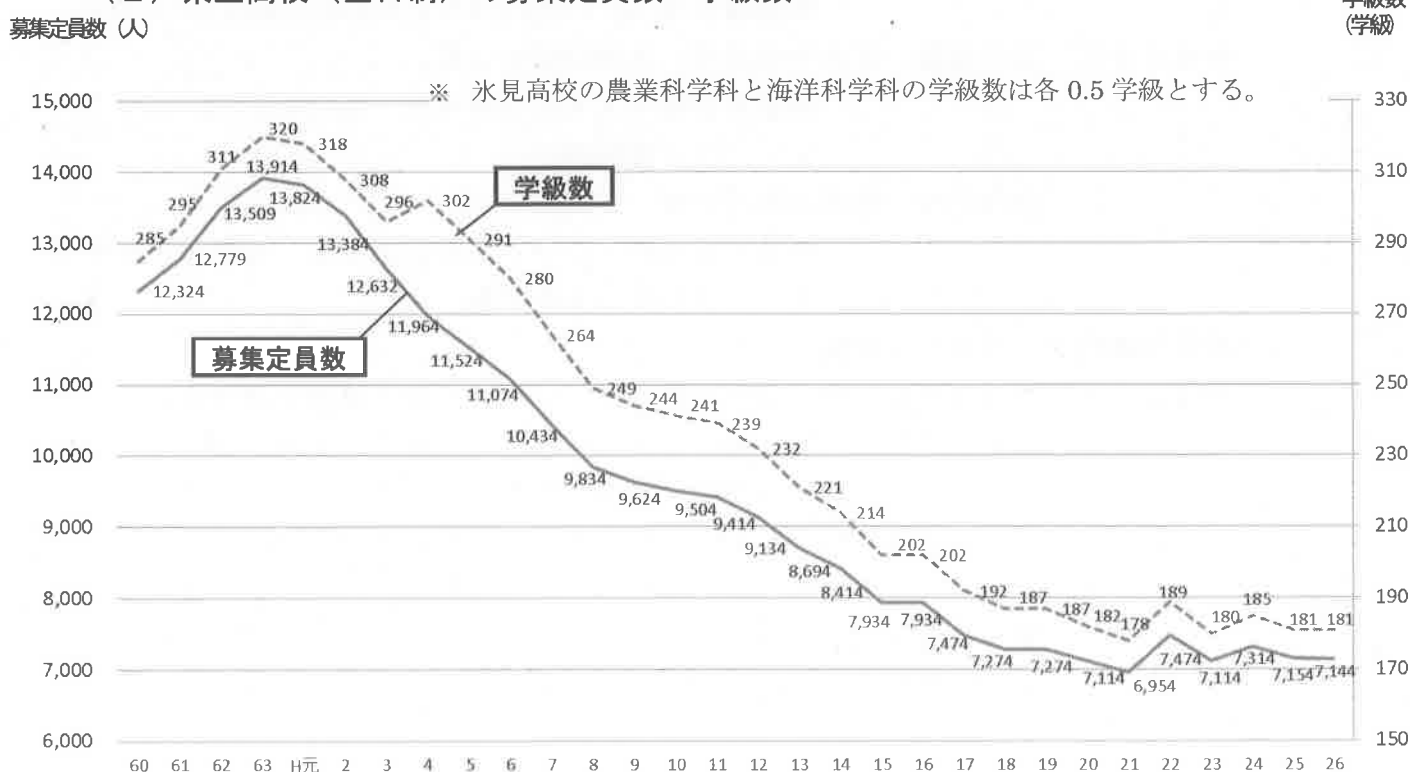
9 中学校卒業予定者数と募集定員の推移

・前期再編により、1校あたりの平均学級数は5学級程度に回復し、平成29年まではこの状況が続くが、平成30年以降、中学卒業者数は1万人を割り、平成34年には9千人を割るなど、長期にわたって急激に減少し、併せて県立高校（全日制）の募集定員も減少することが見込まれる。

(1) 中学校卒業予定者数・平均学級数・学校数



(2) 県立高校（全日制）の募集定員数・学級数



10 県立学校における近年の教育改革

平成20年以降、前期再編統合（5件の再編統合）に加え、探究科学科の開設、県民学習カレッジ富山学習センターを併設した雄峰高校、北陸初となる高等特別支援学校2校の新設などが行われた。

(1) 総合学科の設置（学科への移行と同時に単位制を導入）

平成7年	小杉高校	総合学科（←普通科・農業科学科）
平成9年	上市高校	総合学科（←普通科・農業科学科）
平成14年	富山いずみ高校	総合学科（←普通科・生活環境科）

(2) 学科改編等

平成11年	海洋高校	海洋技術スポーツ科、海洋食品情報科の開設 （←漁業科、機関科、水産食品科）
平成15年	中央農業高校	生物生産科、園芸デザイン科、バイオ技術科の開設 （←農業科、畜産科、園芸科、生活科学科）
平成17年	富山北部高校	くすり・バイオ科（←薬業科） 情報デザイン科（←情報処理科・商業デザイン科）
	二上工業高校	機械工学科（←機械科） 環境科学科（←土木科、環境科学科）
	伏木高校	国際交流科（←普通科）
	井波高校	福祉科（←生活文化科）
	福光高校	国際科（←普通科のうち1学級）
	福野、平、井波、福光の4校	広域連携総合高校（南砺総合高校）とし、単位制・2 学期制を導入。（平成22年に南砺総合高校方式を廃止）
平成23年	富山高校、富山中部高校、高岡高校の3校	理数科学科・人文社会科学科…（総称）探究科学科 （←理数科）
	魚津高校・砺波高校の2校	普通科単独校となり、進路別講座制、類型選択制を導入し、多展開授業を実施。

(3) 前期再編統合（学科、学級数）

平成22年	新滑川高校（総合選択制高校として）	←海洋高校・滑川高校
	新富山工業高校（ものづくりの中核となる総合工業科高校として）	←大沢野工業高校・富山工業高校
	新高岡工芸高校（ものづくりの中核となる総合工業科高校として）	←二上工業・高岡工芸高校
	新氷見高校（総合選択制高校として）	←有磯高校・氷見高校
	新南砺福野高校（総合選択制高校として）	←南砺総合井波高校・南砺総合福野高校

(4) 高等特別支援学校の新設

平成25年 富山高等支援学校（旧大沢野工業高校の校舎等を活用）

高岡高等支援学校（旧二上工業高校の校舎等を活用）

(5) 高等学校入学者選抜の改善

平成6年、7年 一般入試選抜で実技検査、傾斜配点の実施を可能とする。

平成14年 専門学科（理数科を除く）、普通科コースの推薦入試枠を50%に拡大

※コースを除く普通科は10%以内、理数科は20～40%

定時制の課程（単位制）において、後期入試を開始

平成16年 調査書の記載を相対評価から目標に準拠した評価に変更

平成18年 不登校等により長期欠席した志願者の自己申告書の提出を可能とする。

平成20年 推薦選抜募集人員枠の下限撤廃

自己申告書の提出選抜拡大（定時制の課程単位制前期1次等）

平成22年 普通科（除くコース）推薦入学者選抜の大幅縮小開始

平成24年 普通科（除くコース）推薦入学者選抜の完全廃止

外国人特別措置（志願時に入国後6年以内の外国籍を有する者対象）
を一般入学者選抜全日制、定時制で導入

<その他の改革>

①女子高校の共学化

平成9年 高岡女子高校 → 高岡西高校

平成13年 新川女子高校 → 新川みどり野高校

砺波女子高校 → となみ野高校

平成14年 富山女子高校 → 富山いずみ高校

②定時制単位制高校に多部制単位制を導入

平成13年 雄峰高校、志貴野高校、新設の新川みどり野高校

→ 三部制（昼間Ⅰ部・Ⅱ部、夜間）を導入

となみ野高校

→ Ⅱ部制（昼間Ⅰ部・Ⅱ部）を導入

※全日制に併置している定時制課程の募集停止

入善高校（H10）、泊高校、桜井高校、魚津高校、滑川高校、新湊高校（H13）

※雄峰高校の分校の募集停止・廃止

南砺分校（H13）、大沢野分校（H15）

③生涯学習校の設置

平成13年 新川みどり野高校（新川女子高校の共学化、定時制への移行に伴い、
県民学習カレッジ新川地区センターを併設）

となみ野高校（砺波女子高校の共学化、定時制への移行に伴い、
県民学習カレッジ新川地区センターを併設）

平成16年 志貴野高校（移転し、県民学習カレッジ高岡地区センターを併設）

平成25年 雄峰高校（移転し、県民学習カレッジ富山地区センターを併設）

11 本県高校教育における現状と今後の検討の視点

《社会の変化》

- グローバル化の進展
- 高度情報化、ネットワーク化の進展
インターネット利用人口普及率 (H23 全国) … 79.1%
- 価値観の多様化
- 産業構造・就業構造の変化 産業構造 (H17→H22 富山)
第1次 [4.2%→3.5%]、第2次 [34.4%→33.4%]、第3次 [60.9%→61.2%]
- 少子高齢化の一層の進行
合計特殊出生率 (H20 富山) … 1.38%
高齢化率 (H23 富山) …… 26.4%

1 高校教育の動向

(1) 高校入学生に関連する動き

- ・高い高校進学率 高校進学率 (H25.3 卒 富山) … 98.9%
- ・中学校卒業生数の減少 H25.3 卒業生は、昭和63年ピーク時の53%
- ・私立中高一貫教育校の開校 (H17.4)
- ・県民の学校へのニーズの多様化
規範意識の定着、学力の向上、産業の進展に対応した職業教育等

(2) 高校生活をめぐる動き

- ・基礎・基本的な知識・技能の習得、思考力・判断力・表現力等の育成のバランスの重視 (H21.3 学習指導要領改訂)
- ・我が国の学力は国際的に見て上位であるが、トップクラスとは言えない。
読解力は低下傾向に歯止め
- ・家庭学習時間の減少
- ・体験的な学習の実施
ボランティア活動 … 県立高校 (全日制) 全38校で実施
インターンシップ (H24) … 専門学科 98.8%、普通科 59.9%の生徒が体験
- ・社会性や規範意識の希薄化
公共の場等でのマナー等の低下、言葉や行動の乱れ
- ・中退等の問題
富山県の全日制中退者数 (H24) … 212人、出現率 0.9% (全国 1.5%)

(3) 高校生の進路をめぐる動き

- ・大学等進学率の上昇 卒業後の進路状況 (H16.3 → H25.3 卒富山)
大学・短大 [48.6%→52.4%]
専門学校等 [29.1%→25.0%] 就職 [19.4%→20.6%]

- ・大学入試の多様化と大学全入時代の到来
大学入試センター試験の変化、国公立大学が5教科7科目利用に増(H16)
大学教育の質が問われる時代 … 大学全入時代の到来
- ・高い高卒就職者の早期離職率
高卒就職者3年以内離職率(H22.3卒) … 33.5%(富山) 39.2%(全国)
専門教育と就職の関係
- ・ニート、フリーターの存在 … 卒後の進路状況(H25.3卒富山)
一時的就業者[66人0.7%(全国1.3%)]、その他[142人1.5%(全国4.9%)]
(「その他」は進学・就職・一時的就業者以外の者)

(4) 国の教育改革の動き

- ・グローバル化に対応した教育環境づくりの推進
- ・将来の国際的な科学技術系人材の育成を図る先進的理数系教育の推進
- ・キャリア教育・職業教育の充実
- ・能力・意欲・適性を多面的・総合的に評価・判定する大学入試への転換

2 多様な学校づくり

(1) 総合学科高校の設置(H7~)

小杉(H7~)、上市(H9~)、富山いずみ(H14~)

(2) 新学科の設置

看護科(H14~) 国際科(H17~) 福祉科(H17~) 探究科学科(H23~)

(3) 新しいタイプの学校づくりの動き

- ・単位制高校(新川みどり野、雄峰、志貴野、となみ野、小矢部園芸)
- ・ものづくりの中核となる総合工業科高校の新設(H22~)
- ・総合選択制高校(滑川、氷見、南砺福野)の新設(H22~)

(4) 全国における新しいタイプの学校づくりの動き

- ・公立中高一貫教育校(H24 全国:中等教育学校 28校、併設型 74校)
- ・その他 総合産業高校 科学技術高校 進学対応型単位制高校 等

3 地域との連携を深める学校づくり

(1) 高校と大学との連携、インターンシップの実施、地域人材の活用等

(2) 学校評議員制度・学校評価システムの導入

※信頼される学校づくりの推進

(3) 全国における動き

※コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入

4 高校教育充実のための環境づくり

(1) 通学区域

- ・専門学科、総合学科は県下一円
- ・普通科は新川、富山、高岡、砺波の4通学区域を設け、隣接する通学区域の高校への入学を認める(昭和37年から隣接通学区域可)
※通学区域廃止した県…石川県(H17)、福井県(H16)

(2) 高校入学者選抜制度

①推薦入試(全日制)

- ・専門学科(理数科学科、人文社会科学科、国際科、国際交流科を除く)および普通科コースは、募集定員の50%以内(水橋、呉羽は60%以内)の推薦枠
- ・総合学科は40%以内
平成25年度入試…34校70学科実施、募集定員1,333人(総定員の18.6%)

②一般入試

- ・一般入試で傾斜配点可能(H7~)
- ・調査書、学力検査の一方が募集定員の上位10%以内にある場合、その一方により可否を判定することが可(H11~)

5 望ましい規模と配置

(1) 高校の小規模化の進展

- ・平均学級 … (H21)4.14 → (H22)4.97 → (H25)4.76
- ・3学級以下校数 … (H21)16校 → (H22)8校 → (H25)8校

(2) 学級定員

- ・原則として、1学級あたり40人
- ・学科、コースの特殊性に配慮し40人を下回る学級編制も実施
(8校11学科、1コース)
- ・習熟度別授業等を導入し、実質的に少人数で指導できるように工夫。

(3) 普通科・専門学科・総合学科等の学科の設置割合(普職比率)

- ・平成元年8月の「富山県産業教育審議会」の建議を踏まえ、以来、普通科66%程度、専門学科34%程度(総合学科を除く)を基本に設定している。
※平成12年10月の同審議会の建議では、「中学生の進路希望や県民のニーズ、本県の産業構造などをもとに、現在の比率を基準として弾力的に扱うこと」としている。
- ・産業の構造、生徒の希望などに即した学科構成についてさらに検討する必要がある。

(4) 学校・学科の規模と配置

- ・H19.12「県立学校教育振興計画基本計画」では、「県立高校の学校規模は1学年5から6学級(200から240人)を基本とし、1学年4から8学級(160から320人)の規模の学校を配置することが望ましい。その際、地域の実情や学校の特色、生徒の通学の便等を勘案し、また地区バランスも十分に配慮しなければならない」とされているが、今後さらに検討する必要がある。
- ・中卒予定者数の動向を踏まえ、公私比率、普通科と職業科の比率(普職比率)、地区バランス等を勘案して配置する。

(5) 県立高校の受け入れ割合(公私比率)

- ・公私協調の態勢により高校教育の充実を図ることを目的とする「富山県公私立学校高等学校連絡会議」の合意に基づき設定。平成26～28年の全日制県立高校の受け入れ割合は、中学校卒業予定者数の71.2%程度。

3 県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題に関する検討委員会

1 これまでの検討経緯

県立高校将来構想策定委員会

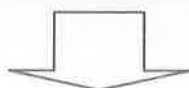
計7回開催（H17.7～H18.3）

[検討事項]

- 1 生徒の多様な個性や学習ニーズに対応した県立高校の教育の充実に関すること
- 2 生徒減少期における県立高校の望ましい規模や配置など生徒の学習環境の整備に関すること

〔パブリックコメント [H18.2.10～3.10] 52人 331件〕

県立高校将来構想の基本的な方向について（H18.3.29）



県立学校教育振興計画策定委員会

計6回開催（H18.5～H19.12）

[検討事項]

- 1 生徒の多様な個性や学習ニーズに対応した県立高校の教育の充実に関すること
- 2 生徒減少期における県立高校の望ましい規模や配置など生徒の学習環境の整備に関すること
- 3 県立特殊教育諸学校と県立高校の連携など県立学校における障害のある児童生徒の学習環境の整備に関すること

県立高校の教育形態等検討小委員会（計6回開催）

日常的な教育活動、学校の形態・仕組みの革新、県立高校の規模と配置等

学科構成等検討小委員会（計5回開催）

各学科の定員割合、各学科の在り方、配置等

特別支援学校等検討小委員会（計4回開催）

特別支援学校の再編と配置等

地域小委員会（計3回開催）

地域における県立学校の在り方

〔パブリックコメント [H19.11.10～12.9] 67人 206件〕

地域説明会 [H19.11]

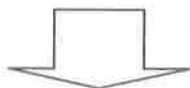
・新川地区(149名) ・砺波地区(154名)

・高岡地区(183名) ・富山地区(160名)

○地域のPTAや中学校長会等において15回開催

[H20.1～2]

県立学校教育振興計画 [基本計画]（H19.12）



県立学校教育振興計画推進会議

計 5 回開催 (H20.1~H22.3)

[検討事項]

- 1 県立高校の教育の充実に関すること
- 2 県立高校の規模・配置に関すること
- 3 県立特別支援学校の配置等に関すること
- 4 その他、県立学校の教育改革の推進に関すること

富山県教育委員会 (H20.3.31)

「前期計画における再編統合の基本的な枠組みについて」



〔5 件の再編統合後の新高校について、県教委内に設置したプロジェクトチームにおいて検討 [~H20.12]〕

富山県教育委員会 (H20.7.7)

「前期計画における 5 件の再編統合に係る検討状況について」



〔□ 第 1 回産業界との意見交換会 [H20.7.25]
□ 第 2 回産業界との意見交換会 [H20.8.1]〕

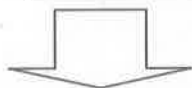
富山県教育委員会 (H20.8.4)

「前期計画における再編統合後の新高校の骨格 (素案) について」

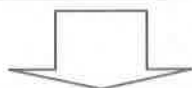


〔意見募集 [H20.8.11~9.30] 60 人 120 件
〔地域説明会
○地域の PTA や中学校長会等において 9 回開催
[H20.8~11]〕〕

前期計画における再編統合の「実施計画」(H20.12.25)



県立高校前期再編 (H22.4)



県立高校再編 (前期計画) の評価と今後の課題に関する検討委員会

計 4 回開催 (H25.8~H26.6)

[検討事項]

- 1 県立高校再編 (前期計画) の状況について
- 2 県立高校再編 (前期計画) の評価について
- 3 今後の課題について

2 設置要項

(設置)

第1条 県立高校再編前期実施計画による新高校5校の教育充実の状況を把握するなど、県立高校再編前期実施計画の評価について多面的な意見交換を行うとともに、県立高校教育の一層の充実に向けた今後の課題について検討するため、「県立高校再編（前期計画）の評価と今後の課題に関する検討委員会」（以下「委員会」という。）を設置する。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 県立高校再編（前期計画）の状況の把握に関すること。
- (2) 県立高校再編（前期計画）の評価に係る意見交換に関すること。
- (3) 県立高校教育の一層の充実に向けた今後の課題の検討に関すること

(組織)

第3条 委員会は、委員10名以内をもって組織する。

2 委員は、学識経験者、教育関係者、保護者、経済界関係者のうちから教育長が委嘱する。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に、委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選により定め、副委員長は、委員長が指名する。
- 3 委員長は、会議を進行する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故がある時は、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、教育長が招集し、委員長が議長となる。

(委員の任期)

第6条 委員の任期は、平成26年7月31日までとする。

(アドバイザー)

第7条 専門的立場からの意見を聴くため、委員会にアドバイザー若干名をおくことができる。

- 2 アドバイザーは、学識経験者のうちから、教育長が委嘱する。
- 3 アドバイザーは、教育長の要請に応じて委員会に出席するほか、委員会の所掌事務に関する事項に対して助言を行うものとする。

(幹事)

第8条 委員会に幹事を置く。

- 2 幹事は、富山県教育委員会事務局職員のうちから教育長が任命する。
- 3 幹事は、委員会の事務を処理する。

(事務局)

第9条 委員会の事務局は、富山県教育委員会県立学校課に置く。

(細則)

第10条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営その他必要な事項は、教育長が別に定める。

附則

この要綱は、平成25年8月27日から施行する。

附則

- 1 この要綱は平成26年4月1日から施行する。
- 2 この要綱は平成26年7月31日限り、その効力を失う。

3 委員名簿

(五十音順、敬称略、役職等は就任時)

役 職	氏 名	所 属 等
委員 長	神川 康子	富山大学人間発達科学部長
副委員 長	荒井 克博	富山県民生涯学習カレッジ学長
委 員	梅田ひろ美	富山県商工会議所女性会連合会長
〃	大橋 聡司	富山経済同友会幹事
〃	河田 悦子	高岡市教育委員
〃	木下 晶	富山県高等学校長協会会長
〃	藤井 久丈	富山経済同友会幹事
〃	毛利 一朗	富山県高等学校PTA連合会長
〃	藪 道子	富山県PTA連合会副会長
〃	結城 正斉	射水市教育長

アドバイザー	飯田 浩之	筑波大学大学院人間総合科学研究科准教授
	耳塚 寛明	お茶の水女子大学理事・副学長

4 委員からの主な意見

(1) 第1回

- 1 日時 平成25年8月27日(火) 午前10時～12時
- 2 場所 県民会館 302号室
- 3 議題 県立高校再編(前期計画)の状況について
- 4 意見交換

<再編の状況>

○前期再編の全体的な印象について

- ・高校教育関係者の長年の課題であった高校再編が実現し、成果が現れている。その一方では地域に愛された学校が募集を行わなくなったという痛みも伴ったが、それを補って余りある。切磋琢磨できる教育環境が整い、しっかりした高校生を育てるための学校規模が確保できた。
- ・生徒や教員の感想から、とても良い学校になったことが分かる。他の学校でも実施してもいいのではないか。

<評価>

○評価の在り方について

- ・評価は、「再編」と「教育改革」の2つの面から行えばよい。
- ・評価は、できる限り客観的な資料に基づいて行えばよい。
- ・数値化できないことについては、生徒や保護者、高校の教員の意見等も検討の参考となる。

○評価の具体について

- ・できるだけ幅広く、中学校側の教員、地域の人々、小中高校の保護者、高校の教員等、新高校に関わる人たちの意見を聞かせてもらいたい。
- ・アンケートでは、数字だけでなく、生徒の生の声も聞きたい。何が不満か、何が満足か、具体的な意見を示してもらえると多少実像が浮かんでくる。
- ・各地域の心のよりどころとしての学校がなくなることで、地域がどうなったかということについて知りたい。
- ・中学生の進路選択においてどのような影響があったかを知りたい。
- ・小規模な学校から移ってきた学科が、規模の大きい学校と統合して活性化したのかどうかに焦点を当てたい。

○高校からの聞き取りについて

- ・「魅力ある学校づくりのための仕組み」には、こういう学校にしたいという願望が書かれているので、これらがきちんとなされているかの検証・評価が必要である。大事なのは教員の意識であり、教員がどのくらい再編の趣旨を共通理解して意欲的に取り組んでいるかによって、生徒にその思いが届くかどうか決まってくる。
- ・総合選択制や系ごとの共通科目の設定という面で教員の評価の低さが気になる。目標が高いためなのか、手探りの面があるからなのか、長い目で見た方がいいからなのか、カ

リキュラムの面を、先生方の意識と併せて見たい。

○今後の課題について

- ・小規模校の存続については、前期計画でも議論され、学校運営面で問題が多いと言われているが、地域によっては特色ある学校として残してほしいという要望も想定されるので、この点についても改めて検証する必要があるのではないか。

(2) 第2回

1 日 時 平成25年11月26日(火) 午前10時～12時

2 場 所 県庁 4階大ホール

3 議 題 中学校や新高校5校の校長からの聞き取りについて

4 意見交換

<成 果>

○再編前期実施計画について

- ・再編統合のねらいであった一定の学校規模を確保することによって、生徒同士が切磋琢磨できる教育環境の下で教育力の向上を図ることが、5校とも十分に達成されている。
- ・再編統合した学校のこれまでの伝統を引き継ぎ、よいところを伸ばしていくという点で計画はうまくいっている。新しいことをさらに取り入れるということはあまり無理しない方がむしろよいのではないか。それぞれの学校のよかった点を生かしていくというところで成功しているのではないかと思う。
- ・新高校5校の教育内容については、順調に充実が図られていると思う。間違いなく、再編した二つの学校の力を合わせて活性化しているということが確認できる。

○部活動等について

- ・部活動については非常に活性化している。この活性化が、生徒の生活面における向上にもつながっている。服装などの面でよくなっているということについては、子供達が学校に誇りを持っているということの現れだ。先生方が一体感を持って指導に当たった成果ではないかと思う。
- ・新高校5校すべて、文化・芸術系の部活動をはじめ、スポーツ系の部活動についても、順調に成果を上げていることも確認できる。

○総合制高校における魅力づくりのための取り組みについて

- ・HIMI学、とやま地球学などの地域と連携した学習や、地域行事への参加、ボランティア活動など、地域の方々に受け入れられている活動が数多くあり、それぞれの地域への貢献度も高いということが分かった。
- ・学習面においては、生徒の選択科目が増えた。1学年に複数の教科の担任を置くことが可能となったことから、個別指導や個に応じた指導が可能になった。
- ・コミュニケーション入門、HIMI学、とやま地球学などは当初のねらいを生かして、子供達の表現力や思考力を高めていることが分かった。
- ・総合選択制の活用など、様々な努力により生徒達の学習意欲は向上している。普通科と専門学科の間の相乗効果もあり、進学したいと思う専門学科の生徒もいれば、新たな学

習内容について関心を持つ普通科の生徒もいるということがよく分かった。

- ・多くの学科の生徒を見ることによって、生活の規範、生活姿勢、服装等々についても見直され、学校生活への意欲が高まり、一人一人の生徒の目標設定が明確になってきているのではないかとと思われる。

○ものづくり中核校における魅力づくりのための取り組みについて

- ・2校においては、ものづくり学が学習活動の充実に十分に生かされていると思う。富山工業高校では、機械、電気、建設といった工業科の基幹学科のそれぞれに複数クラスあるという利点を生かし、ものづくり学に加えて系の学習を充実させているということが確認できた。高岡工芸高校では、二上の伝統を継承した環境学習を全学科通じて行うことがきちんとなされているということや、課題研究などで、芸術関連学科とのコラボレーションが見られるなど、ものづくり学の成果が現れていることが確認できた。

<課題>

○総合選択制について

- ・総合制の3校については、総合選択制の形態や内容に学校によって違いがあるが、普通科の生徒が職業関連科目を多く履修している滑川高校方式を参考にするなど、この制度の充実をさらに図ることが望ましい。

○学力差への対応について

- ・生徒数の増加による学力差については、各校の生徒の実態に応じた対応の工夫・改善が必要である。

○ものづくり中核校のセンター的機能の充実について

- ・ものづくり中核校としては、自校だけでなく他の工業科単独校を牽引する役割も担っているため、センター的機能を果たすことが望ましい。

○中学生の進路選択幅の狭まりへの対応について

- ・再編統合により中学生の進路選択の幅がいくぶん狭くなることについては、今後、普通科同士が再編統合するケースも想定し、中学生の受け皿をどうしていくかという観点から考えていく必要がある。

(3) 第3回

1 日時 平成26年2月10日(月) 午前10時～11時30分

2 場所 県庁4階大会議室

3 議題 県立高校再編(前期計画)の評価について
本県県立学校の現状と課題について

4 意見交換

<再編の評価>

- ・生徒のアンケート結果について、おしなべて満足度が高く、不満という回答が少ない。再編統合校において先生方が一生懸命教育活動に取り組んでいる成果だと思う。
- ・滑川高校の「コミュニケーション入門」や氷見高校の「HIMI学」など、統合に際しての各校の魅力ある取組が成果を出しているようだ。
- ・統合前の定員割れが統合後に解消されており、適切に改善されていると思う。

- ・統合した2校の距離が近い滑川と氷見においても通学時間の長い生徒が増えたということは、新高校が、施設設備やカリキュラム等の充実により魅力が増し、遠くからでもその学校に通いたいという生徒が増えた結果ではないか。

<現状と課題>

○学校規模・配置について

- ・将来の中学卒業予定者数を見ると、いずれ次の再編があつてしかるべきであり、今後適切な時期に高校の数や学科について検討する場が必要になると思う。
- ・今後の中学卒業予定者数の減少に学級編制だけで対応することは困難である。
- ・適正な学校規模という視点から資料を見ると、もう少し再編していく必要がある。
- ・子どもの数が減るから高校再編するというだけではなく、国の教育制度改革の方向を見据えて対応すべきでないか。
- ・人数・数合わせ・合理化という視点だけではいけない。
- ・学校の規模が小さくても残さなければならないという場合も想定されるので、小さくても多様な教育が受けられる工夫が可能かどうか検討してみる必要があるのではないか。
- ・生徒の学力等には個人差があり、それぞれに合った受け皿となる高校がバランスよく配置される必要がある。

○地域との関係について

- ・次の再編を実施するとした場合、前期再編以上に地域との関係の問題が大きくなると思うので、マイナスの部分を少なくするように丁寧に議論を進めていく必要がある。
- ・地域の実情などを考慮した検討が必要だが、高校教育の質を維持する観点から再編を進めるべきである。
- ・再編の議論では、子どもにとって何がよいのかを考えることが基本である。
- ・小中学生の保護者の間で、高校の存続について噂が飛び交っている。不安を解消するため、今ある高校が少なくとも何年まで存続するかを示してもらいたい。
- ・学校に一定程度の規模が必要とされていることは分かるが、地域性や学校の歴史・伝統に鑑みて一律というわけにはいかないということも分かる。

○学科等について

- ・産業のニーズだけでなく、生徒の希望を尊重していかなければならない。
- ・生徒数が減少する中で、職業科で1学級1学科の職業科について、どのように対処するか考えなければならない。
- ・職業系高校、中高一貫校、普通科高校など、子供達にどういう教育環境を提供してあげたいのかという視点で考えなければならない。
- ・再編を検討する際には、各学校の取組を十分汲み取って新しい学校づくりに活かされるようにしてほしい。

(3) 第4回

- 1 日時 平成26年6月4日(水) 午後2時～3時15分
- 2 場所 高志会館2F 嘉月(201)
- 3 議題 「県立高校再編(前期計画)の評価と今後の課題」(案)について

4 意見交換

<再編の評価>

- ・前期再編は、2つの狙いがあったが、切磋琢磨することにより、学力をはじめ、規範意識や学習意欲での伸長が見られたということ、総合的な学習方法や工業高校のものづくり学など、新しい仕組みを導入し、きちんと行われているということが確認できた。
- ・この再編によって、単に学力だけでなく、コミュニケーション能力や表現力、規範意識など、学校教育ならではの人間形成がより前進したということを確認できた。
- ・前期計画の学校規模に関しては、概ね評価できる。新しい学校づくりに対してもしっかりと評価が得られ、大変よかったと思う。
- ・学校それぞれの特徴を生かすことが必要であり、子供たちの地域に対する愛着、郷土愛などを伸ばしていくことは非常によいことである。
- ・前期再編は、本県中等教育の中でも大きな出来事であり、当初、生徒、保護者にとってよくない影響があるのではないかと懸念されていたが、各学校とも魅力づくりに奮闘され、生徒も心を合わせて新しい学校づくりに参加いただき、よい成果が出たものと思う。
- ・新しく統合された学校に通う生徒はとてもいきいきとして、部活動や勉強などにがんばっている様子がわかり、再編後の新しい学校は成功していると思う。
- ・再編にはプラスとマイナスの面が出ると想定されていたが、結果は、想定以上の成果があり、懸念されていた部分は最小限におさまっており、よい再編になったと思う。
- ・プラスの面が非常に印象に残っているので、計画以上に成果があったと思っている。
- ・再編がうまくいった背景には、地域、学校、生徒、保護者に丁寧に説明をされてきたこと、厳しい財政事情にもかかわらず新しい学校の施設整備を充実されたこと、新しい学校において、元々の学校の特色を活かして、新しいカリキュラムも組まれるなど、ハード・ソフト両面での様々な取り組みがあったと思う。
- ・何よりも現場の先生方が再編を成功させるという強い意欲を持って努力されるなど、いろんな方のご努力のおかげで大変よい結果になったと思っている。
- ・校舎がなくなる学校においても、校長をはじめ教職員が一生懸命努力し、生徒も気持ちを合わせて高校3年間まっすぐに進んだということを知っている。
- ・前期再編は、大変うまくいっていると思う。ただ、学校がなくなった地域が残念な思いをしている。それに報いるためにも新しい学校が光り輝くことが大事である。報告書の中には表れないが、子供たちの学校に対する思いや、先生方の思いなど、新しい学校ができる礎になったことを、何とかつなげていただきたいと思います。

<今後の課題>

- ・今後、生徒の学力差の問題などに対して、詳細なフォロー、個別の対応ということをしつかりとやっていくということが大切である。
- ・教育は信頼をつなぐ営みであり、前期再編は多くの方の努力によってその信頼をしつかりとつないできた。このことは記憶に留めておくべきではないかと思う。

- ・これまで、富山の教育は評価されており、富山の教育、高校の特徴が、他県からわかるような仕組みが必要ではないかと思う。
- ・今後、普職比率について、根本的にどう考えていったらよいのかという議論が必要だと思う。また、公私比率の問題もある。中高一貫などの学校の形態も今後、検討される必要があると思う。
- ・中学校卒業予定者が1万人を割って減少していく中で、現在の高校の規模を維持していくことは、施設や人数の面からも望ましいことではないと思うが、一番心配しているのはバランスのことである。
- ・後期再編では、人口の少ない地域ほど学校がなくなっていくという心配がある。また、職業科は重要だが、だからと言って普通科を再編のターゲットとしていくとなると、普通科が少なくなっていく。希望する生徒の思いに合わせて、バランスに気をつけていただきたい。

<検討経過・とりまとめ（案）について>

- ・確認に当たっては、高校長、中学校などからの聞き取りや、生徒や教員から悉皆によるアンケート調査の実施など、満足度、規範意識、学習に対する意欲なども浮かび上がらせていただき、事務局の努力に対しても敬意を表したい。
- ・学力はすぐに効果が上がるわけではないが、アンケートの具体的な数字として、学習意欲が上がるなどの評価がある程度得られたということは、大きな評価である。
- ・進路の面でも、地域の方々の声や中学校の生徒、保護者、先生の声として、各高校の特色がよくわかったという意見をいただけたこともよかったと思う。
- ・入学時の学力の幅が少し広がった面で、どうやって一人ひとりを育てていくかという課題を持って、各高校でいろんな形で取り組んでおられるという話も聞くことができ、次の課題を明確にしていくという意味で大変よかったと思う。
- ・全体として前期再編の狙いが十分達成されたと思う。高校、中学校の校長先生方の生の声として、部活動や、学校行事などの特別活動では、短期的に効果が表れたということなどを聞かせていただき、大変よかった。
- ・再編された校長等の話を聞き、生徒がいきいきと学校に通っているということであり、非常にうまくいったのだろうと総合的に思っている。特に記憶に残っているのが、土木科が富山工業高校、高岡工芸高校の2校に移り、非常にプラスになったことを聞いている。
- ・前期再編がよかったということで、次の生徒減への対応につなげることができる。
- ・「今後の課題」についても、一定規模の確保の重要性や中高一貫教育校など新しいタイプの高校の設置、今後の時代の進展を見据えた人材育成の必要性などがきちんと書いてあるし、定時制高校や特別支援学校についても検討する必要があるということも書いてあり、この段階としてはずいぶん踏み込んだ記述になっていると評価したい。あわせて随所に「丁寧な検討」、「慎重な検討」という文言があり、これも大変結構なことと思っている。

5 アドバイザーからの意見（概要）

- 再編の効果や影響を把握するために、基本統計の整理のほか、中学校への聞き取り調査、校長への聞き取り、卒業生質問紙調査等、ていねいな調査分析がなされている。
- 「学校規模が確保され、生徒相互に切磋琢磨できる教育環境が整備された」との総括的評価は、概ね首肯できる評価である。

I 前期再編の評価について

1 学校規模について

- ・学校規模が確保できたことにより、再編校においては生徒が切磋琢磨できる環境が整ったと言え、県全体を見渡した場合、そうした環境の学校が増えたことは確かである。
- ・生徒が切磋琢磨し、それぞれの能力や資質を伸ばし得ているかどうかについては、検証が難しいが、資料を見る限り、その可能性はかなり高く、再編の所期の目的は達せられつつある。
- ・学校規模の確保によって再編校では設置学科が増え、受験する中学生の学科選択の幅が拡大した。生徒の多様なニーズに対応できるようになったことも、再編の成果であったとみてよい。
- ・今回は専門学科を設置する学校同士の再編であり、成果が得られやすかったと思われる。再編が普通科に何をもたらしたかについては、十分に捉えきれていないように思われる。

2 教育活動の充実について

(1) 学力動向・進路状況

① 学力の充実

- ・学力の向上では、生徒の自己評価での判断ではあるものの、半数、あるいはそれ以上の生徒が「学力を伸ばすことができた」、「学習意欲を高めることができた」などと答えていることから、再編が生徒の学力を高める方向に進んだと思われる。
- ・再編による生徒数の増加とそれに伴う学力の幅の増大にどのように対応するかは、課題であると言える。

② 進路の実現

- ・中学校からの聞き取りによると、前身校の伝統を継承したことが功を奏し、地元の企業等への就職という堅実な進路を確保することにつながっている。

(2) 部活動

① 部活動の活性化

- ・部活動における選択の幅の拡大は、この再編において特記できる点の一つであり、新たな学校における部活動の活性化につながっているように思われる。

② 生活面での生徒の意識向上

- ・「中学校からの聴き取り調査結果」を見ると、再編は、「生徒の意識向上」につながったようであり、「志願状況」とも関係して、新高校は、周囲からよいイメージで捉えられている。

3 新高校における魅力づくりのための取組みについて

(1) 総合選択制高校3校における取組み

① 総合選択制

- ・学校規模の確保は、設定できる教科・科目の種類と数を増やすことにつながり、生徒の科目選択の幅を拡大でき、生徒の多様なニーズへの対応も可能となる。
- ・「総合選択制」を取り入れた学校においては、生徒の進路にも幅ができ、また、生徒の学習意欲も向上したものと認められる。
- ・ただ、「総合選択制」のメリットが、どの程度生かされているかは、やや、疑問が残る。

② 学校設定科目

- ・どの学校においても、独自に設けた科目を有効に活用しながら、生徒の学習を活性化し、科目が目標とする生徒の力を育成・伸長していると判断できる。
- ・学校設定科目は、どの学校も、教育課程上どのように位置づけるか、十分な検討がなされているものと思われる。それが、再編を通じて、学校の力の増強につながっている。
- ・再編においては、その後の学校づくりの「核」となるものが必要であり、学校設定科目は、そうした「核」としての役割をするものと思われる。

(2) ものづくりの中核となる総合的な工業科高校2校における取組み

① ものづくり学

- ・「ものづくり」が県の特色でもある富山県において、「ものづくり学」が新たな学校に位置づけられたことの意味は大きく、どの学校においても一定の手応えが得られているようで、その成果も確実なものであると思われる。

② 学校の特色を生かす試み

- ・今回の再編の特徴の一つは、再編対象校の伝統を引き継ぐ形で新高校をスタートさせたことにある。
- ・今後の再編において、どのように「学校の特色を生かす試み」を行っていくのかこの点において課題を多とするケースも出てくるものと推測される。

4 志願状況及び通学状況

(1) 志願状況

- ・再編前に小規模校にあった学科における再編後の志願倍率は、驚くほどである。
- ・再編後の新高校が「新」でなくなり、「改革」が当たり前となった時に、なお、中学生を惹きつけ続けることができるのか。新高校の「実質」「実績」が問われてくる。

(2) 通学状況

- ・通学に30分以上かかる生徒の割合が増えたという事実は、学校の魅力が増し、広範囲から生徒を惹きつけられるようになった結果かと推測される。
- ・再編によって通学に不便を来す生徒が増えることは、生活や勉強の面を考えると問題である。今後の再編では、できるだけそのようなことにならないように留意する必要がある。

5 施設・設備の充実について

- ・再編校における実習棟の新設は、新たな学校の魅力づくりに一役買っている。実際の教育に十分活用されることや教育方法の工夫につながることを期待される。

6 前期再編の総括的評価

- ・全体として、再編は、学校の「底上げ」につながったように思われる。

II 今後の課題について

1 新しい時代への対応

- ・今回の評価・検証の成果を、後期計画の策定・実施に生かすことを考えなければいけない。
- ・富山県の高校教育全体を考えた場合、「定時制高校、特別支援学校の配置についての見直し」も含めて、富山県の高校教育全体を見据えて、計画の策定・実施が進められることが望まれる。
- ・前期計画の策定・実施において掲げられていた「生徒が切磋琢磨できる環境の整備」といった理念の継承も含めて、理念のある改革であるべきである。
- ・平成30年以降の中学校卒業予定者数の予測をみるに、速やかに改めて検討委員会を設置して検討を開始する必要がある。第1期より第2期再編のほうが直面する困難が大きいと思われる。
- ・その際、より広い視野から県立高校全体の教育改革を目指したものとすることが不可欠である。グローバル化や高等教育の変化、雇用や産業構造の変化など、考慮すべき視点は多い。

2 望ましい学校規模・配置

- ・望ましい学校規模・配置については「高校教育の質の維持の観点」も、大変重要なことと考える。再編によって、どのような教育が構想・実践され、どのような生徒が育つのかという「質の問題」として考えていく必要がある。「学校規模・配置の望ましさ」が、「高校教育の望ましさ」に直結するような改編が望まれる。

3 学科の構成・配置

- ・生徒の多様なニーズに応えうる学科を、できるかぎり生徒がその希望に即す形で選ぶことができるように、また、地域の様々なニーズをできるかぎり反映できるように、学科を構成・配置することが重要である。
- ・個別のケースについて、多角的な視点から検討を加え、慎重に結論を出すことが大切である。

【評価する上での留意事項】

- ・可能な限り、客観的な指標に基づいて評価することが大切。
- ・統合再編は、再編校周辺の他校への影響についても把握しておくことが必要。
- ・再編の実行手順や手続きへの評価も整理しておくことよい。
- ・ネガティブな評価も包み隠さず示すことが大切。
- ・学校の経済運営において効率化が可能となったのかという財政面の評価も大切。
- ・再編が教職員とその組織にどのような影響を与えるのか等、実際に教育に当たる教員の立場にも、配慮が必要。

